

# 市原市稲荷台遺跡L1・L4地点

2015

市原市教育委員会

いなりだい  
市原市稲荷台遺跡L1・L4地点

2015

市原市教育委員会



## 序 文

千葉県市原市は、房総半島のほぼ中央に位置し、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれています。そのため有史以来、多くの人々がこの地で暮らしてきました。「王賜」銘鉄剣や史跡上総国分寺跡などに代表される文化遺産が、これらの先人たちの足跡を今に伝えています。

本市は、首都圏に位置し交通の便も良いことから、高度経済成長期には住宅団地やゴルフ場などの多くの開発が実施され、それに伴い国分寺台地区などでは大規模な発掘調査が行われました。今日、遺跡のあった場所は住宅などが建ち並び、一部の遺跡保存区域を除き太古の面影は一変しております。

現在では、このような大規模開発の波は沈静化しておりますが、本市としては、地域経済や文化の活性化のために、さらに基盤整備を進めていく必要があります。こうした中で、文化財の保護と開発の調和を図りつつ、貴重な歴史的文化遺産を保護し、後世に伝えていく努力を重ねているところです。

本書は、平成24年度と平成25年度に県費補助を受けて実施した、宅地造成と個人住宅建設に伴う発掘調査の成果をまとめたものです。本書が、学術資料としてはもとより、多くの市民の方々が郷土の歴史に関心を高め、埋蔵文化財の保護と重要性を理解していただくための資料として広く活用されることを願います。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまで、御指導、御協力を賜りました千葉県教育庁文化財課を始め関係諸機関各位に心より御礼申し上げます。

平成27年2月

市原市教育委員会  
教育長 白鳥 秀幸



# 例 言

- 1 本書は、県費補助を受け、市原市教育委員会が主体となり実施した稲荷台遺跡L1・L4地点の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書所収の発掘調査は以下の2件である。所在地などの諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。
  - (1) 稲荷台遺跡L1地点(調査コード、セ505) 本調査 337㎡  
調査期間:平成24年10月16日～11月5日 担当 近藤 敏
  - (2) 稲荷台遺跡L4地点(調査コード、セ522) 本調査 25㎡  
調査期間:平成26年1月14日～1月28日 担当 近藤 敏
- 3 稲荷台遺跡L地点全体を対象とした確認調査、L2地点・L3地点の本調査については、別途報告している。  
市原市教育委員会2007「稲荷台遺跡L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』  
市原市教育委員会2014「稲荷台遺跡L2地点・L3地点」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』
- 4 本書の遺構作図は近藤敏、遺物写真撮影、挿図・写真図版のデジタル化作業については忍澤成視、また、遺物作図、原稿執筆、編集は田中清美が担当した。
- 5 本書内の遺構実測には、公共座標値(平面直角座標第Ⅸ系)を使用している。
- 6 L1地点8号遺構出土の緑釉陶器把手付坏については、大阪大学の高橋照彦教授に御指導をいただいた。

# 本文目次

1 調査遺跡の位置	1
2 L1地点	2
3 L4地点	27
4 まとめ	31

# 挿 図 目 次

第1図 調査遺跡の位置	1
第2図 稲荷台遺跡L地点調査区配置図及び遺構全体図	2
第3図 L1・L4地点遺構全体図	3
第4図 1・3・6・7・11号遺構実測図、11号遺構土層断面図及び断面図	4
第5図 1・3・6・7・11号遺構土層断面図及び断面図	5
第6図 8・9・12～14・18・19・26号遺構実測図、9・14・26号遺構土層断面図	6
第7図 8・12～14・18・19号遺構土層断面図及び断面図	7
第8図 8・9・13～20・26号遺構実測図、9・14・15・26号遺構土層断面図及び断面図	8
第9図 8・9号遺構遺物出土状況実測図	9
第10図 1～6号遺構出土遺物実測図	10
第11図 6～8号遺構出土遺物実測図	11
第12図 8号遺構出土遺物実測図	12

第13図	8号遺構出土遺物実測図	13
第14図	8号遺構出土遺物実測図	14
第15図	8・9号遺構出土遺物実測図	15
第16図	9号遺構出土遺物実測図	16
第17図	9号遺構出土遺物実測図	17
第18図	2・16・21～24・27・28号遺構実測図、16・24号遺構土層断面図及び断面図	18
第19図	2・21号遺構土層断面図	19
第20図	4・5・10・25・27～29号遺構実測図、25・28号遺構土層断面図	20
第21図	4・5・10・29号遺構土層断面図	21
第22図	9～12号遺構出土遺物実測図	22
第23図	13・14号遺構出土遺物実測図	23
第24図	16・18・20～24・27・28号遺構出土遺物実測図	24
第25図	その他の出土遺物実測図	25
第26図	2・4号遺構土層断面図及び断面図	27
第27図	L4地点遺構実測図、1～3号遺構土層断面図	28
第28図	1・2号遺構出土遺物実測図	29
第29図	2・3号遺構出土遺物実測図	30
第30図	3・4号遺構及びその他の出土遺物実測図	31

## 表 目 次

第1表	遺構名新旧対照表	3
第2表	土器・瓦観察表	34
第3表	鉄製品・石製品・土製品観察表	40
第4表	鉄滓・炉壁出土表	40

## 図 版 目 次

PL.1	L1地点遺構等(調査前等、1～3号遺構)	PL.9	L1地点遺物(8号遺構)
PL.2	L1地点遺構(4～8号遺構)	PL.10	L1地点遺物(8号遺構)
PL.3	L1地点遺構(8～14号遺構)	PL.11	L1地点遺物(9号遺構)
PL.4	L1地点遺構(9・13～17・21・23号遺構)	PL.12	L1地点遺物(9～11号遺構)
PL.5	L1地点遺構(24～29号遺構) L4地点(調査前)	PL.13	L1地点遺物(12～14・16・18・20～24・ 27・28号遺構)
PL.6	L4地点遺構等(全景、1～4号遺構)	PL.14	L1地点遺物(26号遺構、その他)
PL.7	L1地点遺物(1・8～10号遺構) L4地点遺物(2号遺構)	PL.15	L4地点遺物(1～3号遺構)
PL.8	L1地点遺物(2～8号遺構)	PL.16	L4地点遺物(3・4号遺構、その他)

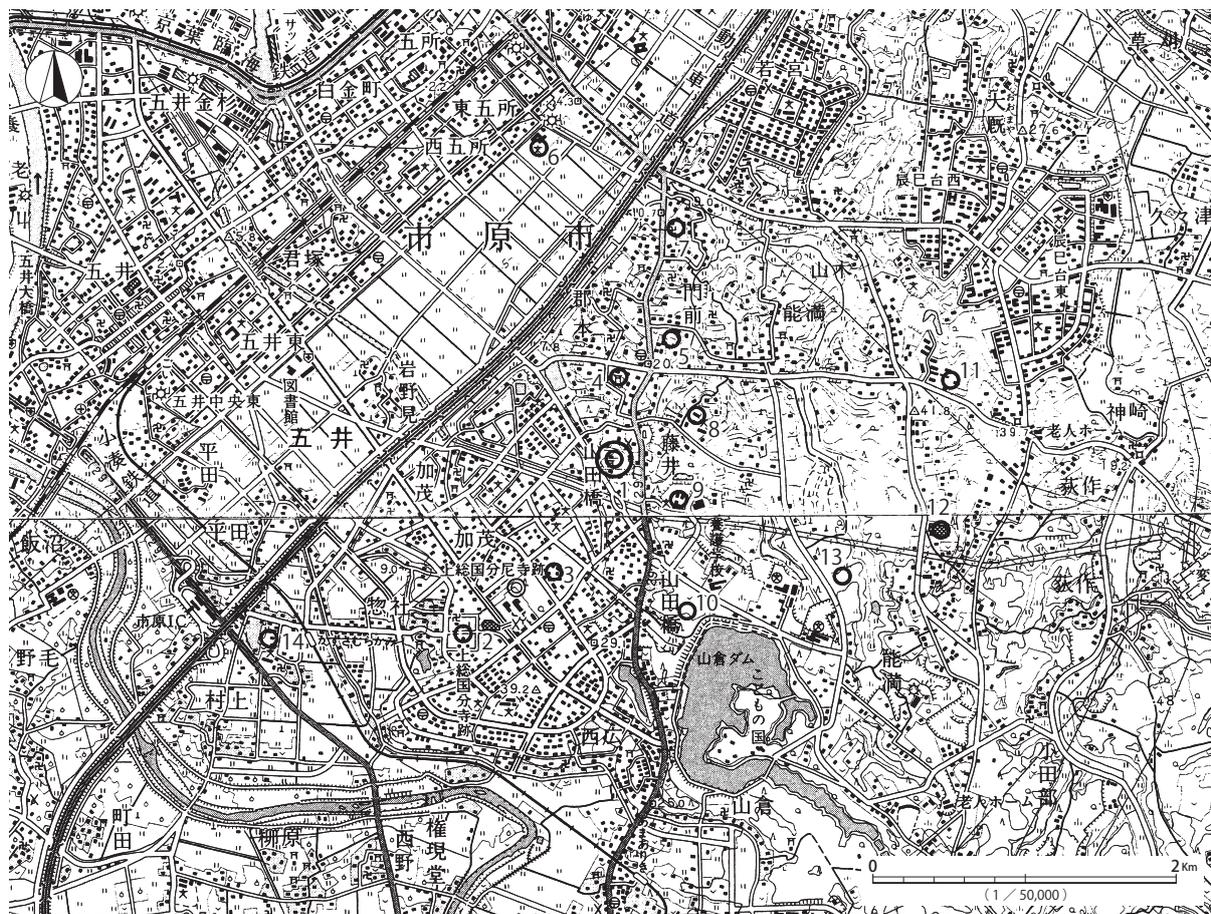
# 1 調査遺跡の位置

稲荷台遺跡は、埋立て前の東京湾旧汀線から南東約3kmの位置にあり、西側に白幡川の小谷を望む標高約26mの台地上に立地する。南西側0.8kmに上総国分尼寺跡が、同じく1.6kmには上総国分僧寺跡が所在する。北東約0.6km、南東約1.2kmには、それぞれ弥生時代後期を中心とする集落跡の唐崎台遺跡と山田橋大山台遺跡が、奈良平安時代の遺跡としては、谷を隔てた北側に市原郡衙推定地や上総国府推定地のひとつである古甲遺跡、上総国府の定額寺といわれる光善寺廃寺跡がある。湾岸の沖積地には、市原条里制遺跡や古代の木器などを多数出土した五所四反田遺跡、また、東側台地上には廃寺跡を伴う千草山遺跡、古代溝を検出した上細工多遺跡、古代寺院跡と考えられる南大広遺跡などが所在する(第1図)。

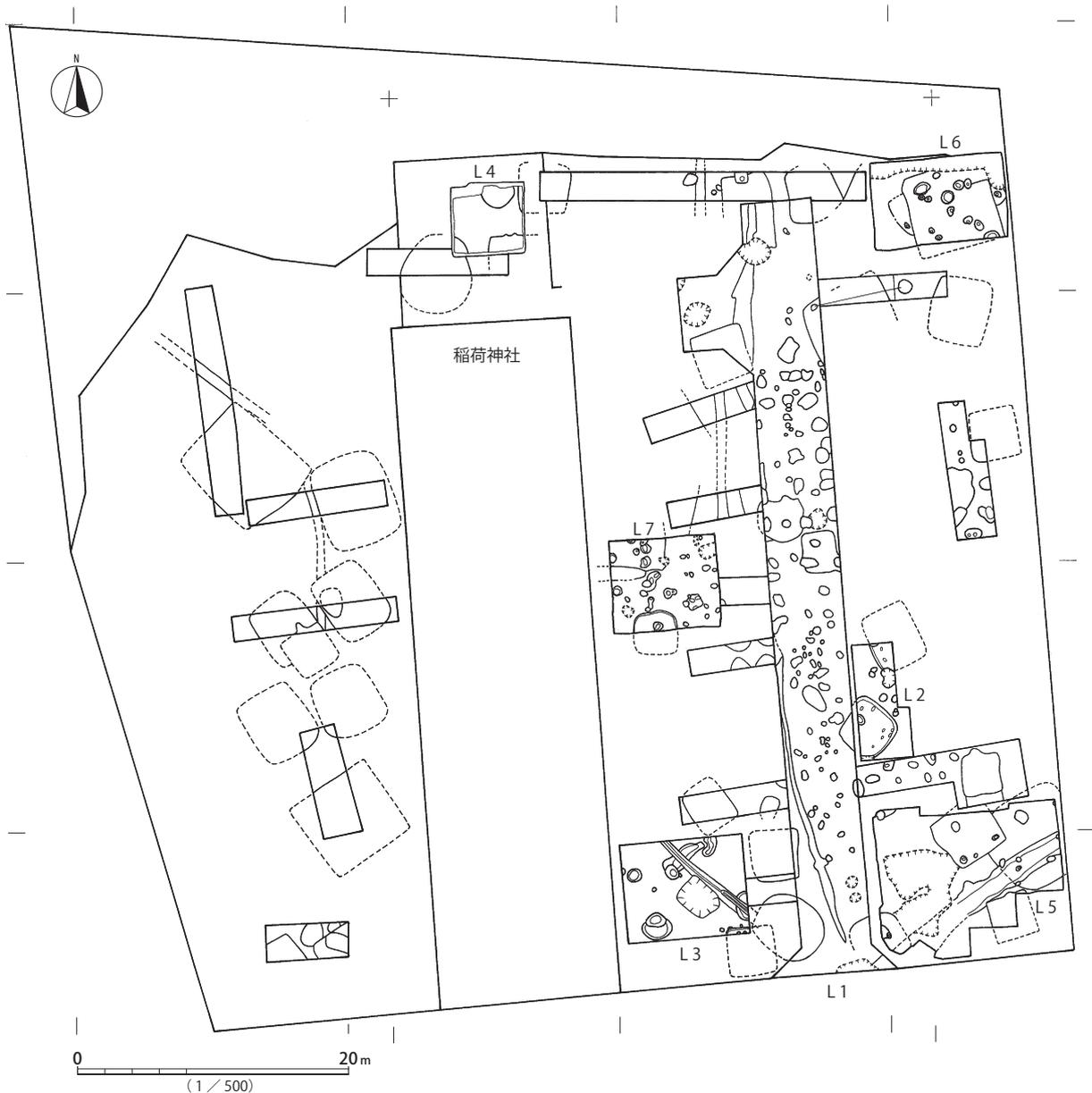
当遺跡内南側のE地点では、9~10世紀に至る掘立柱建物跡群と祭祀遺構及びそれに伴う緑釉陶器などを多数検出している。さらに、当地点の北側には小谷が西側から入り込んでいるが、この谷付近は「在庁免」が転化したと推定される小字名「在長面」を残しており、国府との関係が想定されている場所でもある。

## 第1図 説明

- 1 稲荷台遺跡
- 2 上総国分僧寺跡
- 3 上総国分尼寺跡
- 4 市原郡衙推定地
- 5 古甲遺跡
- 6 五所四反田遺跡
- 7 光善寺廃寺跡
- 8 唐崎台遺跡
- 9 千草山遺跡
- 10 山田橋大山台遺跡
- 11 南大広遺跡
- 12 能満上小貝塚
- 13 上細工多遺跡
- 14 村上遺跡群



第1図 調査遺跡の位置 (1/50,000 国土地理院 姉崎・千葉)

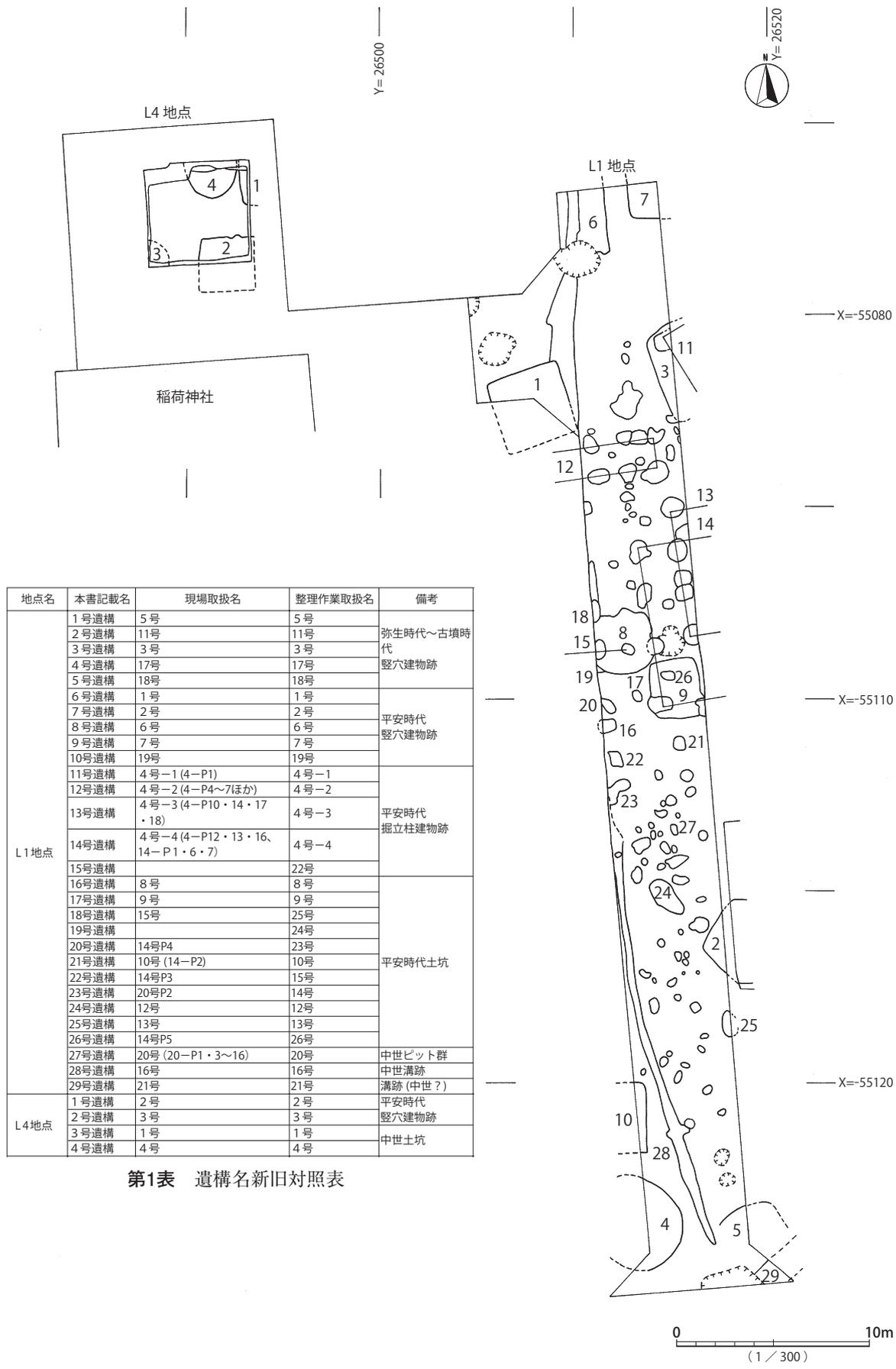


第2図 稲荷台遺跡L地点調査区配置図及び遺構全体図

## 2 L1地点

### (1) 調査概要

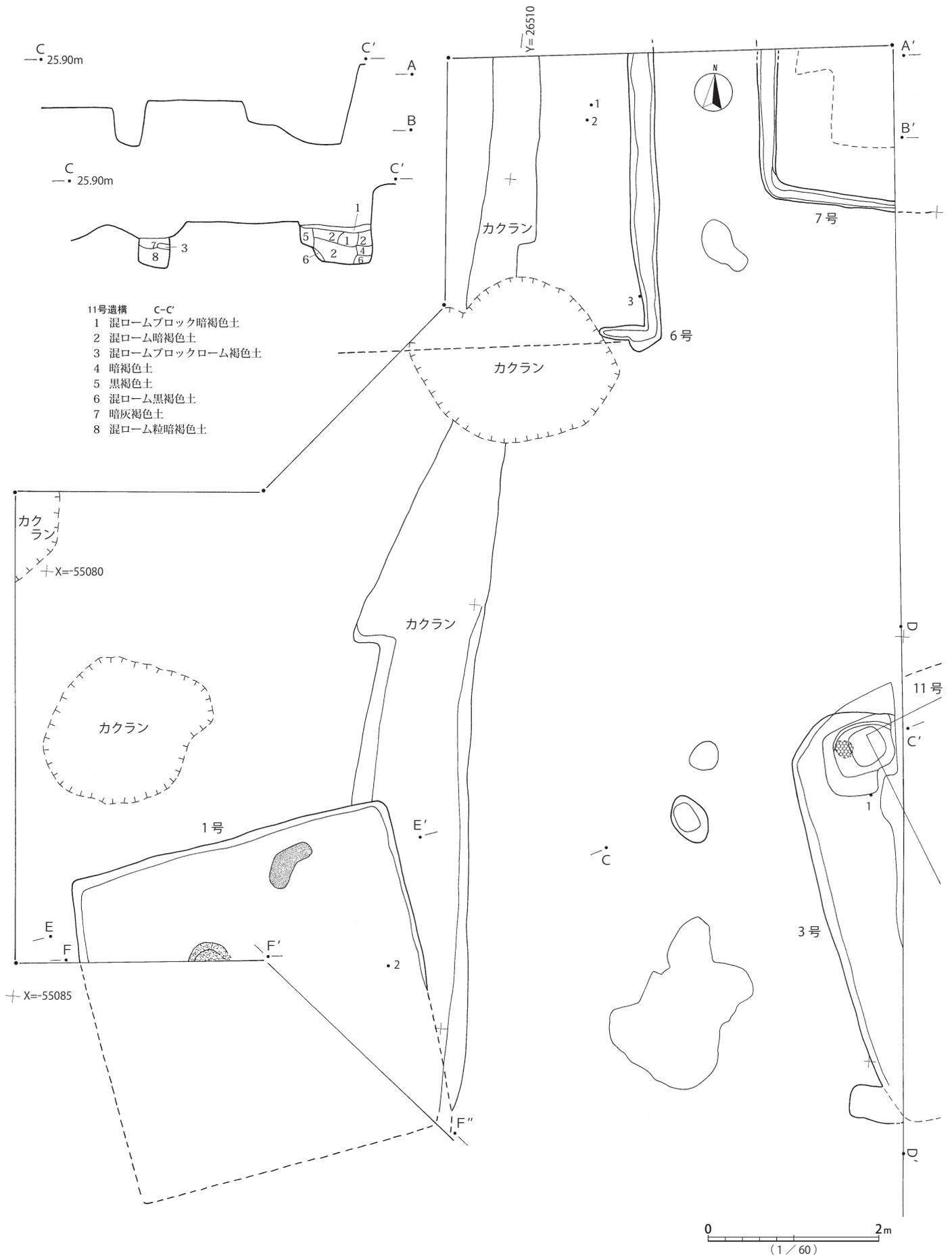
L地点は、確認調査を平成18年度に実施している。本地点は、L地点の東側中央部のほぼ南北に計画された道路部分であり、平成24年度に本調査を実施した。地点名はL1地点とした(第2図)。調査前の現地は、杉の大木を中心とする「稲荷神社の森」となっていた。測量基準点は公共座標(日本測地系)を使用した。水準点については、近隣の既知点から求めた。表土は重機により除去し、遺構プランを確認した。調査は、確認調査成果及び当該地点南側のE地点で検出された平安時代の竪穴建物跡や掘立建物跡群との関連性を想定して進めた。遺構の保存状況は、杉根が残る部分以外は当地域の標準層が上位から良好に残っており、多数の遺構が検出された(第3図)。



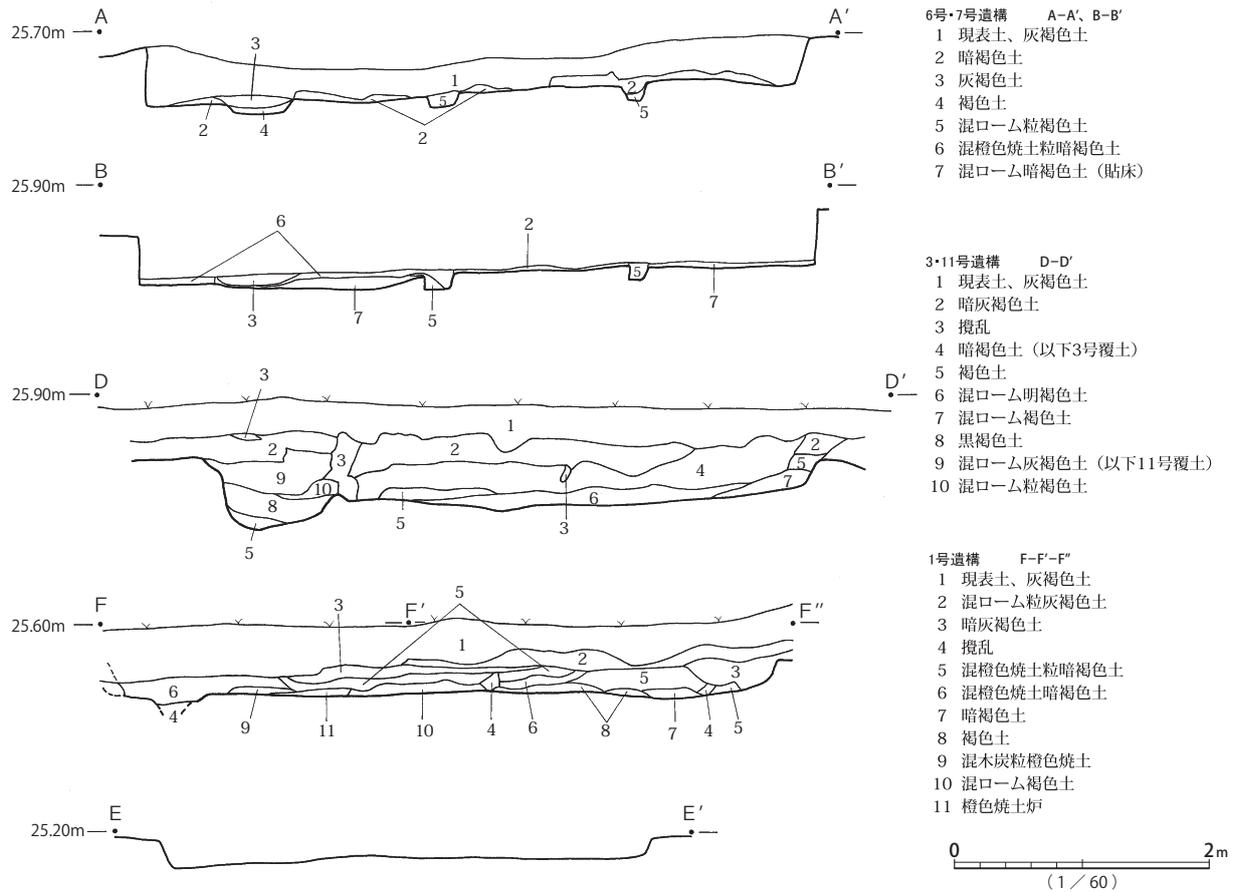
地点名	本書記載名	現場取扱名	整理作業取扱名	備考	
L1地点	1号遺構	5号	5号	弥生時代~古墳時代	
	2号遺構	11号	11号		
	3号遺構	3号	3号		
	4号遺構	17号	17号		竪穴建物跡
	5号遺構	18号	18号	平安時代 竪穴建物跡	
	6号遺構	1号	1号		
	7号遺構	2号	2号		
	8号遺構	6号	6号		
	9号遺構	7号	7号		
	10号遺構	19号	19号		
	11号遺構	4号-1 (4-P1)	4号-1		
	12号遺構	4号-2 (4-P4~7ほか)	4号-2		
	13号遺構	4号-3 (4-P10・14・17・18)	4号-3		平安時代 掘立柱建物跡
	14号遺構	4号-4 (4-P12・13・16・14-P1・6・7)	4号-4		
	15号遺構		22号	平安時代土坑	
	16号遺構	8号	8号		
	17号遺構	9号	9号		
	18号遺構	15号	25号		
	19号遺構		24号		
	20号遺構	14号P4	23号		
	21号遺構	10号 (14-P2)	10号		
	22号遺構	14号P3	15号		
	23号遺構	20号P2	14号		
	24号遺構	12号	12号		
	25号遺構	13号	13号	中世ビット群	
	26号遺構	14号P5	26号		
	27号遺構	20号 (20-P1・3~16)	20号		
	28号遺構	16号	16号		
	29号遺構	21号	21号	溝跡 (中世?)	
L4地点	1号遺構	2号	2号	平安時代	
	2号遺構	3号	3号	竪穴建物跡	
	3号遺構	1号	1号	中世土坑	
	4号遺構	4号	4号		

第1表 遺構名新旧対照表

第3図 L1・L4地点遺構全体図



第4図 1・3・6・7・11号遺構実測図、11号遺構土層断面図及び断面図



第5図 1・3・6・7・11号遺構土層断面図及び断面図

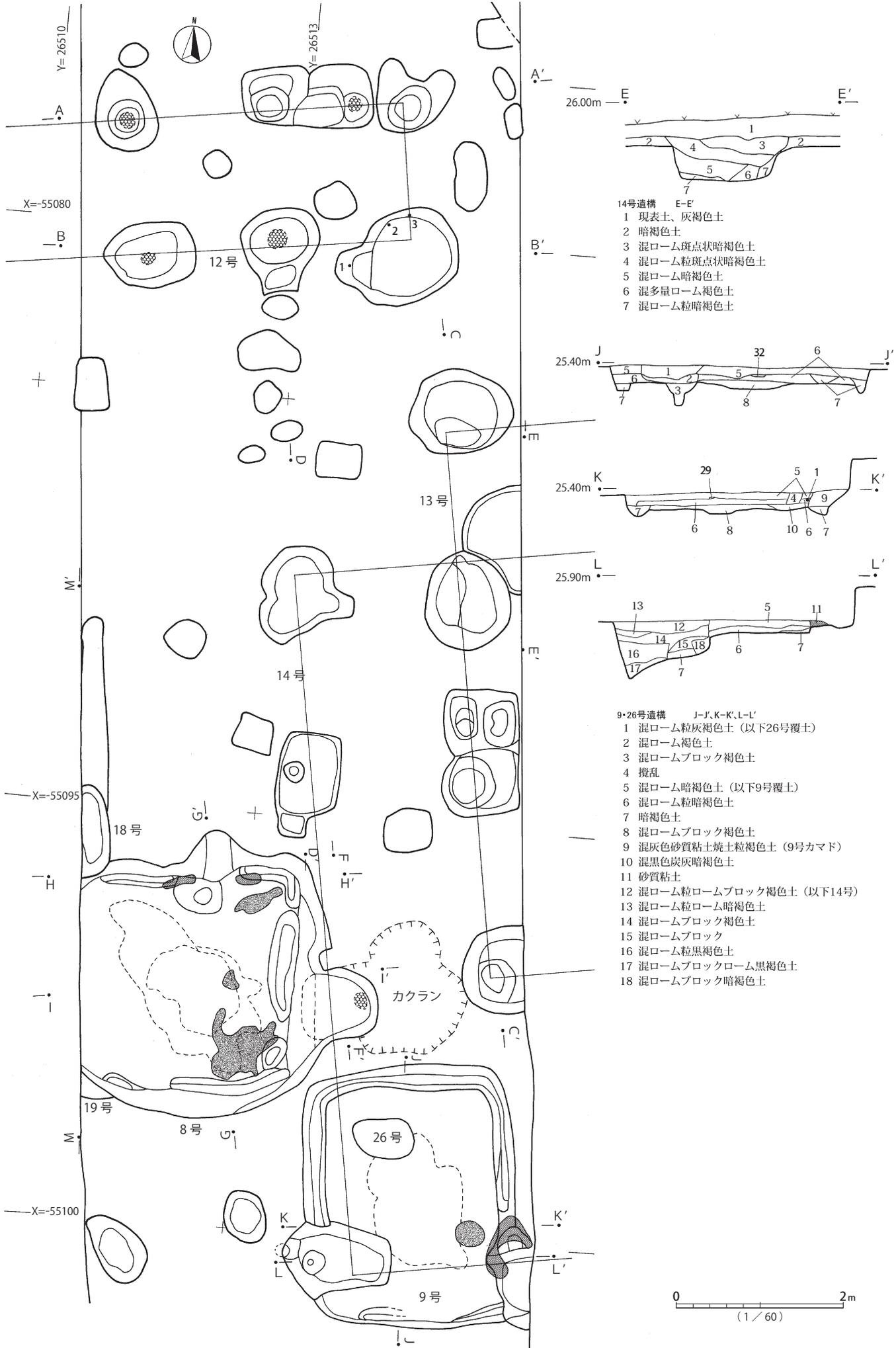
## (2) 遺構と遺物

**竪穴建物跡** 1号遺構(第4・5図、PL. 1)は、調査地点の北側に位置する。形体は方形と推定され、竪穴範囲の北側1/3程度の調査を行った。検出規模は3.93m(横軸)×3.88m(縦軸)、推定規模は長軸3.94m×短軸3.92m、深さ0.25m、主軸方位はN-23°-Wである。北側中央付近の床面で地床炉を検出した。柱穴、壁溝とも認められなかった。床面付近に流れ込みの焼土塊が1ヶ所認められた。床面の硬質は明確でない。出土遺物(第10図、PL. 7)1は土師器埴口縁部片、5は土師器二重口縁壺片、6~12は土師器甕である。また、2・3は弥生土器二重口縁壺片、4は弥生土器鉢の口縁部片である。

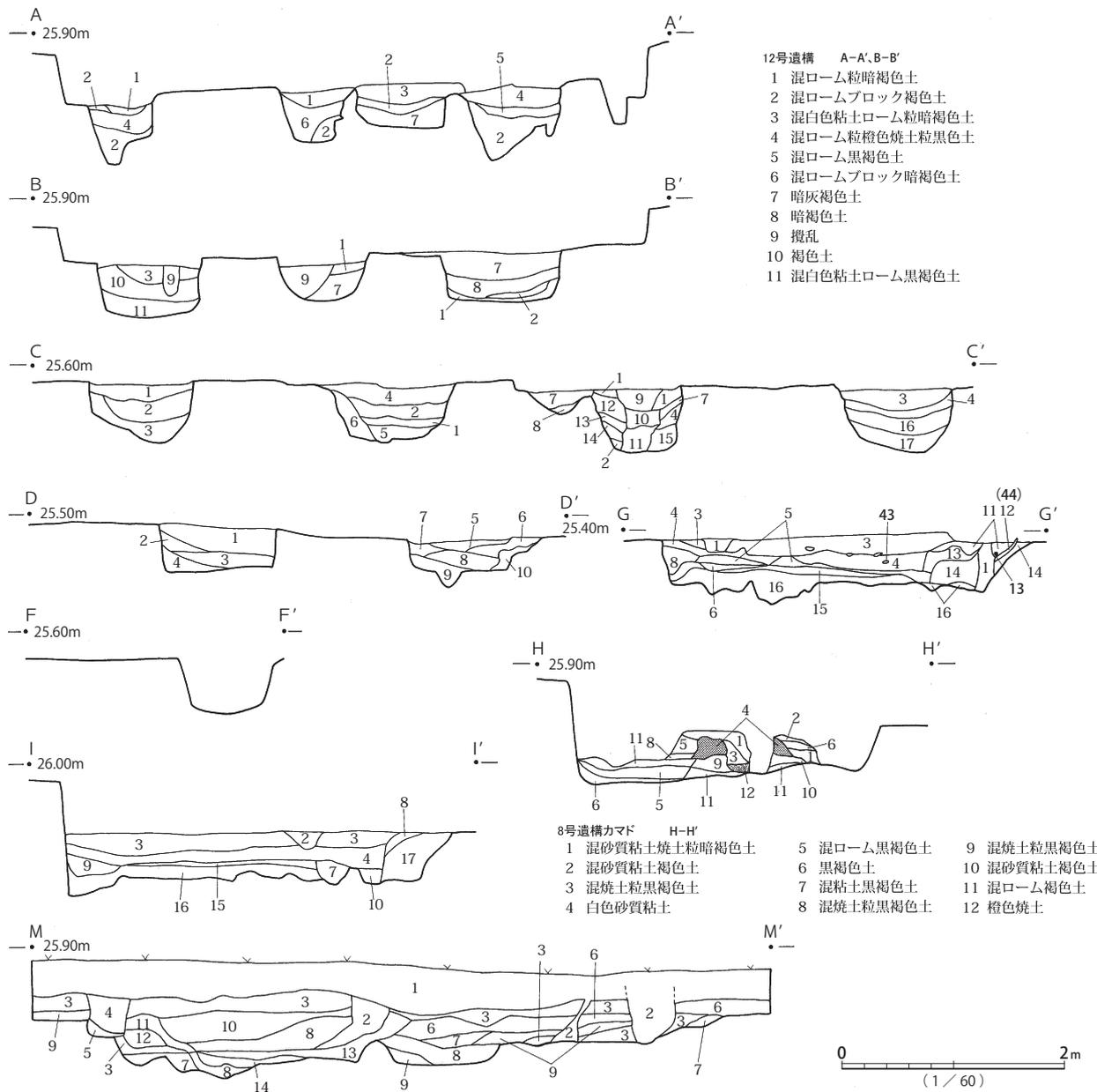
2号遺構(第18・19図、PL. 1)は、調査地点の南東側に位置し、今回は竪穴範囲の西側隅一部分の調査である。プランは胴張りの隅丸方形と推定される。平成25年度の発掘調査(L2地点)で竪穴の東側残りののほとんどを調査している。規模は検出規模が1.12m×3.03m、推定規模は長軸3.97m×短軸3.75m、深さ0.15m、主軸方位はN-60°-Wである。床面のごく一部で硬質面が確認できる。壁溝は認められない。出土遺物(第10図、PL. 8)1・2は弥生土器の甕胴部片、3は壺胴部小片である。

3号遺構(第4・5図、PL. 1)は、調査地点の北側に位置し、1号遺構から東に4.7m離れている。今回は竪穴範囲の北西隅付近一部分の調査である。プランは隅丸方形と推定される。検出規模は1.25m×4.00m、深さ0.48m、主軸方位はN-19°-Wである。出土遺物(第10図、PL. 8)1・2は弥生土器二重口縁壺片、3は須恵器蓋坏で宝珠つまみ部分である。

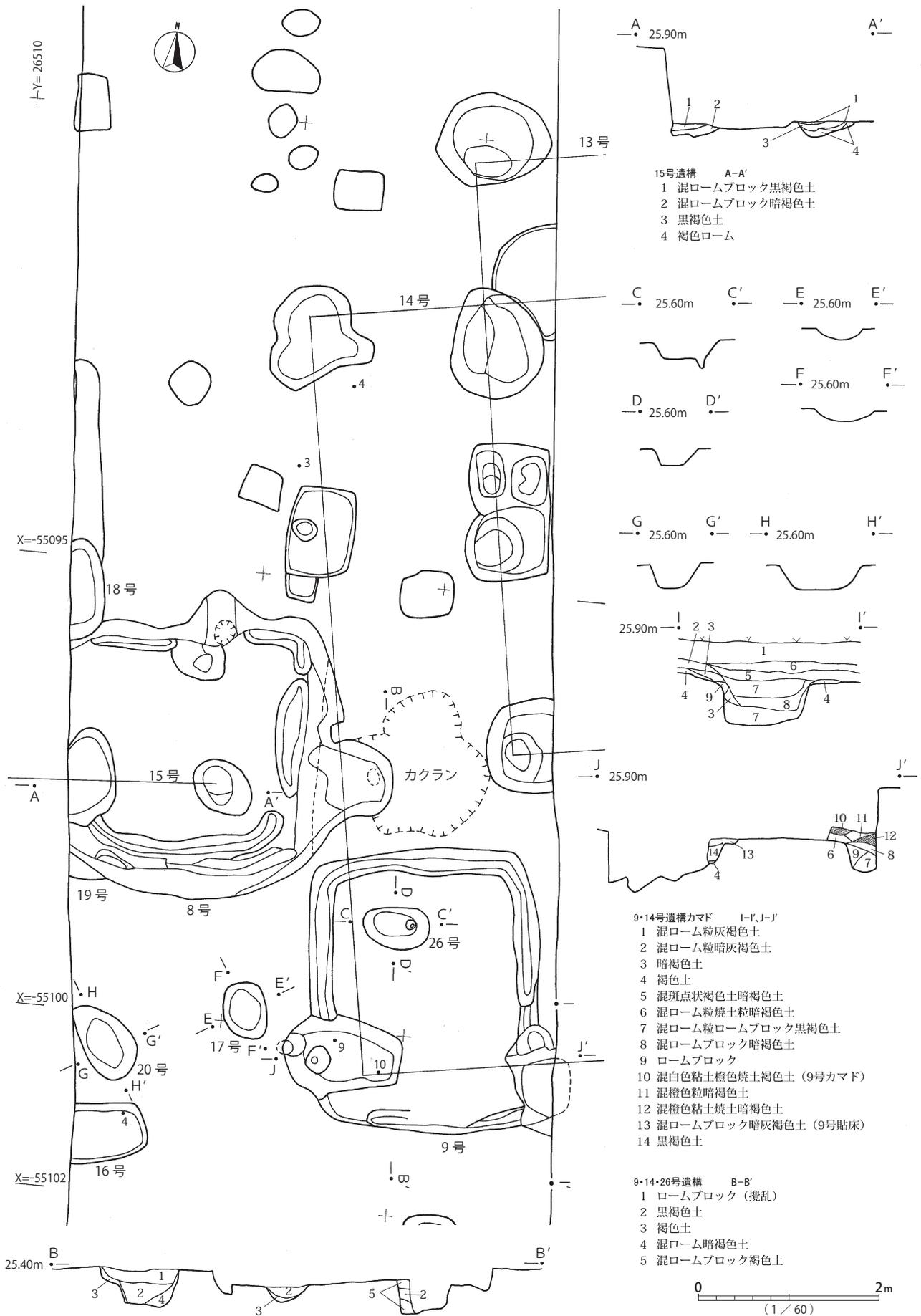
4号遺構(第20・21図、PL. 2)は、調査地点の南側に位置し、竪穴範囲の南東側約1/3の調査である。形体



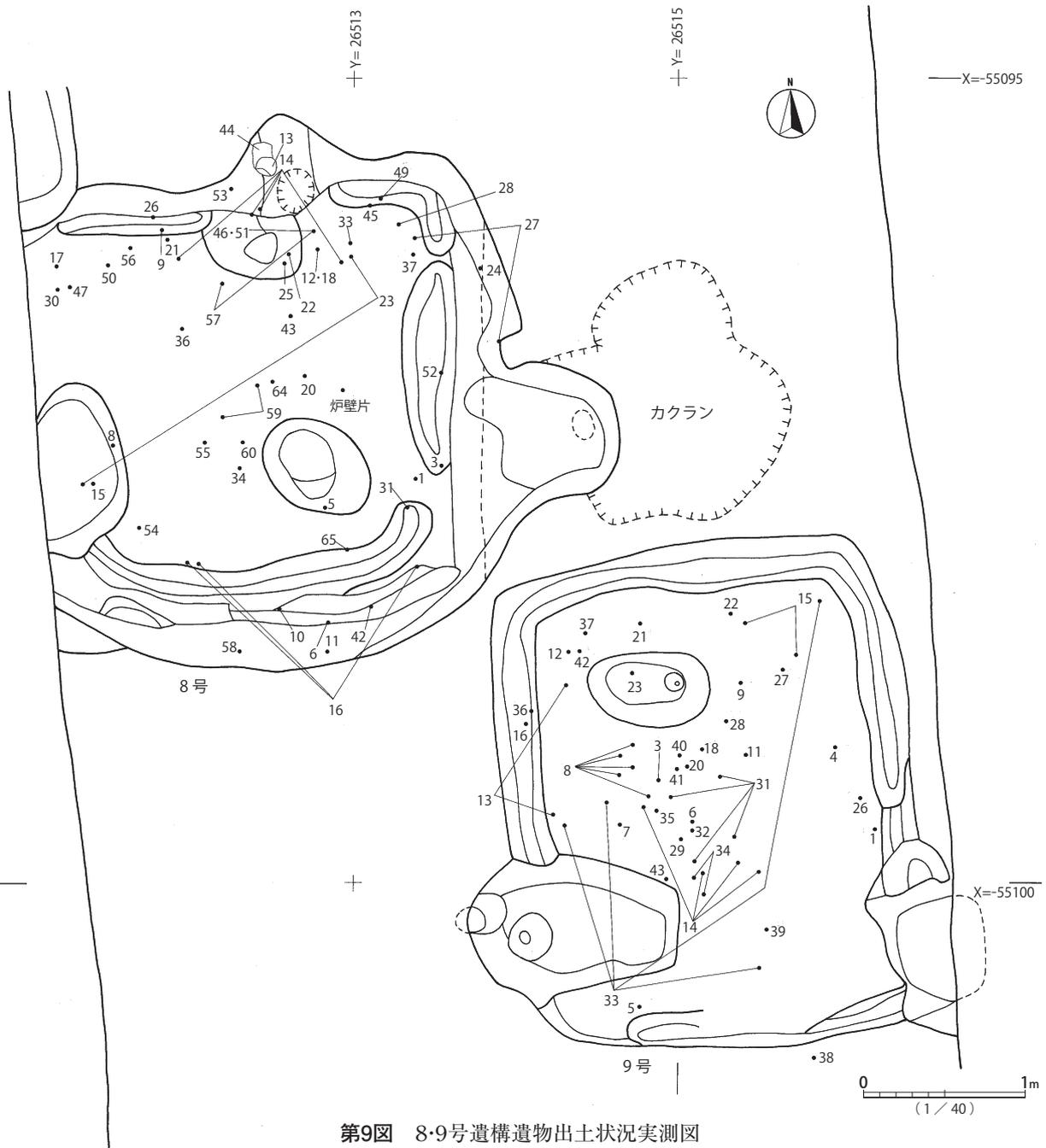
第6図 8・9・12~14・18・19・26号遺構実測図、9・14・26号遺構土層断面図



第7図 8・12~14・18・19号遺構土層断面図及び断面図



第8図 8・9・13~20・26号遺構実測図、9・14・15・26号遺構土層断面図及び断面図

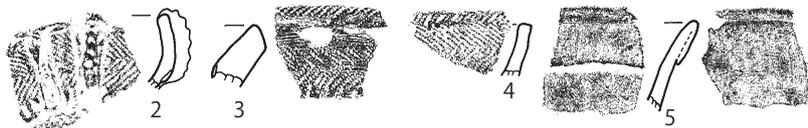
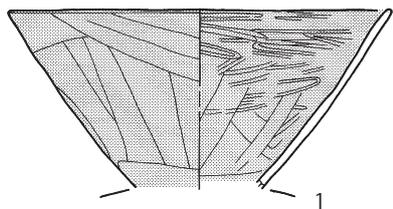


第9図 8・9号遺構遺物出土状況実測図

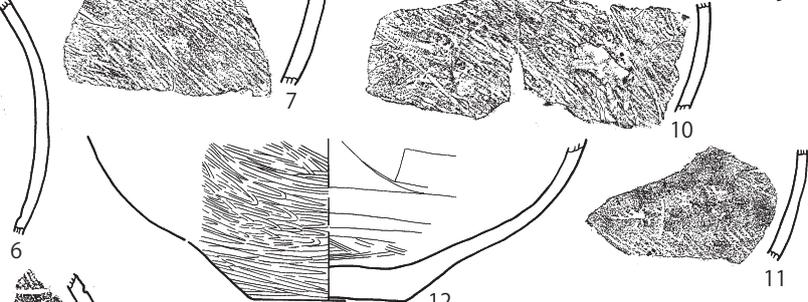
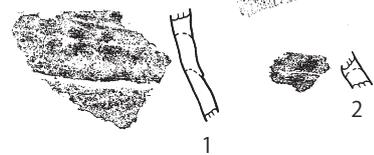
はいわゆる小判型で長円形に近い。検出規模は1.75m×4.75m、推定規模5.10m×4.50m、深さ0.35m、主軸方位はN-57°-Wである。床面の硬化面は中央一部で認められる。南側床面付近に焼土の流れ込みがある。また、南東側のピットは主柱穴(深さ0.15m)とは考えていない。壁溝は見られない。出土遺物(第10図、PL. 8)1・4は弥生土器甕で1は胴部片、4は底部片、3・5は弥生土器壺胴部片、2は縄文時代後期の深鉢片で、地文に縄文がなく、半截竹管や櫛状の工具による直線の沈線文を施文される。堀之内式とみられる。

5号遺構(第20・21図、PL. 2)は、4号遺構から南東側1.85mに位置する。今回は竪穴範囲西側一部の調査である。形体は胴張の隅丸方形と推定されるが、南西側の残存状況が悪い。なお、平成25年度(L5地点)に北東側の大部分を調査している。床面中央一部に硬質面を残す。壁溝は見られない。出土遺物(第10図、

1号遺構



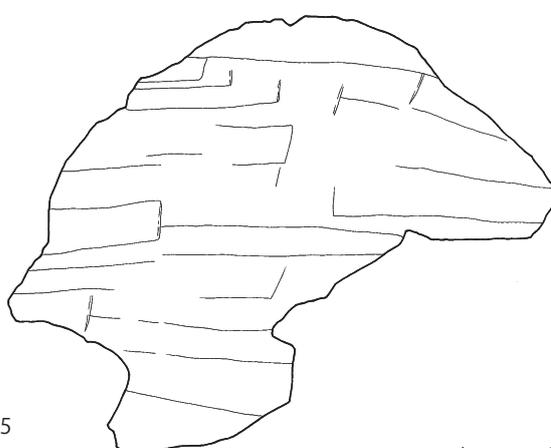
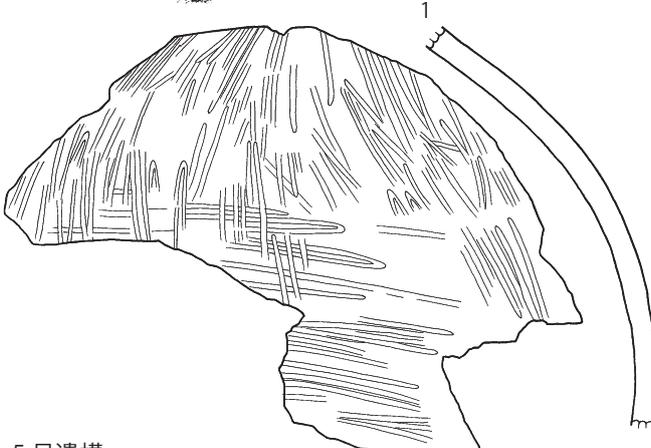
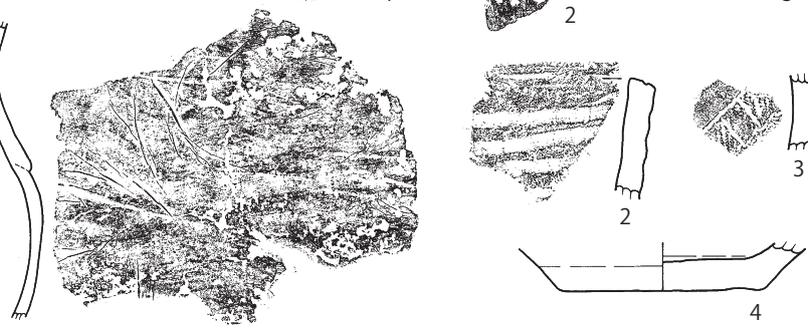
2号遺構



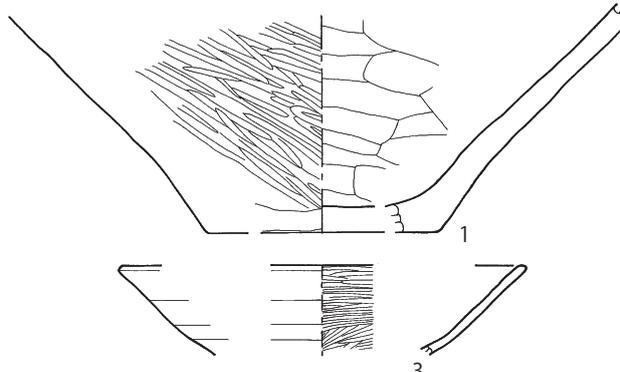
3号遺構



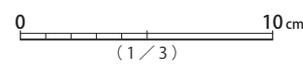
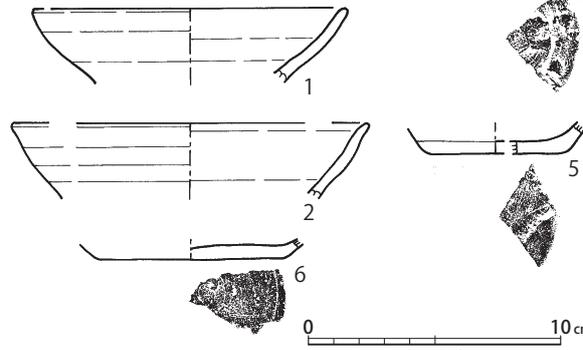
4号遺構



5号遺構



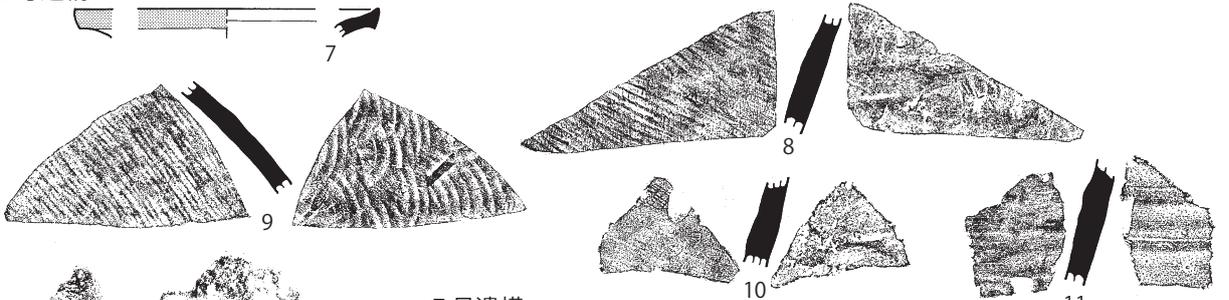
6号遺構



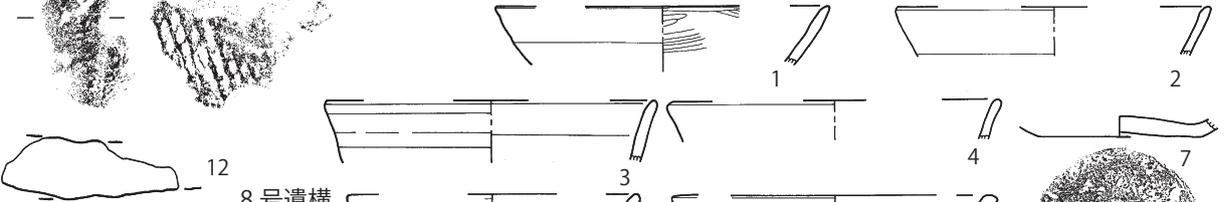
(1/3)

第10図 1~6号遺構出土遺物実測図

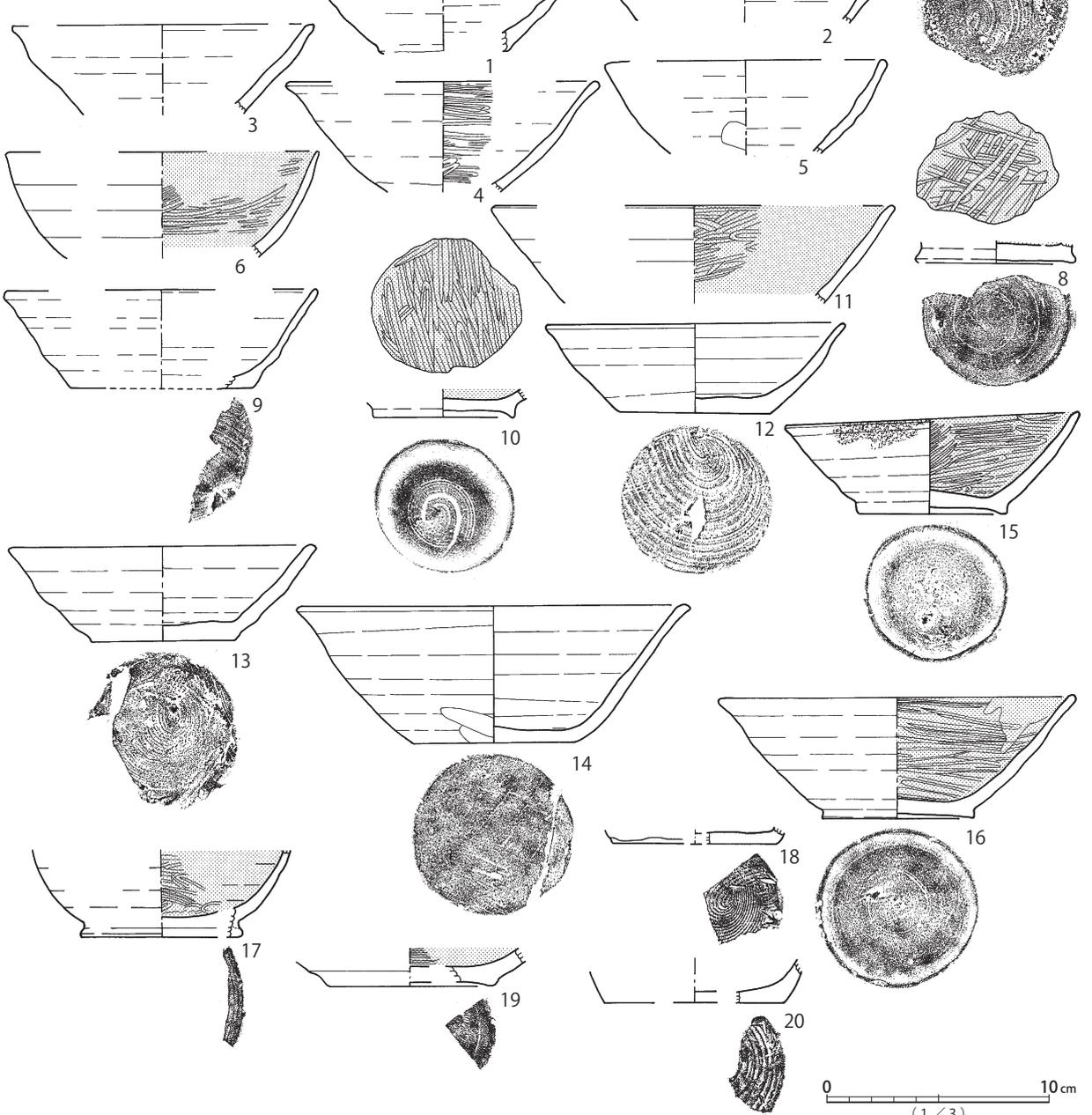
6号遺構



7号遺構

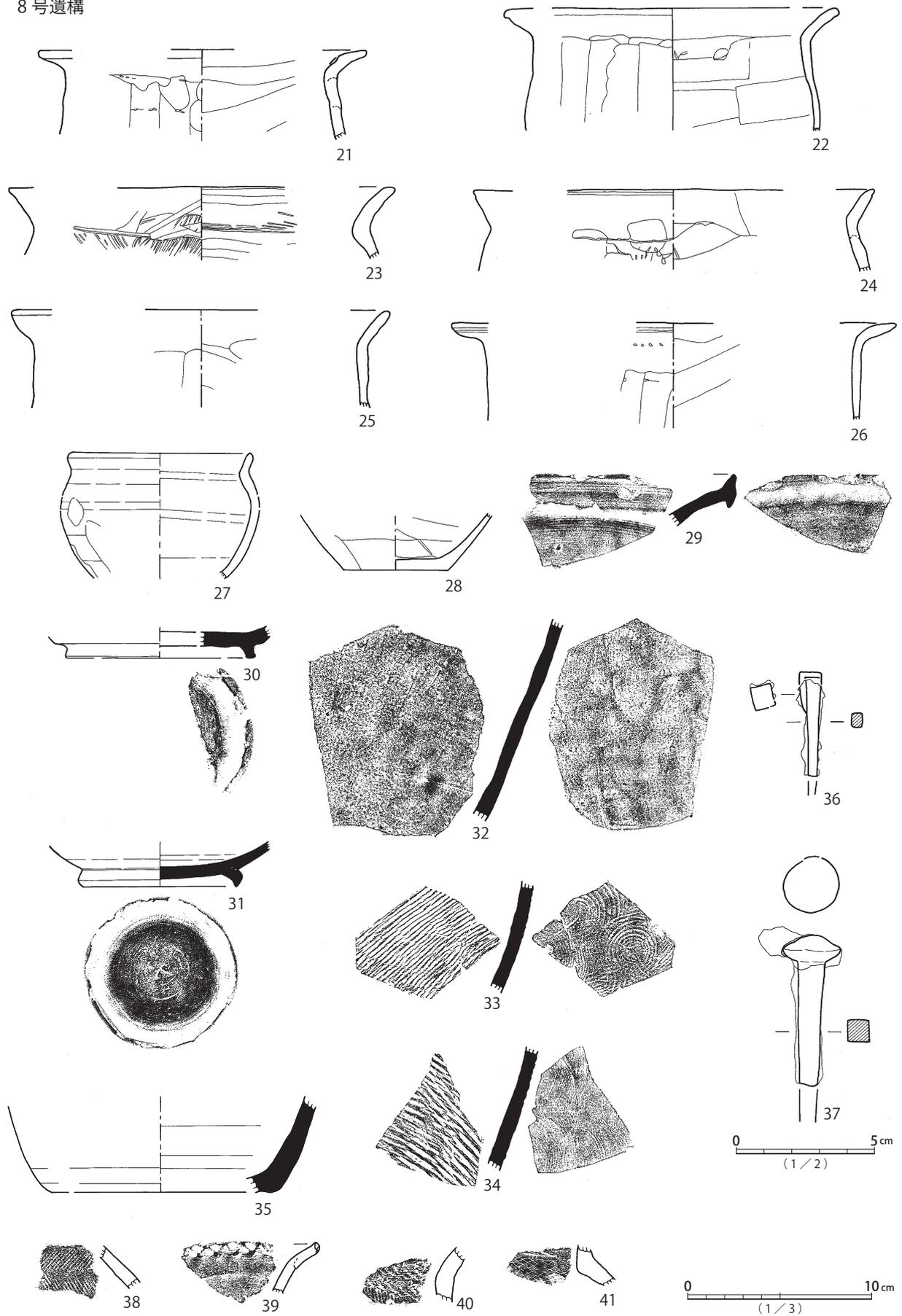


8号遺構



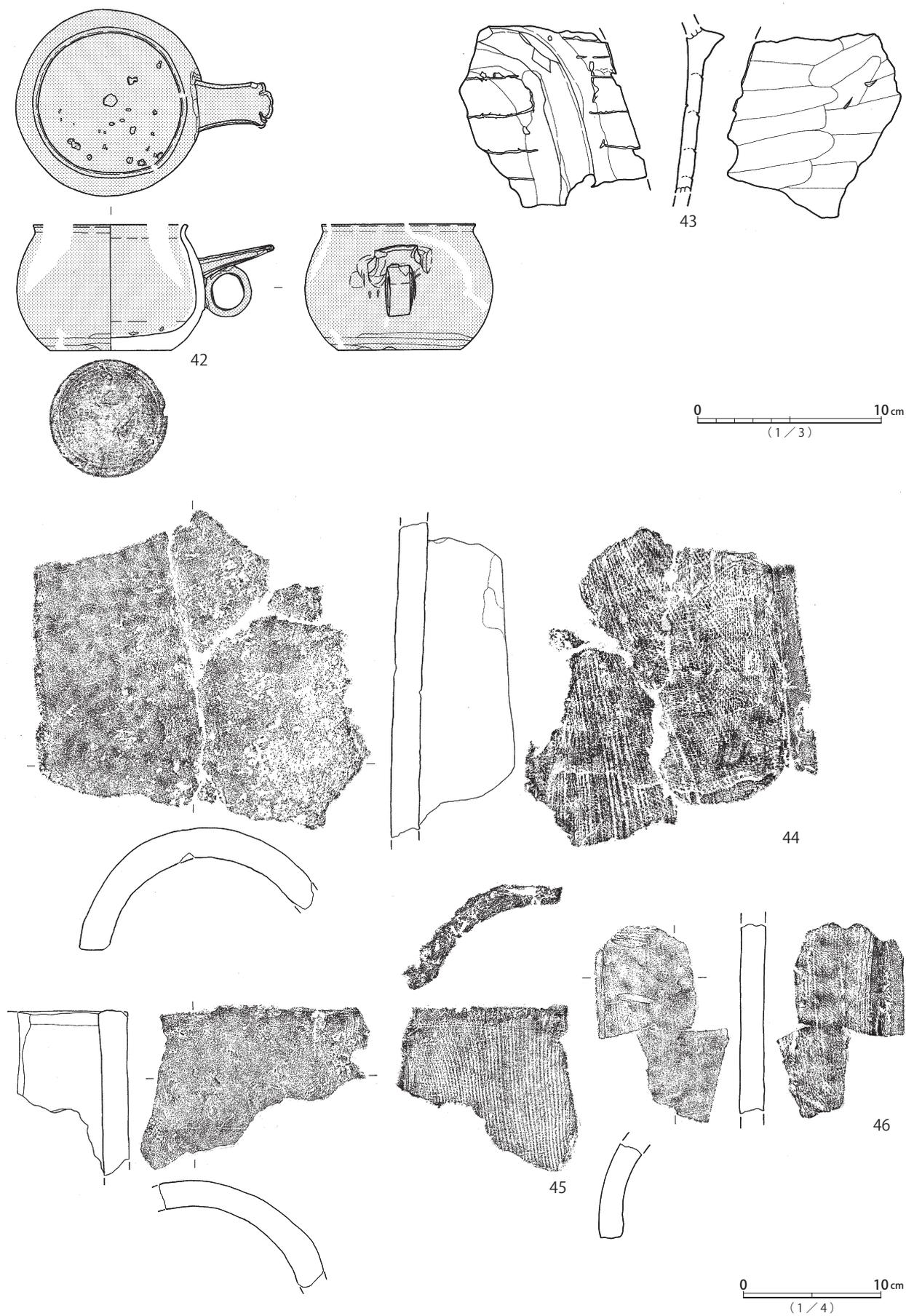
第11図 6~8号遺構出土遺物実測図

8号遺構



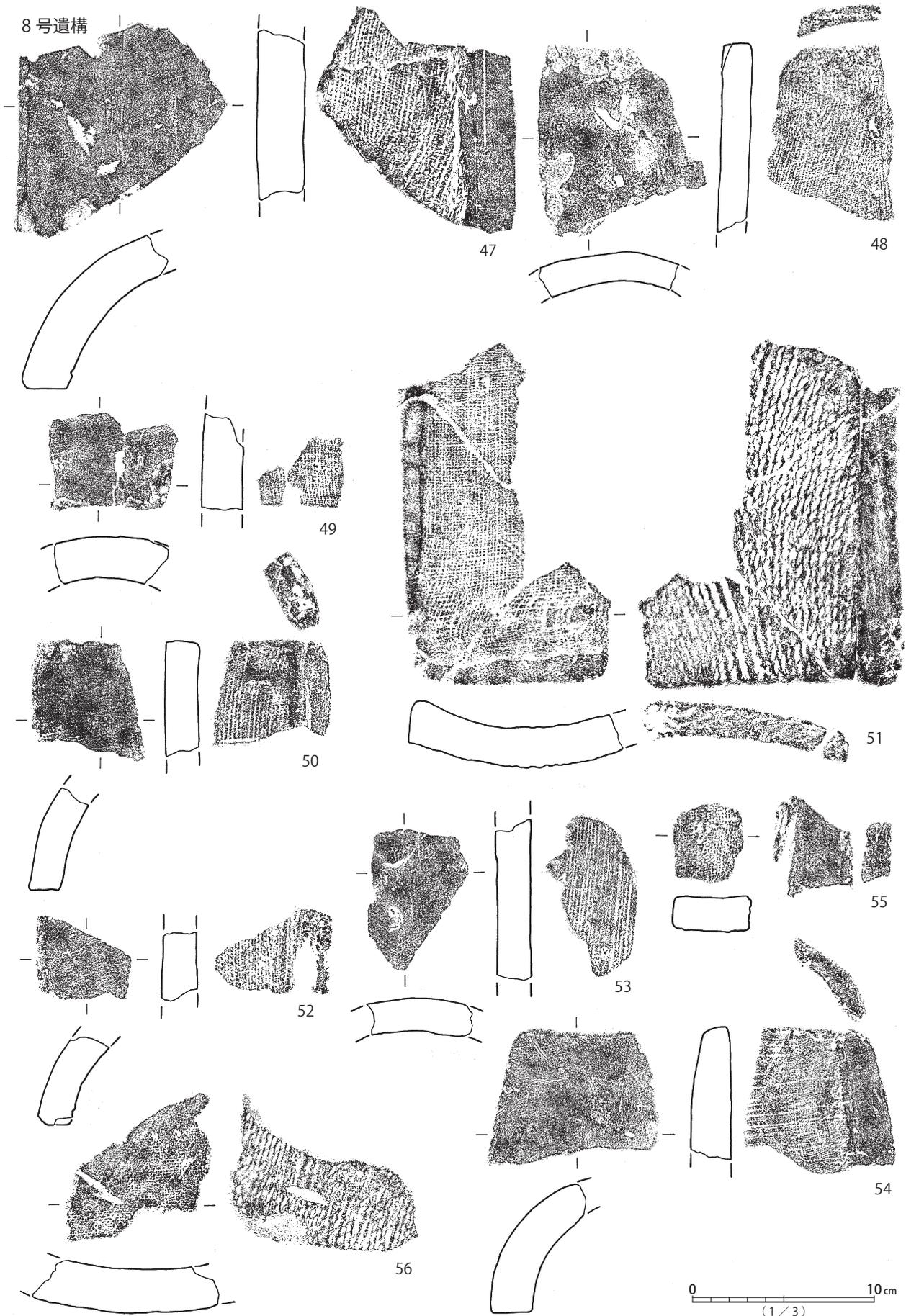
第12図 8号遺構出土遺物実測図

8号遺構



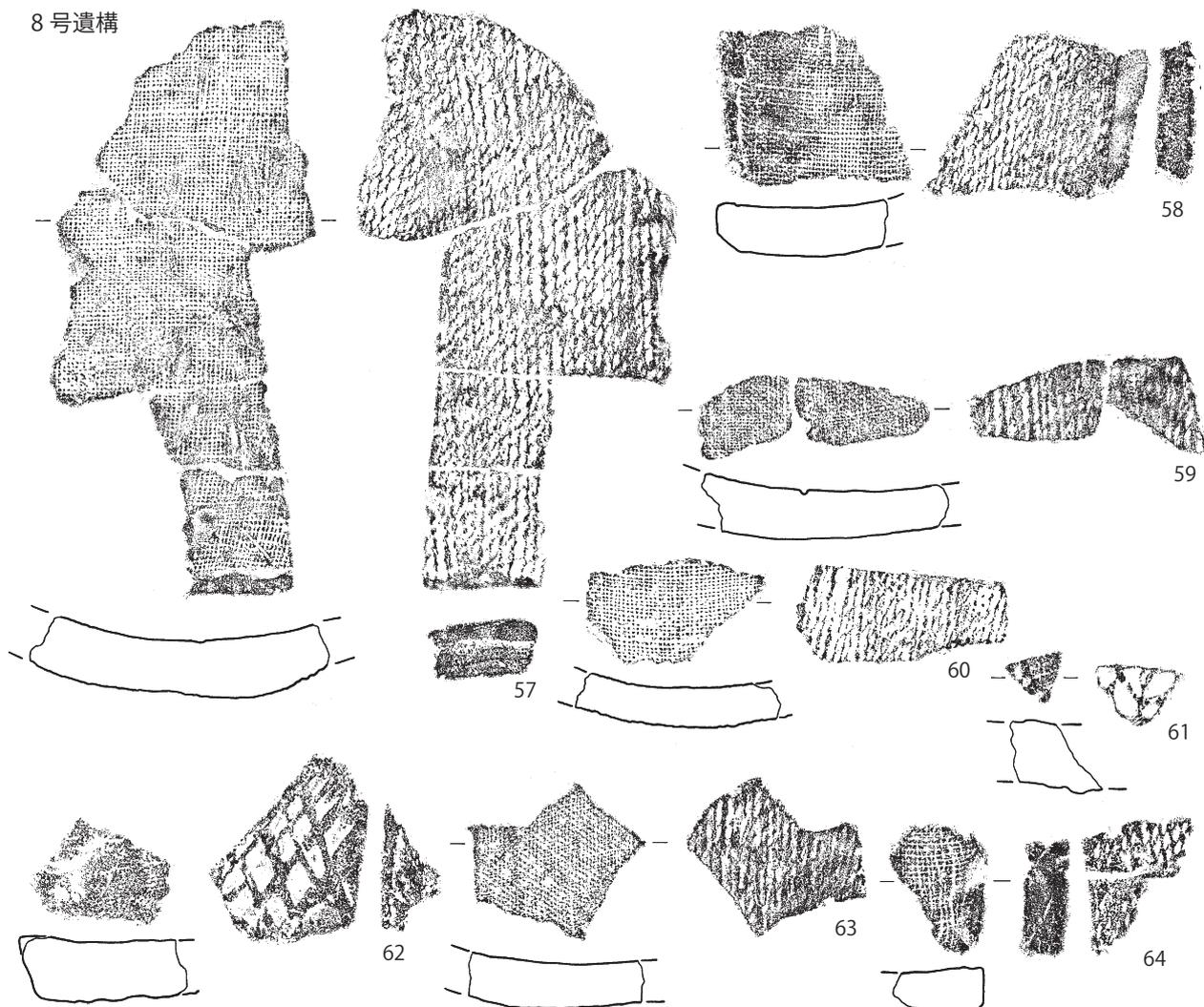
第13図 8号遺構出土遺物実測図

8号遺構

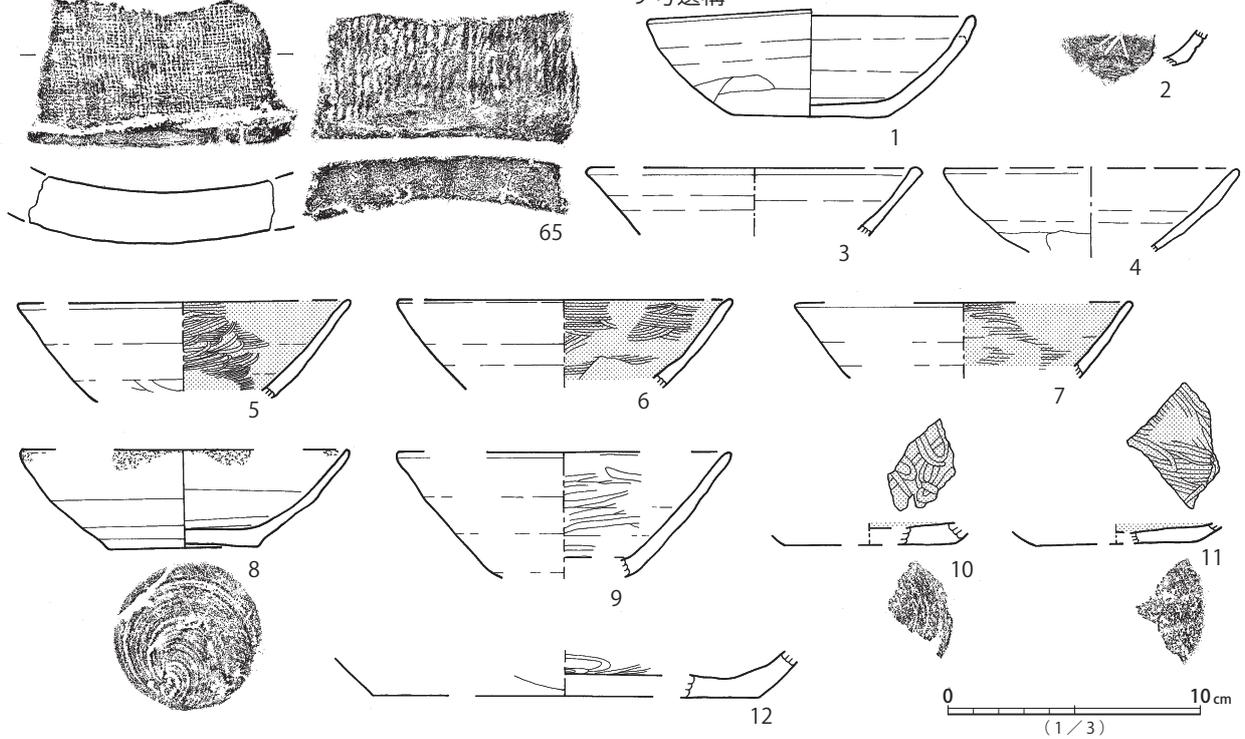


第14図 8号遺構出土遺物実測図

8号遺構

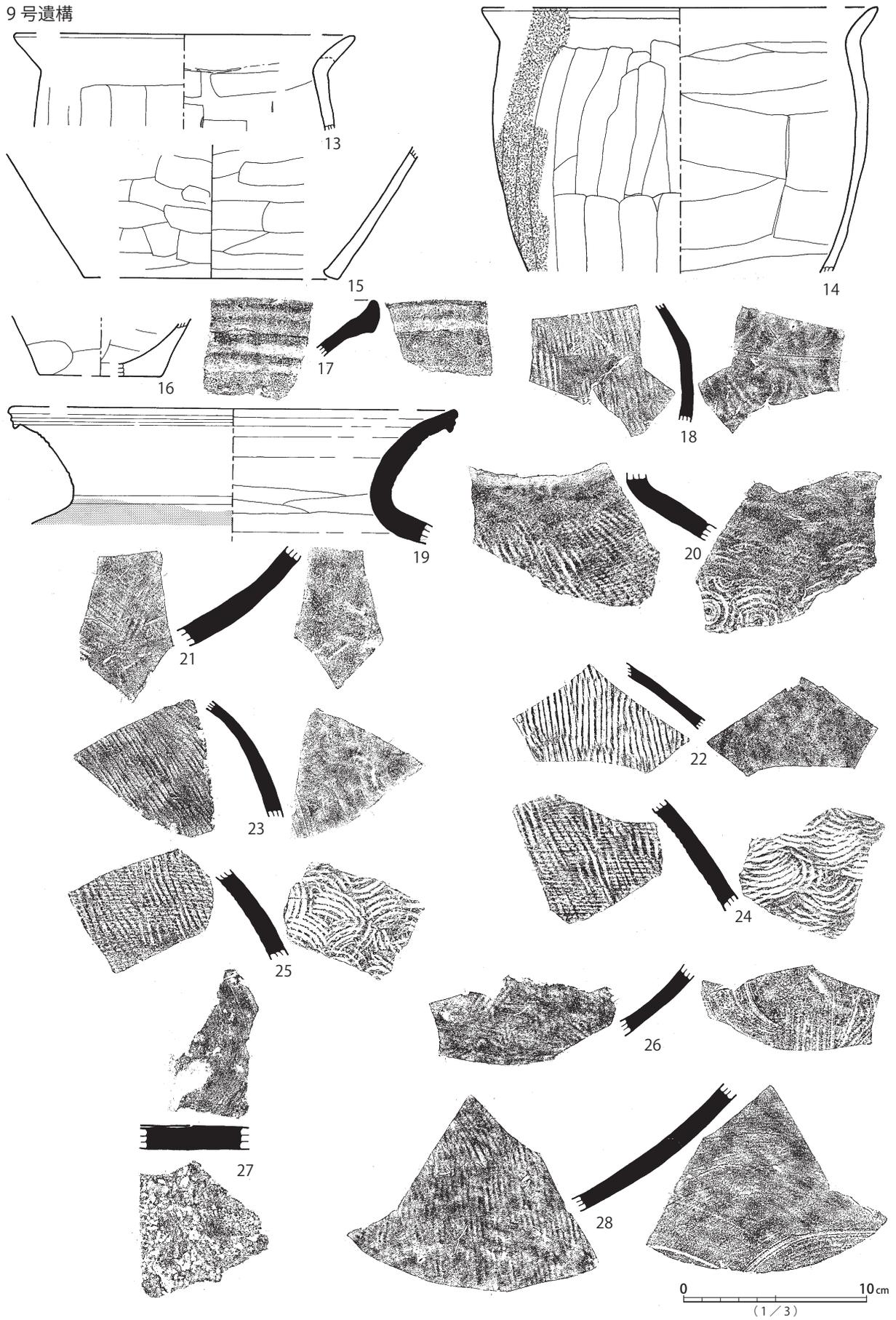


9号遺構



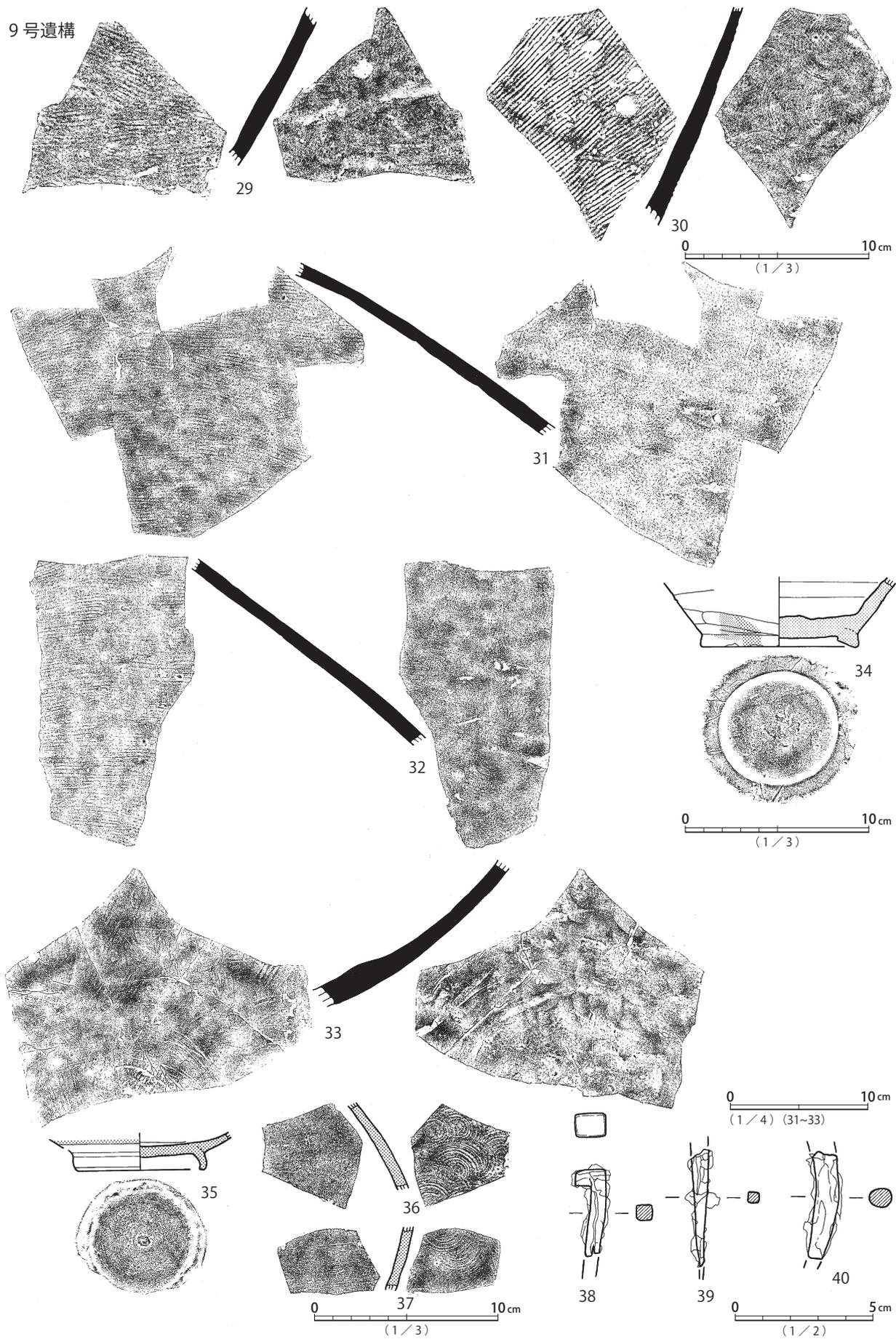
第15図 8・9号遺構出土遺物実測図

9号遺構

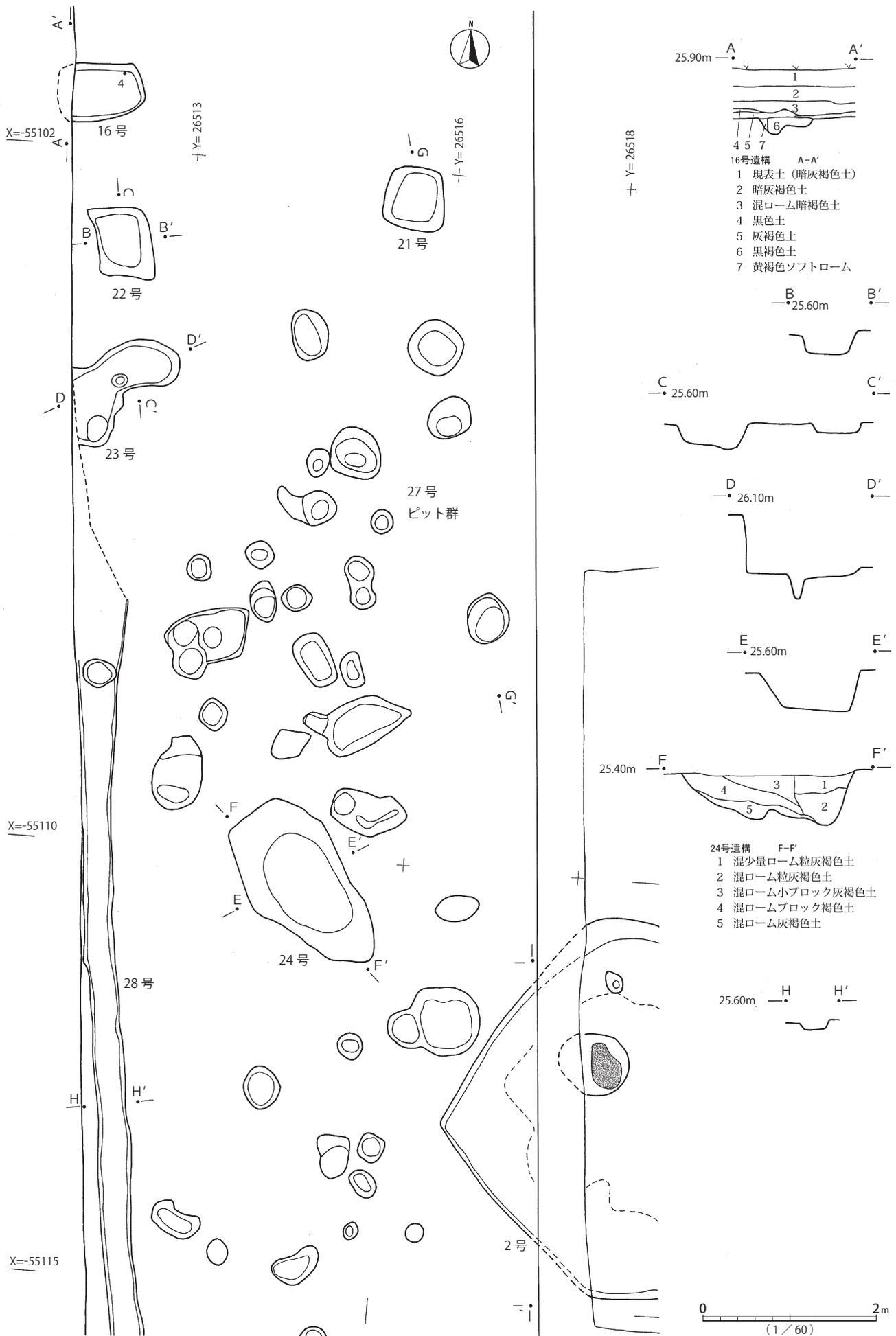


第16図 9号遺構出土遺物実測図

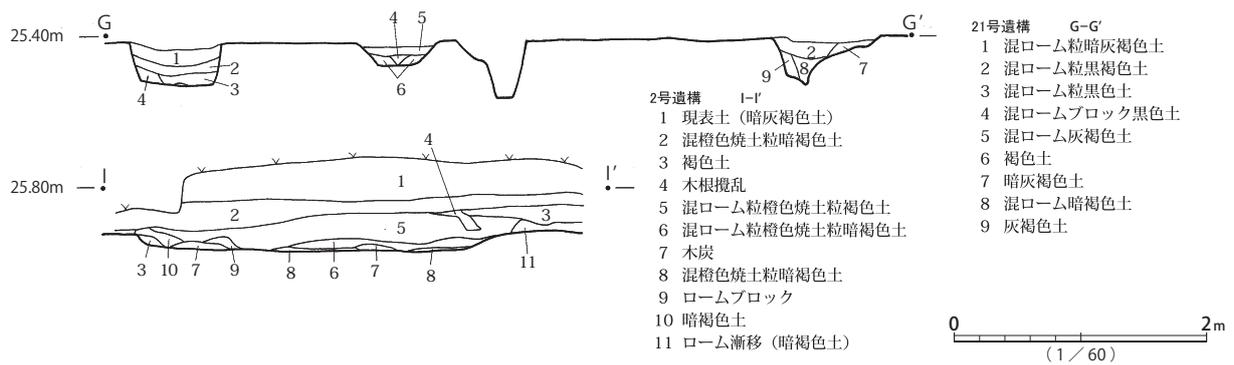
9号遺構



第17図 9号遺構出土遺物実測図



第18図 2・16・21~24・27・28号遺構実測図、16・24号遺構土層断面図及び断面図



第19図 2・21号遺構土層断面図

PL. 8) 1は弥生土器甕底部付近の破片である。

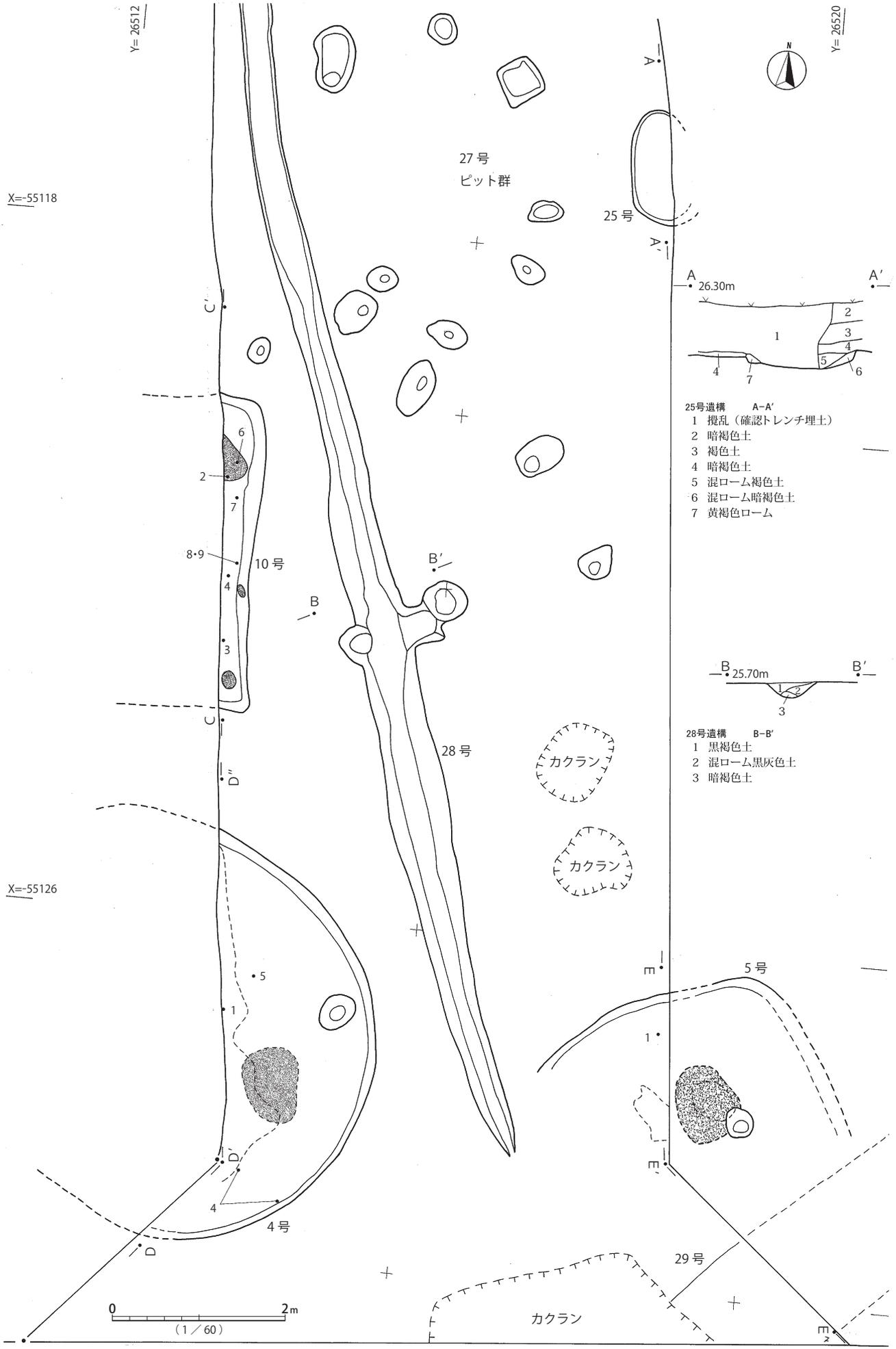
6号遺構(第4・5図、PL. 2)は、調査地点の北側に位置し、形体は方形とみられ、プランの南東側約1/4を検出した。なお、南側に木の根と南北に溝状のカクランが入っている。検出規模は2.50m×3.52m、深さ0.10m、主軸方位はN-6°-Wである。壁溝は幅が広く0.20~0.35mを測る。出土遺物(第10・11図、PL. 8)1~6はロクロ調整による土師器坏である。また、(第11図、PL. 8)7は須恵器長頸壺口縁部片、8~10は須恵器甕胴部片、11は須恵器壺胴下部片、12は平瓦片である。

7号遺構(第4・5図、PL. 2)は、6号遺構から東1.2mに位置する。プランの南西側付近のみの調査で、検出規模は1.58m×1.95m、深さ0.15mである。床面の中央寄りに硬質面がある。壁溝は幅0.19~0.25mである。出土遺物(第11図、PL. 8)1~4はロクロ調整による土師器坏である。いずれも口縁部の小片である。

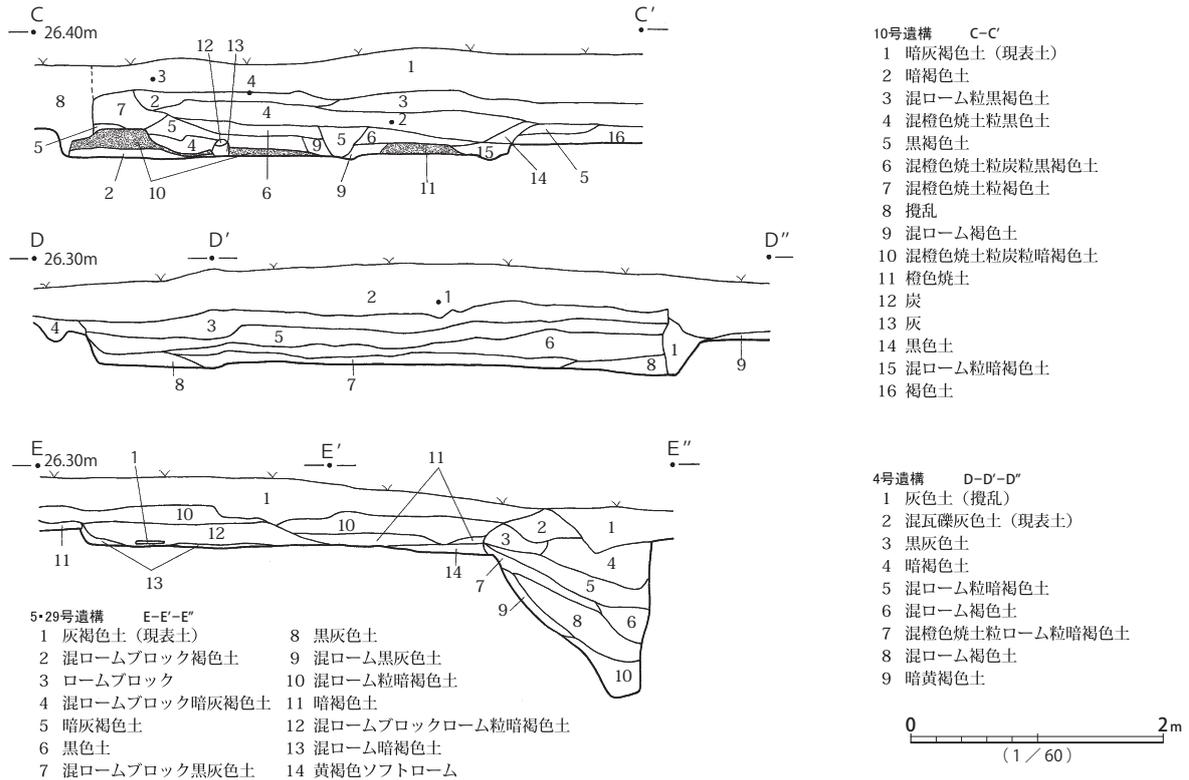
8号遺構(第6~9図、PL. 2・3)は、調査地点のほぼ中央に位置し、竪穴範囲の西側部分が一部未掘である。形体はほぼ方形、北西側で18号遺構(土坑)を切り、南西側は19号遺構(土坑)に切られている。また、東側では14号遺構(掘立)を切っている。検出規模は3.00m(推定規模3.35m)×3.45m、深さ0.45m、主軸方位はN-6°-Wである。北側壁中央やや東寄りにカマドが設置され、煙道部は壁を凸型に刳り貫いている。竪穴の覆土には焼土とともに大量の遺物が廃棄されていた。床面中央には硬質面があり、壁溝も部分的に認められた。出土遺物(第11~15図、PL. 7~10)1~20はロクロ調整による土師器坏(8・10・15・17が高台坏)、21~26は土師器甕、27・28は土師器鉢、30・31は須恵器高台坏片、29・32~35は須恵器甕片、36・37は鉄釘である。38~41は弥生土器小片である。また、42は緑釉陶器把手付坏で、口縁部と体部の一部を欠損する。釉の分析は今回できなかったが、三又トチン痕やロクロ回転が時計回りであることなどから国産品とみられる。磁器質に良く焼き上がっている優品で、緑釉陶器として報告しておく。43は置きカマド形土器か。44~50、52~54は丸瓦片、51・55~65は平瓦片で、61・62は格子叩きである。

9号遺構(第6・8・9図、PL. 3・4)は、8号遺構の南東側に近接する。北側中央付近が26号遺構、南側は14号遺構にそれぞれ切られている。全掘し検出規模は2.55m×3.20m、深さ0.27m、主軸方位はN-5°-Wである。南東側壁にカマドが設置されるが、14号遺構に一部切られて残りが悪い。床面中央付近では硬質面が確認できる。当遺構も覆土からの出土遺物が多い。出土遺物(第15~17・22図、PL. 7・11・12)1~11はロクロ調整による土師器坏、2は線刻土器である(「万」か)。12は土師器大型の坏、13・14・16は土師器甕、15は土師器甌、17~33は須恵器甕片である。34~37は灰釉陶器で34は長頸壺片、35は壺底部片、36・37は壺体部片、38~40は鉄釘片である。さらに、第22図の41・44は丸瓦片、42・43は平瓦片である。

10号遺構(第20・21図、PL. 3)は調査地点の南側にあり、4号遺構の北1.4mに位置する。竪穴範囲東側一



第20図 4・5・10・25・27～29号遺構実測図、25・28号遺構土層断面図



第21図 4・5・10・29号遺構土層断面図

部の調査である。プランは方形である。検出規模は0.50m×3.67m、深さ0.30m、主軸方位はN-2°-Wである。床面付近に焼土の流れ込みが数ヶ所あった。出土遺物(第22図、PL. 7・12)1~7はロクロ調整による土師器坏、8は土師器甕、9は須恵器甕胴下部片、10は菱形の頭部を持つ鉄釘である。

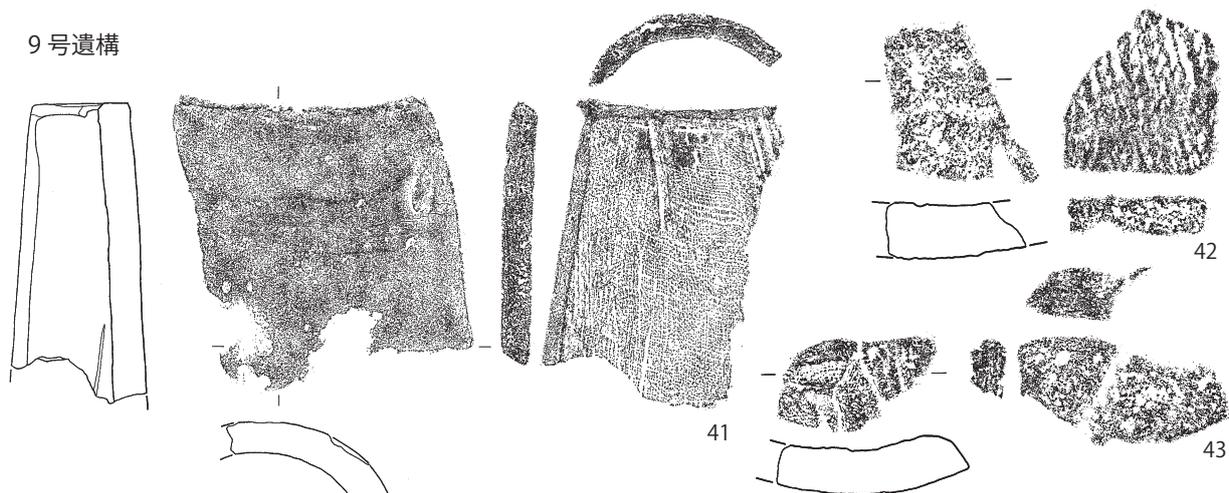
**掘立柱建物跡** 11号遺構(第4図、PL. 3)は調査地点の北側に位置し、3号遺構(竪穴建物跡)を切る。今回の調査は柱穴1本のみで、北西隅の側柱とみられる。主軸方位はN-30°-Wと推定される。確認調査では、東側6.3mにあるピットを同一遺構と考えていたが、その主軸方位上に連続するピットが検出できなかったため、本書では別遺構と判断した。柱掘り方は方形で柱アタリ痕を残す。掘り方規模は0.90m四方、深さ0.56mである。約1.5m離れた西側のピットが支柱の可能性もあるので図示した。出土遺物(第22図、PL. 12)1は須恵器甕片である。

12号遺構(第6・7図、PL. 3)は、調査地点北側の中央付近に位置し、範囲西側(梁間部分)が未掘になると推定される。桁行1間、梁間は3間以上になる。主軸方位はN-8°-Wである。桁行・梁間とも1.50m(5尺)、柱アタリ痕は4ヶ所で認められた。出土遺物(第22図、PL. 13)1は須恵器坏片、2・3は須恵器甕片であり、外面が剥離する。4・5は縄文時代早期条痕文系深鉢片である。4は刻目のある隆帯文。

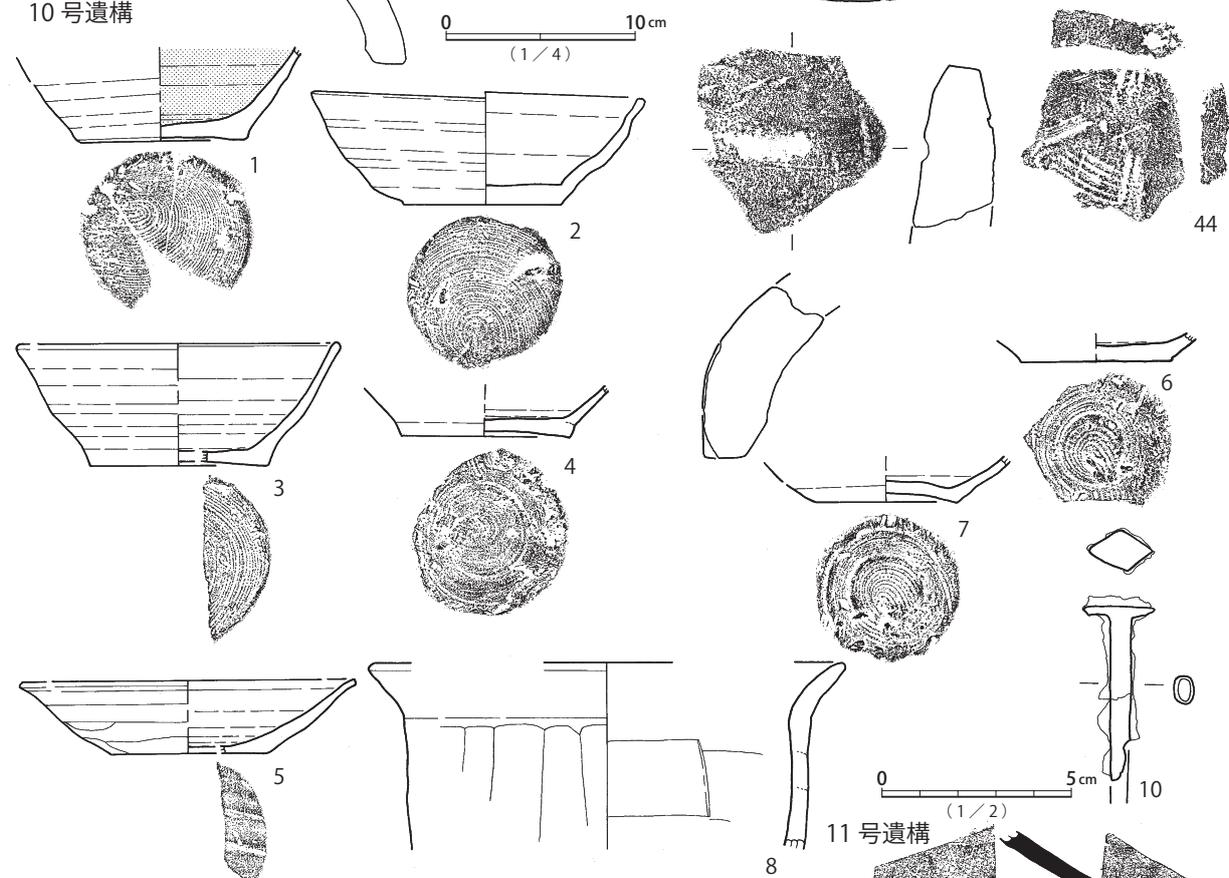
13号遺構(第6~8図、PL. 3・4)は、調査地区の北東側で側柱の西側(桁行)部分とみられる。柱穴5本を検出しているが1本は浅い(0.22m)。桁行は3間と考えて北側から1.80m(6尺)、2.40m(8尺)、2.40m(8尺)の間隔を測る。深さは北側から0.52m、0.49m、0.57m、0.65m、主軸方位はN-8°-Wである。出土遺物(第23図、PL. 13)1は土師器鉢、2・3はロクロ調整による土師器坏片である。

14号遺構(第6~8図、PL. 3・4)は、13号遺構の南西側1.75mにある。柱穴4本で西側(桁行)部分とみられ、桁行3間で北側から2.40m(8尺)、3.00m(10尺)、3.00m(10尺)の間隔を測る。深さは北側から0.44m、0.45m、

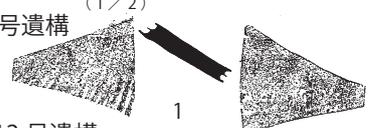
9号遺構



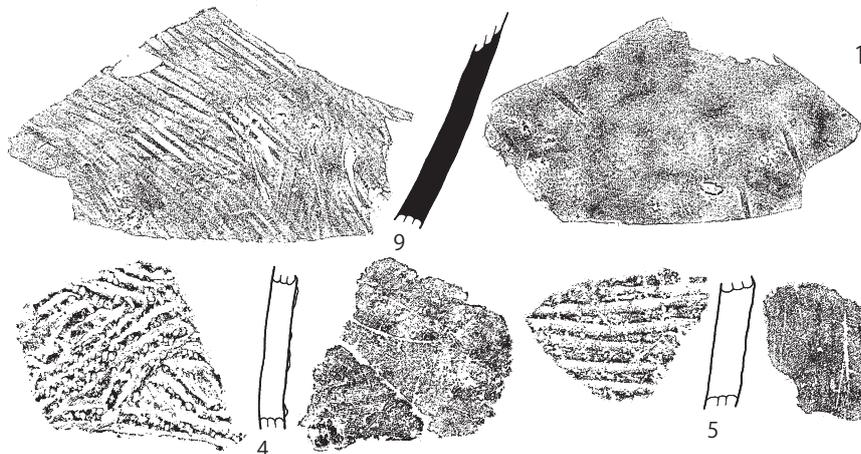
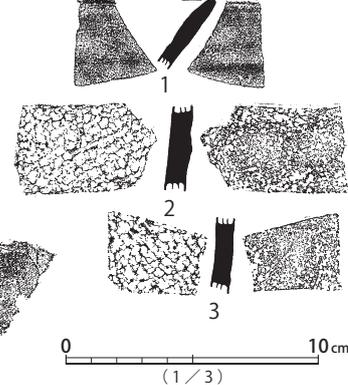
10号遺構



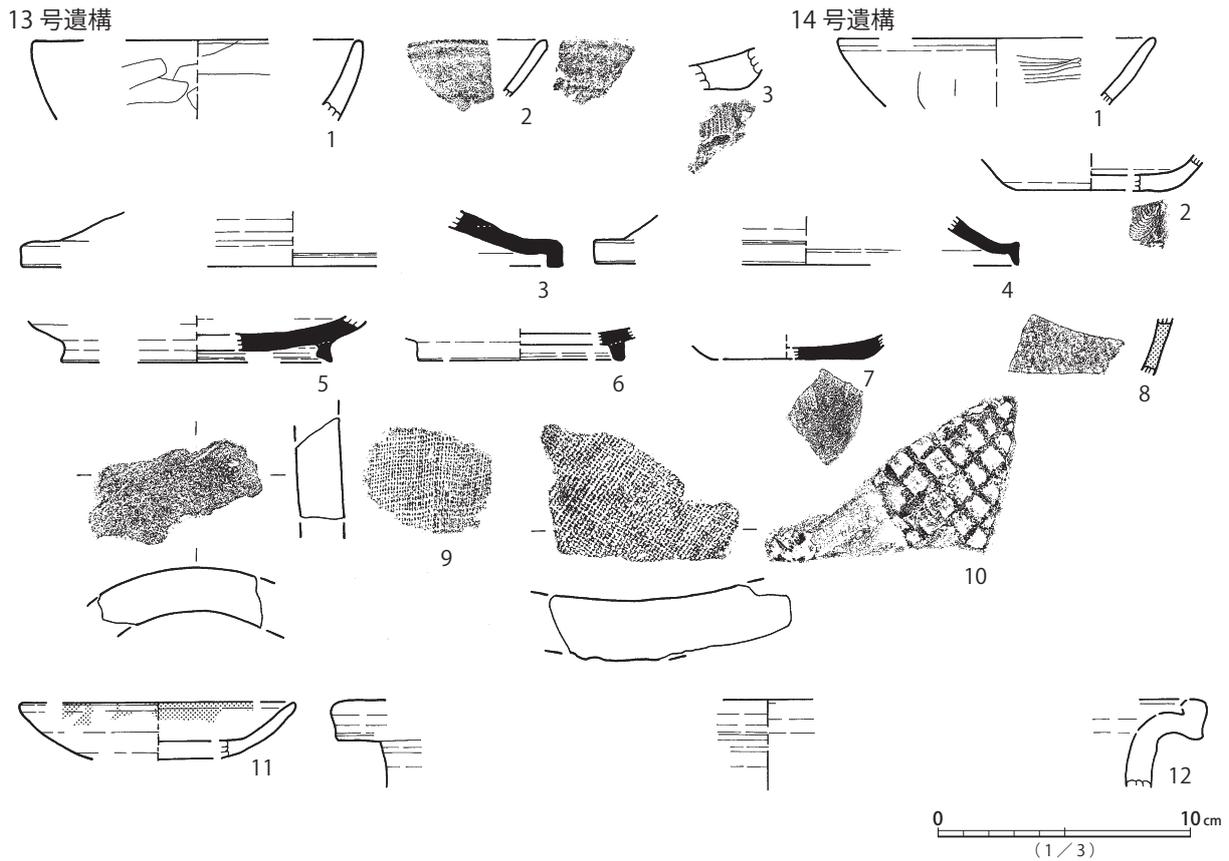
11号遺構



12号遺構



第22図 9~12号遺構出土遺物実測図



第23図 13・14号遺構出土遺物実測図

0.50m、0.65m、梁間は1間分の検出で間隔は2.40m(8尺)を測る。深さは北東側のピットが0.42m、南東側ピットが0.57m、柱掘り方は長方形と不整円形で柱アタリ痕が確認できる。主軸方位はN-9°-Wである。8号遺構に切られ、9号遺構を切っている。なお、13号遺構との新旧は確認できなかった。出土遺物(第23図、PL. 13)1・2はロクロ調整による土師器坏片、3・4は須恵器蓋坏片、5~7は須恵器坏底部片(5・6は高台坏)、8は灰釉陶器甕片、9は丸瓦片、10が平瓦片(格子叩き)、また、遺構に伴わないが11の古瀬戸の緑釉小皿、12の常滑甕口縁部片が周辺から出土している。

15号遺構(第8・9図、PL. 4)は調査地点中央付近で、8号遺構の床面下から検出された。2本のみであり全体プランは不明である。深さは西側から0.15m、0.18m、主軸方位はN-87°-Eとみられる。出土遺物はない。

**土坑** 16号遺構(第8・18図、PL. 4)は、調査地点の中央付近西隅に位置する。西側は未掘である。プランは長方形で、検出規模は0.83m×0.68m、深さ0.19m、主軸方位はN-80°-Eである。出土遺物(第24図、PL. 13)1は須恵器蓋坏片、2は須恵器甕胴部小片、3は灰釉陶器長頸壺片、4は平瓦片である。

17号遺構(第8図、PL. 4)は、9号遺構から西に0.50mに位置する。プランは不整長円形で、検出規模は0.50m×0.65m、深さ0.13m、主軸方位はN-31°-Wである。出土遺物は皆無である。

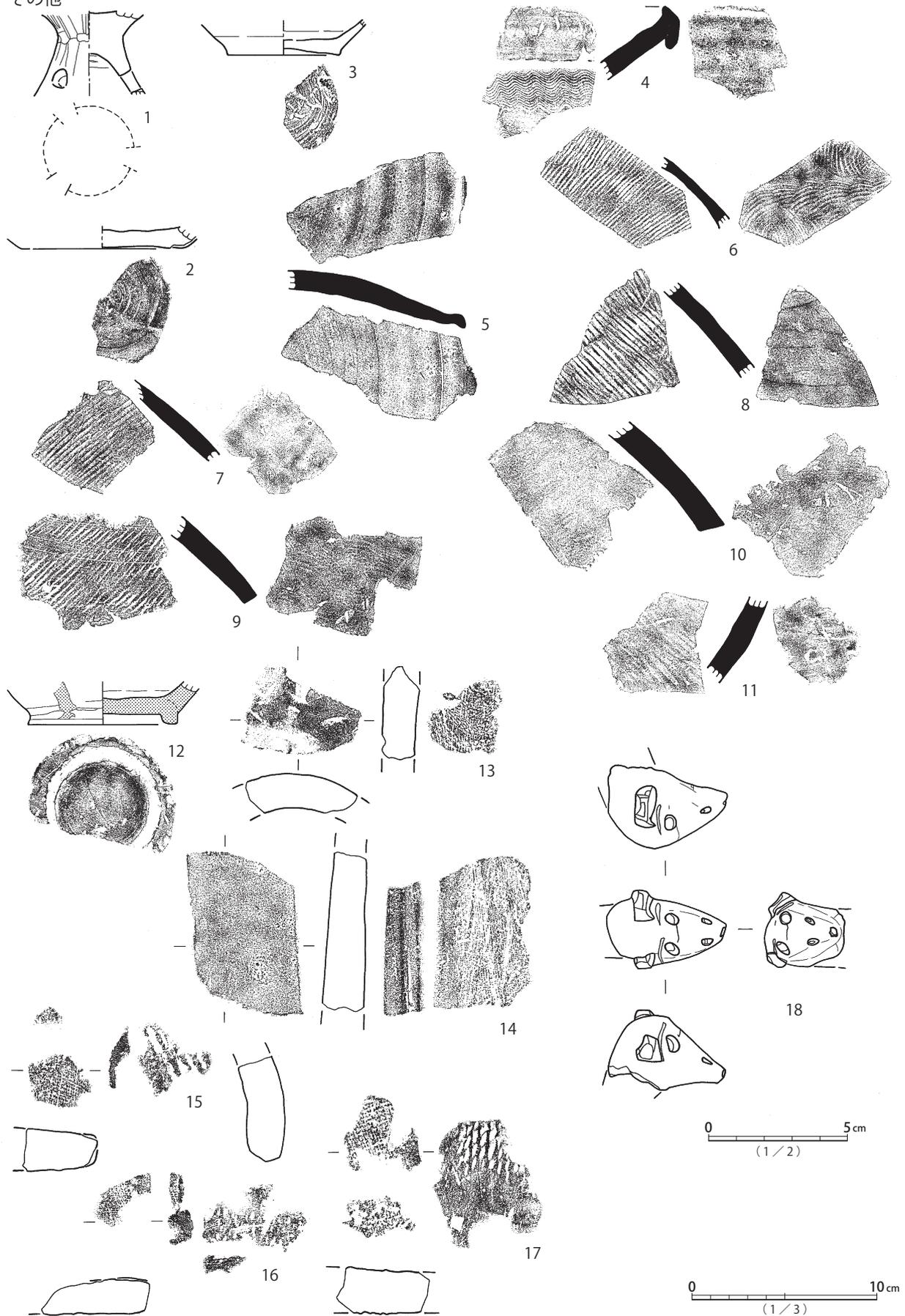
18号遺構(第6・7・8図)は、8号遺構の北西側に位置し、西側が未掘で8号遺構に切られる。不整長円形のプランで、検出規模は0.35m×1.10m、深さ0.20m、主軸方位はN-11°-Wである。出土遺物(第24図、PL. 13)1は須恵器甕胴下部片である。

19号遺構(第6・7・8図)は、8号遺構の南西側に位置し、西側は未掘で、8号遺構を切る。不整円形のピット



第24図 16・18・20～24・27・28号遺構出土遺物実測図

その他



第25図 その他の出土遺物実測図

ト状でプランの検出規模は0.40m×0.30m、深さ0.40mを測る。出土遺物は皆無である。

20号遺構(第8図)は、16号遺構の北側0.25mに近接する。西側がわずかに未掘である。不整長円形のプランで、検出規模は0.55m×0.92m、深さ0.27m、主軸方位はN-40°-Wである。出土遺物(第24図、PL. 13)1は須恵器坏底部片(高台坏)のみである。

21号遺構(第18・19図、PL. 4)は、調査地点中央東側にあり、9号遺構から南に約0.90m離れている。不整形のプランで、検出規模は0.71m×0.73m、深さ0.30m、主軸方位はN-5°-Eである。出土遺物(第24図、PL. 13)1は須恵器坏口縁部片、2は弥生甕片である。

22号遺構(第18図)は、調査地点中央付近西側にあり、16号遺構からは南に約1.0m離れている。プランは不整長方形で、検出規模は0.62m×0.82m、深さ0.33m、主軸方位はN-10°-Eである。出土遺物(第24図、PL. 13)1は土師器二重口縁壺片、2は土師器高坏脚部片、3は縄文土器早期条痕文の深鉢口縁部片である。

23号遺構(第18図、PL. 4)は、調査地点中央西側にあり、22号遺構からは南に約0.70m離れている。南西側は一部未掘である。プランは不整形で、検出規模は1.30m×0.98m、深さ0.30m(ピット内)、主軸方位はN-57°-Eである。出土遺物(第24図、PL. 13)1・2は土師器甑、3は土師器甕片、4は縄文土器早期条痕文、5は後期堀之内式、6は常滑甕胴部片である。

24号遺構(第18図、PL. 5)は、調査地点南側中央付近に位置する。プランは不整長円形で、検出規模は1.15m×2.18m、深さ0.63m、主軸方位はN-44°-Wである。出土遺物(第24図、PL. 13)1はカワラケ片、2は須恵器甕片、3は砂岩製の砥石、4は平瓦片、5は縄文土器早期条痕文の深鉢片である。

25号遺構(第20図、PL. 5)は、調査地点南東側に位置し、東側は未掘である。プランは長円形で、検出規模は0.47m×1.36m、深さ0.23m、主軸方位はN-13°-Wである。平成18年度の確認調査時に短刀が出土している(刃身20.6cm、幅2.0cm、厚さ0.5cm)。今回の調査部分での出土遺物はない。

26号遺構(第6・8図、PL. 5)は、調査地点の中央付近にあり、9号遺構の北側床面を切る。プランは長円形で、規模は0.73m×0.47m、深さ0.20m(ピット内は0.48m)を測る。主軸方位は長軸がほぼ東西を向いている。覆土下位から上下22本の歯(成人か)が検出された(PL. 14)。土坑の大きさから頭部だけの埋葬の可能性も考えられる。他に出土遺物はない。

**ピット群** 27号遺構(第18・20図、PL. 5)は、調査地点の中央付近から南側一帯に散在する。各ピットの大きさは比較的小型で組み合わせは不明である。出土遺物(第24図、PL. 13)1・2は縄文土器早期条痕文、3は縄文土器後期堀之内式の深鉢片、4は土師器高坏脚部片、5はカワラケ、6は古瀬戸壺胴部片である。

**溝** 28号遺構(第18・20図、PL. 5)は、調査地点南東側から北西方向に向けて存在し、調査地点の中央付近で西側未掘地点に入る。最大幅0.70mで、ほぼN-17°-Wの方向で北側に走行する。確認面からの深さは0.12～0.17mである。出土遺物(第24図、PL. 13)1は常滑甕胴下部片、2は須恵器坏底部片(高台坏)である。

29号遺構(第20・21図、PL. 5)は、調査地点の南東側隅にあり、5号遺構を切っている。断面はV字形と推定される。南東側の立ち上がりは未掘。また、南西側にはカクランがある。検出規模は長さ1.10m、幅1.20m、深さ1.26mを測る。出土遺物は皆無である。

**その他の出土遺物** (第25図、PL. 14)1は土師器高坏脚部片で穿孔がある。2・3はロクロ調整による土師器坏片、5は須恵器蓋坏片、4・6～11は須恵器甕片、12は灰釉陶器長頸壺底部片、13・14は丸瓦片、15～17は平瓦片である。18は表採の土製品で、時期は不明であるが、鼠か犬あるいは羊の容姿を想像させる頭部片である。また、図示しなかったが、炉壁片が1号遺構などから出土している(第4表)。

### 3 L4地点

#### (1) 調査概要

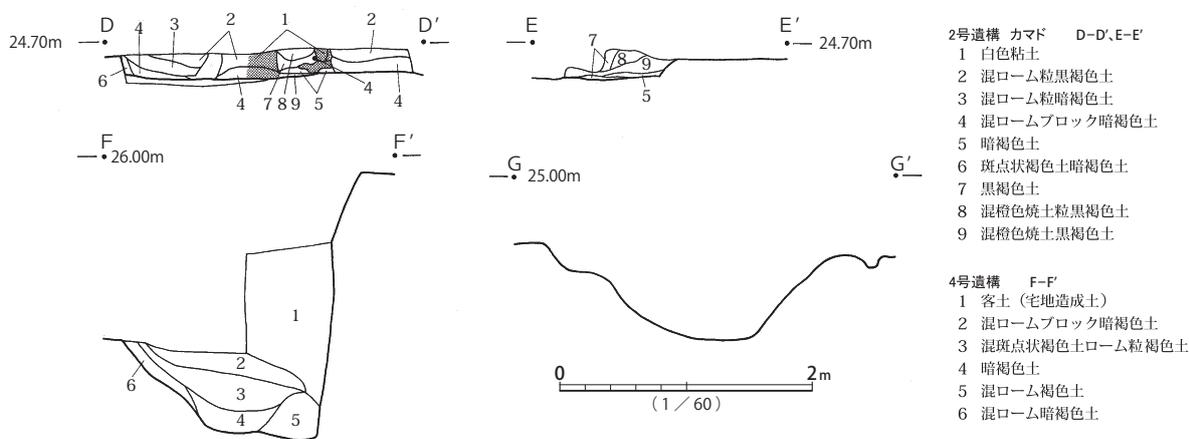
当地点は、L地点の北側中央部に位置する。個人住宅建設に伴い、工事設計内容から遺跡の破壊が想定される建物部分の25㎡について本調査を実施した(第2図)。測量基準点は公共座標値(日本測地系)を使用し、水準点については近隣の既知点から求めた。当地点は、台地の傾斜変換点付近に位置するため、確認調査後の造成により0.50~1.20mの厚さで盛土されていた。盛土と表土は重機により除去し遺構プランを確認した。

#### (2) 遺構と遺物

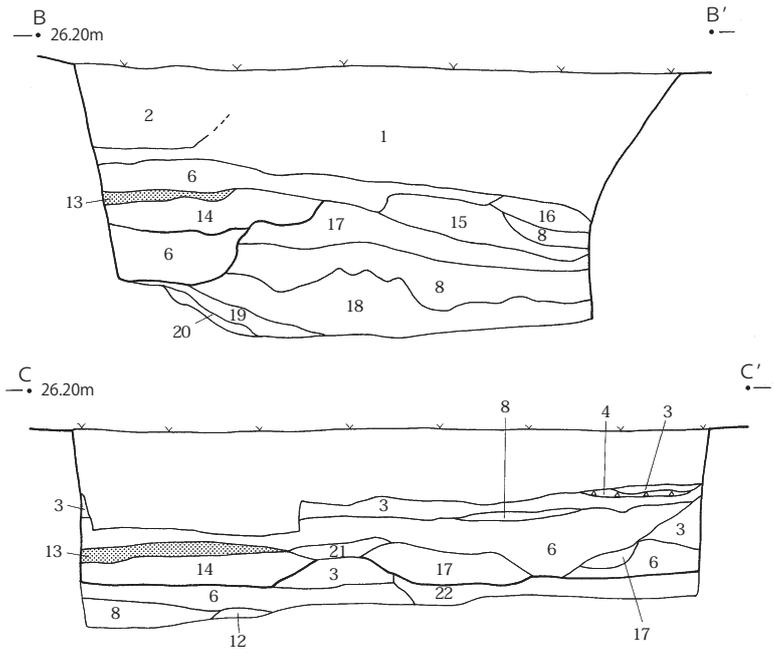
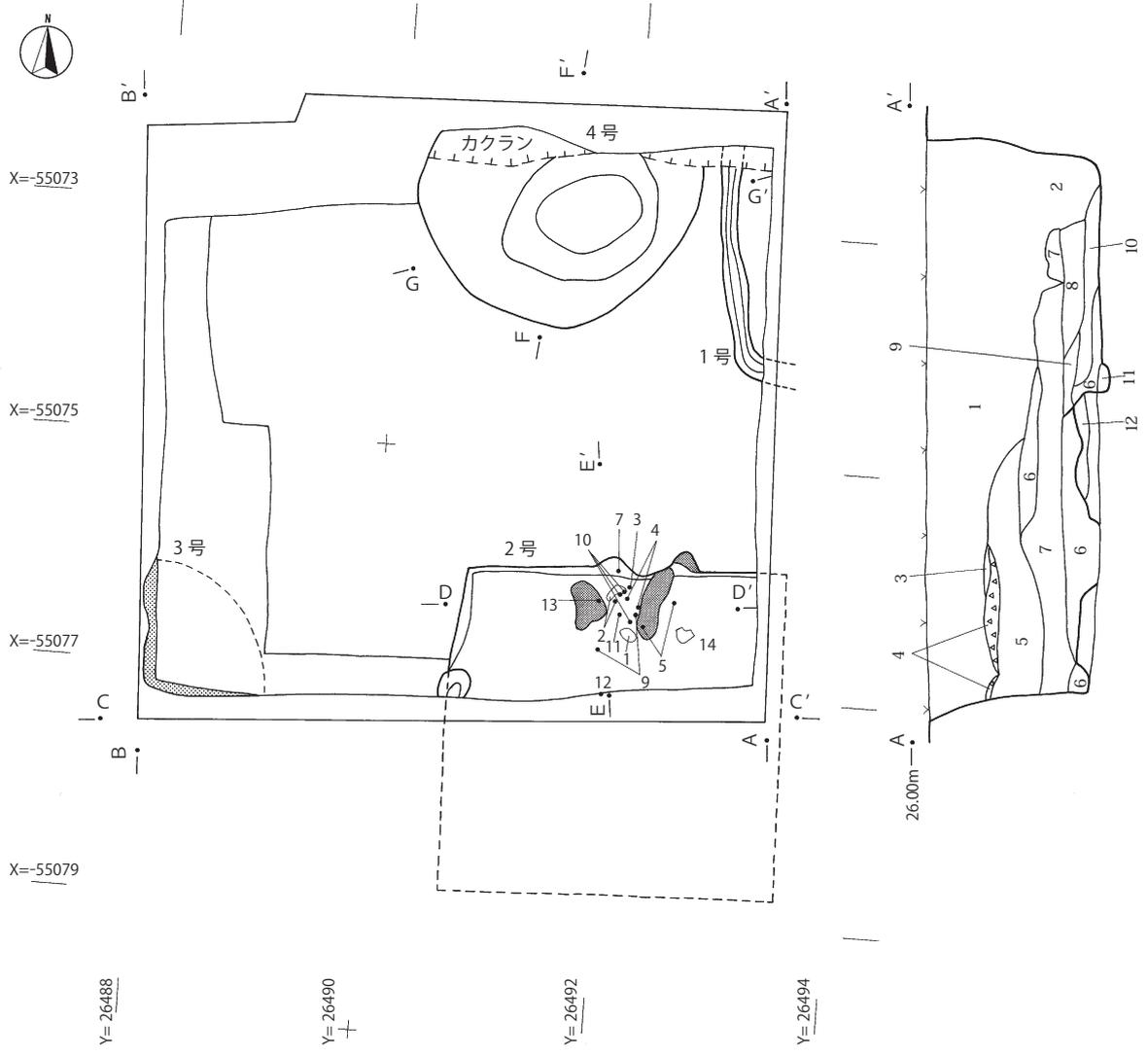
**竪穴建物跡** 1号遺構(第27図、PL. 6)は、調査地点の北東側隅に位置し、竪穴の南西隅部分のみの調査となった。北側にはカクランが入っていた。確認調査で竪穴東側部分のプランが検出されており、全体の平面形体はやや胴張りの方形となる。検出規模は0.40m×1.92m、深さ0.35m、主軸方位はN-1°-Wである。壁の立ち上がりは土層観察により確認した。壁溝(幅0.14m~0.21m)が認められた。出土遺物(第28図、PL. 15)1はロクロ調整による土師器坏口縁部小片、2は土師器甕胴部片である。

2号遺構(第26・27図、PL. 6)は、調査地点の南東側に位置し、ほぼ方形とみられるプラン北側を中心に全体の1/3程度を検出した。検出規模は2.45m×1.24m、推定規模は2.85m×2.70m、深さは0.25m、主軸方位はほぼ真北である。北側中央の壁にカマドが設置され、両袖や逆U字形煙道部などが良く残る。壁溝は認められない。出土遺物(第28・29図、PL. 7・15)1~4はロクロ調整による土師器坏、5~10は土師器甕片、11・12は須恵器甕片であり、11は胴上部に瘤状の把手を付け、土師質である。13~15は平瓦である。16・17は縄文土器後期深鉢片で、地文の縄文はなく、一部を鎖状の貼付文で区画し、半截竹管や櫛状の工具による直線や曲線の沈線文を施す。堀之内式とみられる。18は土師器高坏の坏部片である。

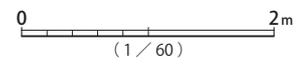
**土坑** 3号遺構(第27図、PL. 6)は、調査地点の南西側にあり、プラン全体の1/4程度を検出した。円形の土坑とみられ、覆土上部に粘土が堆積する。検出規模は1.00m×1.05m、深さは0.70mである。出土遺物(第29・30図、PL. 15・16)1は土師器高坏の坏部片、2は須恵器高台付坏底部片、3~5はカワラケ底部片、6~9は須恵器甕片、10・11は灰釉陶器壺底部付近の破片、12~16は縄文土器で12は早期条痕文、13~16は後期堀之内式とみられる。17はカワラケ片、18は土師器壺底部片、19は丸瓦片、20~23は平瓦片である。



第26図 2・4号遺構土層断面図及び断面図



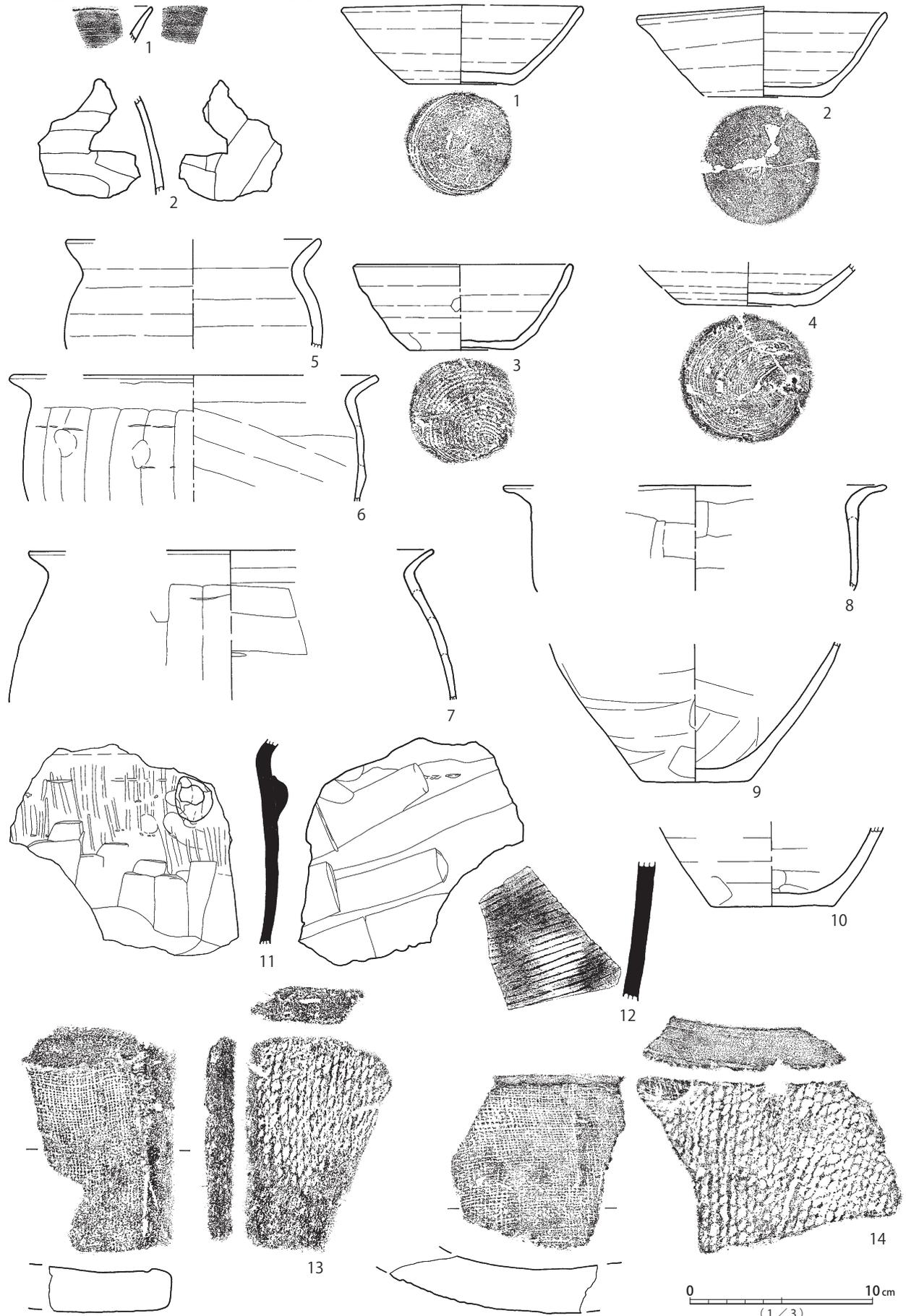
- 1・2・3号遺構 A-A', B-B', C-C'
- 1 客土 (宅地造成土)
  - 2 攪乱
  - 3 灰褐色土
  - 4 混富士宝永火山灰、灰褐色土
  - 5 混黄褐色ローム粒橙色粒明褐色土
  - 6 黒褐色土
  - 7 混褐色土黒褐色土
  - 8 暗褐色土
  - 9 斑点状褐色土 (1号覆土)
  - 10 混斑点状褐色土暗褐色土 (1号覆土)
  - 11 混ローム褐色土 (1号覆土)
  - 12 ローム漸移 (褐色土)
  - 13 混白色粘土灰褐色土 (3号覆土)
  - 14 混灰褐色土褐色土 (3号覆土)
  - 15 混斑点状褐色土暗褐色土
  - 16 混木炭粒暗褐色土
  - 17 暗灰褐色土
  - 18 暗黄褐色土
  - 19 黒色土
  - 20 黄褐色ソフトローム
  - 21 褐色土
  - 22 混ローム黒褐色土



第27図 L4地点遺構実測図、1~3号遺構土層断面図

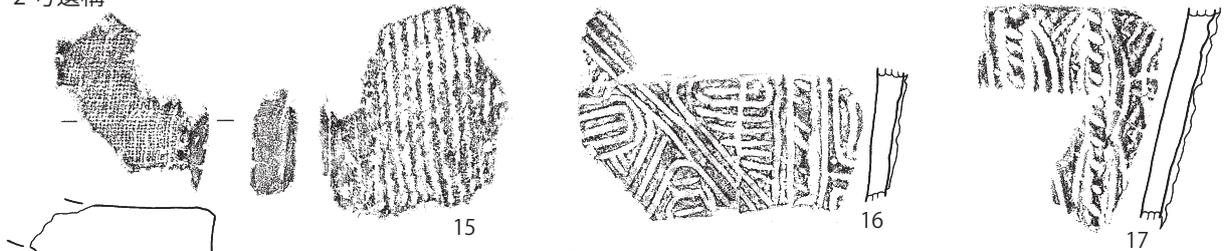
1号遺構

2号遺構

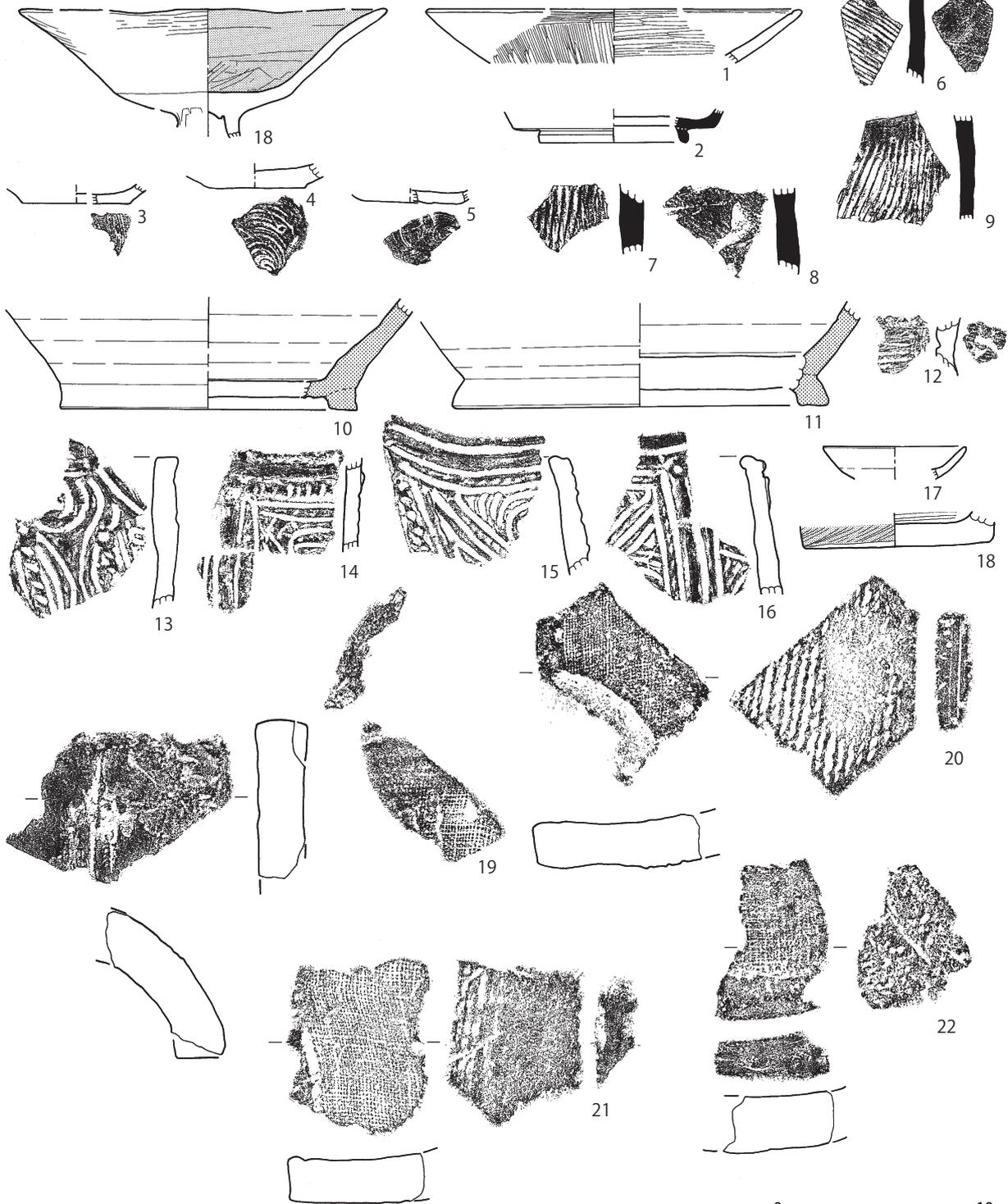


第28図 1・2号遺構出土遺物実測図

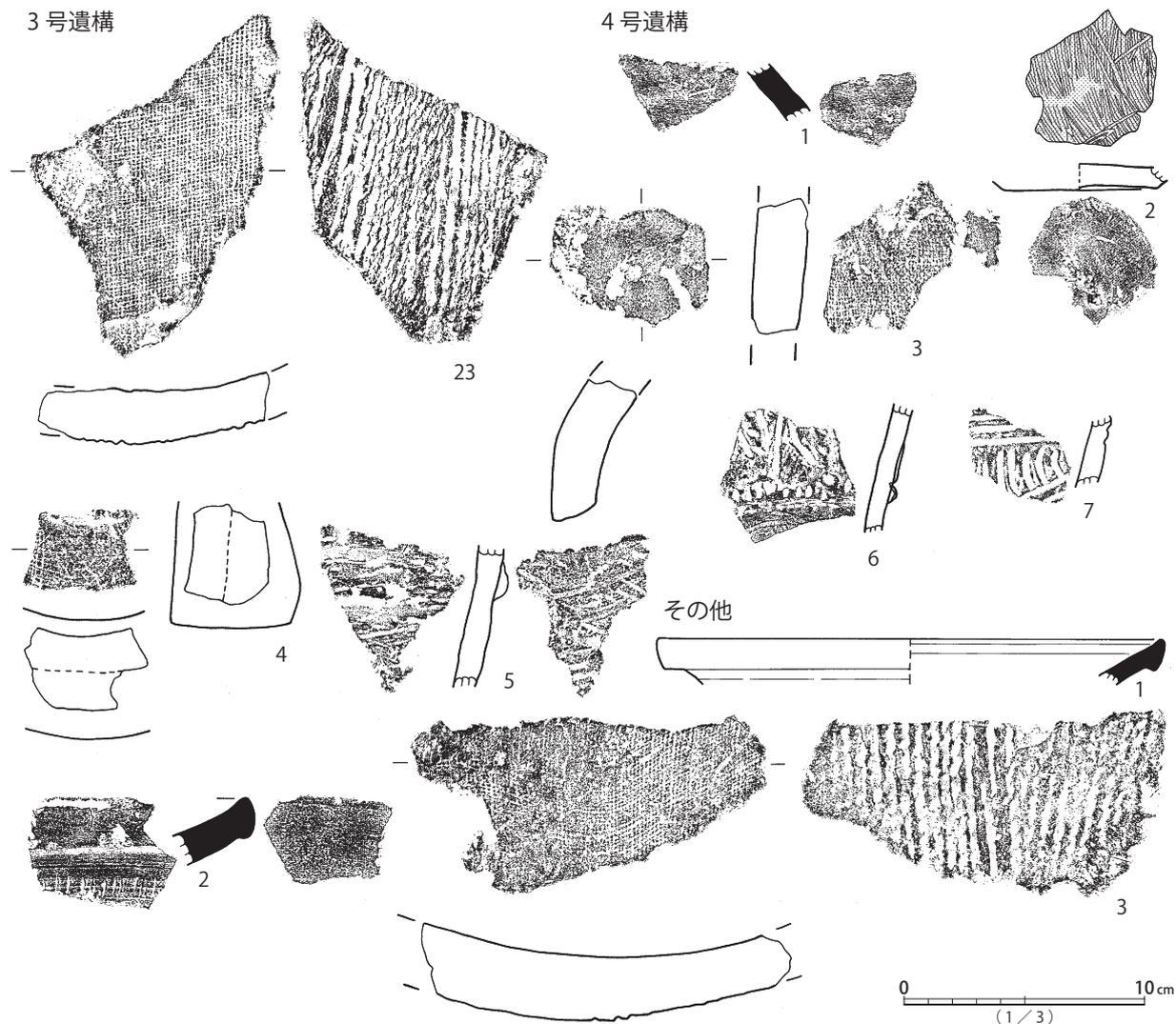
2号遺構



3号遺構



第29图 2·3号遺構出土遺物実測图



第30図 3・4号遺構及びその他の出土遺物実測図

4号遺構(第26・27図、PL. 6)は、調査地点の北東側やや中央寄りに位置し、プランの約60%を調査した。北側にはカクランが入っている。形体は不整長円形とみられる。検出規模は2.03m×1.67m、深さは0.80m、主軸方位(長軸)はN-37°-Eである。出土遺物(第30図、PL. 16)1は須恵器甕片、2はロクロ調整による土師器坏底部片、3は丸瓦片、4は軒平瓦小片(瓦当文様面欠損)である。5~7は縄文土器深鉢片で、5は早期条痕文、6・7は縄文後期堀之内式とみられる。

その他の出土遺物 出土遺物(第30図、PL. 16)1・2は須恵器甕口縁部片、3は平瓦片である。

## 4 まとめ

本書は、L地点内のL1・L4地点2ヶ所の本調査成果を収録した。

L1地点は、L地点東側中央の南北に長い調査区で、検出された遺構は、竪穴建物跡が弥生時代後期4軒、古墳時代前期1軒、平安時代5軒であり、掘立柱建物跡が平安時代の5棟分、他に平安時代土坑11基、中世ピット群1ヶ所、溝1条、時期不明溝1条(中世か)である。L地点北端のL4地点では、竪穴建物跡が平安時

代2軒、中世土坑2基を検出した。

弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡は、山田橋表通遺跡、山田橋大山台遺跡、能満唐崎台遺跡、天神台遺跡、中台遺跡、御林跡遺跡、南中台遺跡、長平台遺跡など、周辺遺跡で数多く確認されているが、稲荷台遺跡でも分布は希薄ではあるが散見できる。L1地点での各遺構の時期は、出土遺物が少量であるため確実ではないが、弥生後期が2～5号遺構、このうち4・5号は弥生終末期の中台式期(大村2009)である。1号遺構は古墳時代前期の草刈式期(大村2009)と推定しておく。

平安時代では、8号遺構で覆土に廃棄された多数の土師器坏や瓦片などとともに、緑釉陶器把手付坏が出土している。これは前例のない優品である。E地点では多数の緑釉陶器が出土しているが、今回の調査では、この他の出土緑釉陶器はいずれも小片で少量であった。各遺構の時期は、竪穴建物跡の6・7・8・9号遺構が坊作Ⅴ期(小出2002)・稲荷台Ⅱ期(浅利2003)で9世紀中葉、10号遺構が坊作Ⅵ期・稲荷台ⅢA期で9世紀後葉に比定される。11～15号遺構(掘立柱建物跡)と16～26号遺構(土坑)についても9世紀中葉前後と考えているが、8号遺構に対して14・15・18・19号遺構が、また9号遺構に対して14・26号遺構が重複し、時期差が存在する。土坑の性格については、25・26号遺構が出土遺物から土坑墓とみられる。また、27号遺構(ピット群)と28号遺構(溝)は中世と考えている。29号遺構(溝)についても、伴出遺物がないが、覆土や形態から中世と推定しておく。

L4地点は、北側への台地傾斜変換点付近に位置し、4基の遺構が確認された。そのうち2号遺構は坊作Ⅵ期・稲荷台ⅢA期、1号遺構はロクロ調整による土師器坏の小片1点のみの出土であるが、遺構の形体等から2号遺構と同時期と考えている。土坑は径1m以上と規模が大きく3号遺構は中世、4号遺構についても中世遺物は出土していないが、土層の観察から3号遺構と同様の時期と推定しておく。性格は不明である。

少量ではあるが縄文土器片も出土している。これは当地南東側に所在する山田橋亥の海道具塚(忍澤1992)と関連する可能性がある。また、中世の遺構検出は、当遺跡南側の宮前遺跡との関連性を伺わせるものである。

L地点は、今回の報告以外にもL2・L3・L5・L6・L7地点を個人住宅建設に伴って調査しているが、まだ未調査部分もあり全体像は判明していない。しかし、L1・L4地点では、平安時代(9世紀後半頃)を中心とする遺構が検出され、遺構密度はやや薄いものの、E地点で検出された官衙的祭祀空間が台地北側まで広がっていたことが推定される。

なお、L1地点8号遺構出土の緑釉陶器把手付坏について、大阪大学高橋照彦教授に御指導いただきましたことを、末尾ながら記して感謝申し上げます。

## 参考文献

- ・財団法人市原市文化財センター 市原市教育委員会2003「市原市稲荷台遺跡(本文編)」『上総国分寺台遺跡調査報告書Ⅸ 財団法人市原市文化財センター調査報告書第83集』
- ・市原市教育委員会2007「稲荷台遺跡L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』
- ・市原市教育委員会2014「稲荷台遺跡L2地点・L3地点」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』
- ・千葉県市原市教育委員会1977『千葉県市原市宮前遺跡第1次・第2次調査報告書—平野考古学研究所編—』
- ・小出紳夫2002「(1)坊作遺跡における土器の変遷」P231～262『上総国分寺台遺跡調査報告Ⅵ 千葉県市原市坊作遺跡(第1分冊 本文編)』市原市教育委員会
- ・浅利幸一2003「第2節 稲荷台遺跡時期区分と変遷」P425～433「市原市稲荷台遺跡(本文編)」『上総国分寺台遺跡調査報告書Ⅸ 財団法人市原市文化財センター調査報告書第83集』財団法人市原市文化財センター 市原市教育委員会

- ・大村直2009「第4章総括 第1節南中台遺跡と周辺遺跡の土器編年」P299～335『市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集 上総国分寺台遺跡調査報告XX 市原市南中台遺跡・荒久遺跡A地点』市原市教育委員会
- ・鶴岡英一2013「第5章総括 第2節竪穴建物の規模と平面形態」P563～573『市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第24集 上総国分寺台遺跡調査報告XXII 市原市南中台遺跡(本文編)』市原市教育委員会
- ・忍澤成視1992「Vまとめ」P187～188『財団法人市原市文化財センター調査報告書第48集 市原市山田橋亥の海道具塚』財団法人市原市文化財センター

第2表 土器・瓦観察表（計測単位はcm）

図No.	遺構・遺物No.	地名	取上げ方法	取上げNo.	層位	種別	器種	口径	口径残存	底径	底径残存	最大径	器高	胎土・含有物	構成	色調	調整等
10	1号遺構	1 1地点	一括	6		土師器	埴	(15.0)	1/4					白色粒、雲母	良好	橙	外面ヘラケズリ後ヘラナナデ、内面上半ヘラミガキ、下半指頭ナデ。外内面赤彩。
10	1号遺構	2 1地点	点上浮	2	覆土	弥生土器	壺							白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐	外面羽状細文(LR) (RL)、口唇部単節斜細文、棒状貼付文に刻み目(ヘラ状工見)。二重口縁。
10	1号遺構	3 1地点	一括	23		弥生土器	壺							白色粒、赤色粒、雲母	良好	橙	外内面指頭ナデ。外節斜細文、赤彩残存。内面口唇部斜細文(RL)、胴部羽状細文(RL) (LR)、縦筋体による刻み目。二重口縁。
10	1号遺構	4 1地点	一括	23		弥生土器	鉢							白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄橙	外内面指頭ナデ、内面羽状細文(LR) (RL)。
10	1号遺構	5 1地点	一括	3		土師器	壺							白色粒、赤色粒、雲母	良好	橙	外面ヨコナデ、内面指頭ナデ、横方向ハケ目。二重口縁。
10	1号遺構	6 1地点	一括	7・8・22		土師器	甕							白色粒、赤色粒、雲母	良好	灰褐	外面ハケ目、一部ヘラナナデ、内面ヘラナナデ、指頭ナデ。煤付着。
10	1号遺構	7 1地点	一括	12・19		土師器	甕							白色粒、雲母	良好	黒	外面ハケ目後ヘラミガキ、内面ヘラナナデ。
10	1号遺構	8 1地点	一括	15		土師器	甕							白色粒、雲母	良好	黒	外面ヘラミガキ、内面ヘラナナデ。
10	1号遺構	9 1地点	一括	10		土師器	甕							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄褐	外面ハケ目、内面ヘラナナデ。
10	1号遺構	10 1地点	一括	14・16		土師器	甕							白色粒、雲母	良好	浅黄橙	外面ハケ目後ヘラミガキ、内面ヘラナナデ、指頭ナデ。
10	1号遺構	11 1地点	一括	18		土師器	甕							白色粒、雲母	良好	黒	外面ハケ目一部ヘラナナデ、内面ヘラナナデ。
10	1号遺構	12 1地点	一括	15・17		土師器	甕			6.1	3/5			白色粒、赤色粒、雲母	良好	橙	外面ヘラミガキ、内面胴部ヘラナナデ、底部ハケ目。
10	2号遺構	1 1地点	一括	3		弥生土器	甕							砂粒	良好	橙	外面指頭ナデ、内面ヘラナナデ。
10	2号遺構	2 1地点	一括	1		弥生土器	甕							にぶい、橙	良好	にぶい、橙	外面指頭ナデ、内面ヘラナナデ。
10	2号遺構	3 1地点	一括	1		弥生土器	壺							白色粒	やや甘い	にぶい赤褐	単節斜細文(LR)、外面赤彩。
10	3号遺構	1 1地点	一括	2		弥生土器	壺							白色粒、雲母	良好	にぶい、橙	内面指頭ナデ、ヘラナナデ。外面斜細文(LR)。二重口縁。
10	3号遺構	2 1地点	一括	2		弥生土器	壺							白色粒、赤色粒	やや甘い	にぶい、橙	外面縦方向ヘラミガキ、内面縦方向ヘラミガキ。外面斜細文(LR)。二重口縁。
10	3号遺構	3 1地点	一括	2		須恵器	露环							雲母	良好	灰灰	外内面口クロ調整。宝珠つまみ部分。
10	4号遺構	1 1地点	点上浮	13・16	覆土	弥生土器	甕							白色粒、雲母	良好	橙	外面下部ヘラナナデ、内面横位、斜めヘラミガキ。
10	4号遺構	2 1地点	一括	3		縄文土器	深鉢							白色粒、雲母	良好	にぶい黄橙	内面横位ヘラナナデ。集合沈線文。堀之内式。
10	4号遺構	3 1地点	一括	15		弥生土器	壺			(8.0)	1/2			白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい、橙	内面指頭ナデ。斜細文(RL)とS字基線筋文を沈線で区画した格子細文。無文部に赤彩。
10	4号遺構	4 1地点	点上浮	7・8	覆土	弥生土器	甕							白色粒、黒色粒	やや甘い	にぶい、褐	外面ヘラナナデ、内面指頭ナデ。
10	4号遺構	5 1地点	点上浮	1	覆土	弥生土器	壺							白色粒、赤色粒	良好	橙	外面縦位、横位ヘラミガキ、内面ヘラナナデ。赤彩残存あり。大型。
10	6号遺構	1 1地点	点上浮	5	床直	土師器	環	(12.4)	1/4					白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄褐	外面ヘラミガキ、底部ヘラケズリ、内面指頭ナデ。
10	6号遺構	2 1地点	点上浮	7	床直	土師器	環	(14.0)	1/6					白色粒、赤色粒、雲母	良好	浅黄橙	外内面口クロ調整。
10	6号遺構	3 1地点	点上浮	8	床直	土師器	環	(16.0)						白色粒、雲母	良好	にぶい黄橙	外内面口クロ調整。
10	6号遺構	4 1地点	一括	3		土師器	環							白色粒	良好	黒	外内面口クロ調整。内面横方向のヘラミガキ。
10	6号遺構	5 1地点	一括	3		土師器	環				1/4			白色粒、雲母	良好	にぶい、橙	外内面口クロ調整。ヘラナナデ。底面転糸切り。
10	6号遺構	6 1地点	一括	3		土師器	環			5.1				白色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整。底面回転ヘラケズリ。
10	6号遺構	7 1地点	一括	3		土師器	環							白色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整。底面回転糸切り。
11	6号遺構	8 1地点	一括	3		須恵器	壺	(12.0)	1/6					白色粒	良好	灰白	自然釉。長頸壺。
11	6号遺構	9 1地点	一括	3		須恵器	甕							白色粒、雲母	良好	灰灰	外面平行叩き、内面向心円状当て具痕。指頭ナデ。
11	6号遺構	10 1地点	一括	3		須恵器	甕							白色粒、雲母	良好	灰白	外面平行叩き、内面向心円状当て具痕。
11	6号遺構	11 1地点	一括	3		須恵器	壺							白色粒、赤色粒	良好	黒	外面平行叩き、ヘラナナデ、内面向心円状当て具痕。指頭ナデ。
11	6号遺構	11 1地点	一括	3		須恵器	壺							雲母	良好	灰白	外面ヘラナナデ、内面指頭ナデ。
11	7号遺構	12 1地点	一括	1	瓦	平	瓦							白色粒、赤色粒、雲母	やや不良	灰黄褐	細目叩き。91.6g。
11	7号遺構	1 1地点	一括	1		土師器	環	(13.0)	1/10					白色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整。外面ナデ(指頭痕あり)、内面横方向ヘラミガキ。
11	7号遺構	2 1地点	一括	1		土師器	環	(12.4)	1/15					白色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整。
11	7号遺構	3 1地点	一括	1		土師器	環	(13.0)	1/12					白色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整。
11	7号遺構	4 1地点	一括	1		土師器	環	(13.0)	1/20					白色粒、雲母	やや甘い	にぶい黄橙	外内面口クロ調整。
11	8号遺構	1 1地点	点上浮	32	覆土	土師器	環	(11.6)	1/8					白色粒、雲母	良好	にぶい、橙	外内面口クロ調整。
11	8号遺構	2 1地点	一括	115		土師器	環	(12.8)	1/6					雲母	やや甘い	にぶい、褐	外内面口クロ調整。
11	8号遺構	3 1地点	点上浮	95	覆土	土師器	環	(13.6)	1/6					雲母	良好	にぶい、橙	外内面口クロ調整。
11	8号遺構	4 1地点	一括	166	覆土	土師器	環	(14.0)	1/8					白色粒、雲母	良好	明赤褐	外内面口クロ調整。内面ヘラミガキ、底部ヘラケズリ。
11	8号遺構	5 1地点	点上浮	103	覆土	土師器	環	(12.6)	1/6					雲母	良好	にぶい黄橙	外内面口クロ調整。底部ヘラケズリ。

図No.	遺構・遺物No.	地点名	取上方法	取上号No.	層位	種別	器種	口径	口径残存	底径	底径残存	最大径	器高	脂土・含有物	焼成	色調	調整等
11	8号遺構	L1地点	点土片	101・148・180	覆土	土師器	環	(14.0)						白色粒、雲母	良好	灰褐	外内面クロク調整、内面黒色処理、ヘラミガキ、底面回転ヘラケズリ。
11	8号遺構	L1地点	一括			土師器	環			6.5	4/5			雲母	良好	にぶい橙	外内面クロク調整、底面ヘラケズリ、底面回転系切り。
11	8号遺構	L1地点	点土片	8	覆土	土師器	高台杯			7.2	1/2			雲母	良好	にぶい橙	外内面クロク調整、内面黒色処理、ヘラミガキ。
11	8号遺構	L1地点	点土片	60・115	覆土	土師器	環	(14.0)	1/6	(8.2)	1/8		(4.4)	白色粒	良好	にぶい黄緑	外内面クロク調整、底面回転系切り。
11	8号遺構	L1地点	点土片	100	覆土	土師器	高台杯			6.4	1/1			白色粒、雲母	良好	にぶい橙	外内面クロク調整、内面黒色処理、ヘラミガキ、底面回転系切り。
11	8号遺構	L1地点	点土片	101	覆土	土師器	環	(18.0)	1/10					雲母	良好	にぶい黄緑	外内面クロク調整、内面黒色処理、ヘラミガキ。
11	8号遺構	L1地点	点土片	136	覆土	土師器	環	13.4		6.7			4.1	白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄緑	外内面クロク調整、底面回転系切り。
11	8号遺構	L1地点	点土片	164	覆土	土師器	環	(13.8)	2/3	(6.4)	4/5		(4.3)	白色粒、赤色粒、雲母、海綿	良好	浅黄緑	外内面クロク調整、底面ヘラケズリ。
11	8号遺構	L1地点	点土片	83・114・135・154	覆土	土師器	環	17.5	2/3	7.2	2/3		5.2	白色粒、赤色粒、雲母	良好	浅黄緑	外内面クロク調整、内面黒色処理、底面回転ヘラケズリ。
11	8号遺構	L1地点	点土片	56	覆土	土師器	高台杯	13.2		6.7			4.6	雲母	良好	にぶい橙	外内面クロク調整、内面黒色処理、底面回転ヘラケズリ。煤付着。
11	8号遺構	L1地点	点土片	13・14・15・115	覆土	土師器	環	(16.0)	4/5	(6.8)	1/1		(5.5)	砂粒、雲母	良好	明黄褐	外内面クロク調整、内面黒色処理、底面回転ヘラケズリ。火傷痕。
11	8号遺構	L1地点	点土片	69	覆土	土師器	高台杯			(7.2)	1/10			雲母	良好	明黄褐	内外面クロク調整、外面指頭ナズ、内面黒色処理、ヘラミガキ。
11	8号遺構	L1地点	点土片	136	覆土	土師器	環			(7.4)	1/5			雲母	良好	にぶい黄	内外面クロク調整、外面指頭ナズ、底面回転系切り。
11	8号遺構	L1地点	一括	168	床下	土師器	環			(7.2)	1/6			雲母	良好	にぶい黄緑	内外面クロク調整、内面黒色処理、ヘラミガキ、底面ヘラケズリ。
11	8号遺構	L1地点	点土片	90	覆土	土師器	環			(8.1)	1/8			白色粒、雲母	やや甘い	にぶい橙	内外面クロク調整、底面回転系切り。
12	8号遺構	L1地点	点土片	156	覆土	土師器	襲	(17.8)	1/6					白色粒、雲母	やや甘い	にぶい橙	外面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラケズリ、内面口縁部ヨコナズ、頸部指頭ナズ、胴部縦位ヘラナズ。
12	8号遺構	L1地点	点土片	153	覆土	土師器	襲	(18.0)	1/8					砂粒、雲母	良好	暗赤灰	外面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラケズリ、内面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラナズ、指頭ナズ。
12	8号遺構	L1地点	点土片	5・75	覆土	土師器	襲	(20.8)	1/5					赤色粒、雲母、海綿	良好	黒褐	外面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラケズリ、内面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラナズ、指頭ナズ。
12	8号遺構	L1地点	点土片	42	覆土	土師器	襲	(21.7)	1/6					赤色粒、雲母	良好	橙	外面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラケズリ、内面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラナズ、指頭ナズ。
12	8号遺構	L1地点	点土片	107	覆土	土師器	襲	(20.4)	1/6					赤色粒、雲母	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラケズリ、内面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラナズ。
12	8号遺構	L1地点	点土片	82	覆土	土師器	襲	(24.0)	1/8					砂粒、赤色粒、雲母	やや甘い	橙	外面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラケズリ、内面口縁部ヨコナズ、胴部縦位ヘラナズ。
12	8号遺構	L1地点	点土片	40・54・115	覆土	土師器	鉢	(10.0)	1/3					雲母	良好	灰褐	外内面頸部ヨコナズ、胴部指頭ナズ。指頭痕。
12	8号遺構	L1地点	点土片	146	覆土	土師器	鉢			(5.6)	1/4			白色粒、雲母	良好	にぶい橙	内面ヘラナズ、指頭ナズ、底面ヘラケズリ。
12	8号遺構	L1地点	一括	59	覆土	須恵器	襲		1/16					白色粒	良好	オリーブ黒	外内面ヨコナズ。自然釉。
12	8号遺構	L1地点	点土片	70	覆土	須恵器	高台杯			(10.2)	1/4			白色粒	良好	灰白	底面回転ヘラケズリ。自然釉。
12	8号遺構	L1地点	一括	96	覆土	須恵器	襲			8.2	1/1			砂粒、白色粒	良好	灰黄	外面平行叩き、内面同心円状当て具痕。
12	8号遺構	L1地点	点土片	130・115	覆土	須恵器	襲							白色粒	良好	黄灰	外面平行叩き、内面同心円状当て具痕。
12	8号遺構	L1地点	一括	19	覆土	須恵器	襲			(12.0)				白色粒、雲母	良好	黄灰	外面平行叩き、内面同心円状当て具痕。
12	8号遺構	L1地点	一括	7	覆土	須恵器	襲							白色粒	良好	浅黄	横位羽状細文。
12	8号遺構	L1地点	一括	147	覆土	弥生土器	壺							白色粒	良好	にぶい橙	横位羽状細文。
12	8号遺構	L1地点	一括	115	覆土	弥生土器	襲							雲母	良好	橙	外面ヨコナズ、口唇部押捺波状文、輪積み痕。
12	8号遺構	L1地点	一括	115	覆土	弥生土器	壺							雲母	やや甘い	にぶい黄緑	頸部S字状縮細文、胴部縮細文。
12	8号遺構	L1地点	一括	115	覆土	弥生土器	壺							白色粒	良好	にぶい橙	網目状狂痕。
13	8号遺構	L1地点	点土片	1	覆土	緑釉陶器	把手付環	(8.4)	1/8	6.5	1/1	(10.2)	6.9	白色粒	良好	オリーブ灰	外内面クロク調整、把手周辺及び、底面回転ヘラケズリ。トチン痕、刷毛痕り、一部縁り残しあり。
13	8号遺構	L1地点	点土片	92		土師器	置カマド形土器?							白色粒、赤色粒	良好	浅黄緑	外面指頭ナズ、内面横位指頭ナズ。突帯部有り、輪積み痕、爪痕。
13	8号遺構	L1地点	点土片	163	覆土	瓦	丸							白色粒、雲母	やや不良	明褐	横位ヘラケズリ後指頭ナズ、内面縦位細状の条線。1.328g。
13	8号遺構	L1地点	点土片	131	覆土	瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄緑	横位ヘラケズリ後指頭ナズ、内面後端部ヘラケズリ。煤付着。400g。
13	8号遺構	L1地点	点土片	133	覆土	瓦	丸							白色粒、雲母	良好	灰黄褐	細めの細叩きが残り、ヘラケズリ後ナズ。142.4g。
14	8号遺構	L1地点	点土片	121	覆土	瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	やや不良	にぶい黄緑	横位ヘラケズリ後指頭ナズ。352g。
14	8号遺構	L1地点	一括	184	覆土	瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄褐	横位ヘラナズ後指頭ナズ、内面突端部ヘラケズリ。191.2g。

図No.	遺構・遺物No.	地点名	取土方法	取土層No.	層位	種別	器種	口徑	口徑残存	底径	底径残存	最大径	器高	土・含有物	構成	色調	調整等
14	8号遺構	L1地点	点土層	145・147	覆土	瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐色	ヘラナデ後指頭ナデ。89.5g。
14	8号遺構	L1地点	点土層	120	覆土	瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	やや不良	黄褐色	ヘラケズリ後指頭ナデ。94.3g。
14	8号遺構	L1地点	点土層	103	覆土	瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐色	細明き (LR)。530g。
14	8号遺構	L1地点	点土層	139	覆土	瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐色	ヘラナデ後指頭ナデ。61.7g。
14	8号遺構	L1地点	点土層	134	覆土	瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄褐色	縦位ヘラケズリ後指頭ナデ、細めの細明き痕が残る。97.7g。
14	8号遺構	L1地点	点土層	93	覆土	瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄褐色	縦位ヘラケズリ後指頭ナデ。190.4g。
14	8号遺構	L1地点	点土層	126	覆土	瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄褐色	ヘラケズリ。道具瓦?。59.3g。
14	8号遺構	L1地点	点土層	119	覆土	瓦	平							白色粒	良好	灰黄褐色	細明き (LR)。213.2g。
15	8号遺構	L1地点	点土層	48・65・133	覆土	瓦	平							白色粒、雲母	良好	にぶい黄褐色	細明き (LR)。指頭痕。388g。
15	8号遺構	L1地点	点土層	12	覆土	瓦	平							白色粒、赤色粒	良好	にぶい黄褐色	細明き (LR)。165.5g。
15	8号遺構	L1地点	点土層	102・116	覆土	瓦	平							白色粒、赤色粒	良好	にぶい黄褐色	細明き (LR)。81.6g。
15	8号遺構	L1地点	点土層	21	覆土	瓦	平							白色粒、雲母	良好	黄褐色	細明き (LR)。83.5g。
15	8号遺構	L1地点	一括	148	瓦	瓦	平							白色粒、雲母	やや不良	黄褐色	格子明き。16.2g。
15	8号遺構	L1地点	一括	115	瓦	瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	やや不良	にぶい黄褐色	格子明き。112.3g。
15	8号遺構	L1地点	一括	148	瓦	瓦	平							白色粒、雲母	良好	灰黄褐色	細明き (LR)。83.8g。
15	8号遺構	L1地点	点土層	104	覆土	瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄褐色	細明き (LR)。48g。
15	8号遺構	L1地点	点土層	149	覆土	瓦	平							白色粒、雲母	良好	にぶい黄褐色	細明き (LR)。166.7g。
15	9号遺構	L1地点	点土層	96・121	床下	土師器	坏	12.9						砂粒、白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄褐色	外内面ロクロ調整、底部ヘラケズリ。
15	9号遺構	L1地点	一括	92	土師器	土師器	坏							白色粒	やや甘い	にぶい黄褐色	外内面ロクロ調整、底面糸切り痕あり。縦刻土器 (7万1か)。
15	9号遺構	L1地点	点土層	87	覆土	土師器	坏	(13.2)	1/8					白色粒、雲母	良好	黄褐色	外内面ロクロ調整、指頭ナデ。
15	9号遺構	L1地点	点土層	37	覆土	土師器	坏	11.6	1/4					白色粒、雲母	良好	黄褐色	外内面ロクロ調整、指頭ナデ、外面底部ヘラケズリ。
15	9号遺構	L1地点	点土層	83	覆土	土師器	坏	(13.1)	1/8					白色粒、雲母、海綿	良好	灰黄褐色	外内面ロクロ調整、指頭ナデ、外面底部ヘラケズリ、内面縦位ヘラミガキ、黒色処理。
15	9号遺構	L1地点	点土層	76・117	覆土	土師器	坏	(13.2)	1/4					白色粒、雲母	良好	黄褐色	外内面ロクロ調整、内面ヘラミガキ、黒色処理。
15	9号遺構	L1地点	点土層	62・117	覆土	土師器	坏	(13.3)	1/8					白色粒、雲母	良好	暗灰黄褐色	内面ロクロ調整、内面縦位ヘラミガキ、黒色処理。
15	9号遺構	L1地点	点土層	63・64・65・67・77	覆土	土師器	坏	13.0	1/4	6.0	1/1	4.0		白色粒、雲母	やや甘い	黄褐色	外内面ロクロ調整、底面回転糸切り。縦付着。
15	9号遺構	L1地点	点土層	39	覆土	土師器	坏	(13.2)	1/8					白色粒、雲母	やや甘い	暗黄褐色	外内面ロクロ調整、内面ヘラミガキ。
15	9号遺構	L1地点	一括	92	覆土	土師器	坏	(6.6)	1/4					白色粒、雲母	良好	暗灰黄褐色	外内面ロクロ調整、底部回転ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、黒色処理。
15	9号遺構	L1地点	点土層	35	覆土	土師器	坏	(6.4)	1/4					白色粒	良好	暗灰黄褐色	外内面ロクロ調整、底部ヘラケズリ、内面黒色処理。
15	9号遺構	L1地点	点土層	2	覆土	土師器	大型坏	(15.3)	1/8					白色粒、雲母	良好	黄褐色	外面縦位、斜めヘラミガキ (擦過痕多い)、内面ヘラミガキ、底面ヘラケズリ、輪縁み痕。
16	9号遺構	L1地点	点土層	53・90	覆土	土師器	甕	(18.4)	1/8					白色粒、雲母	良好	灰黄褐色	外内面口縁部ヨコナデ、外面胴部縦位ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、底面指頭ナデ。
16	9号遺構	L1地点	点土層	68・107・108・109	覆土	土師器	甕	(21.6)	1/5					白色粒、雲母	良好	にぶい黄褐色	外内面ロクロ調整、外面口縁部ナデ、胴部縦位ヘラケズリ (擦過痕あり)、内面口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ。縦付着。
16	9号遺構	L1地点	点土層	9・12	覆土	土師器	甕	(13.8)	1/5					白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐色	外面下部縦位ヘラケズリ (擦過痕多い)、内面縦位ヘラミガキ後指頭ナデ。厚手で大型。
16	9号遺構	L1地点	点土層	58	覆土	土師器	甕	(6.6)	1/4					白色粒、雲母	良好	にぶい黄褐色	外面下部指頭ナデ、ヘラケズリ、内面ヘラミガキ後指頭ナデ。
16	9号遺構	L1地点	一括	79	須恵器	須恵器	甕							白色粒	良好	灰オリーブ	外内面平行明き。
16	9号遺構	L1地点	点土層	92・112	覆土	須恵器	甕							白色粒	良好	灰白	外面平行明き、ヘラミガキ、指頭ナデ。自然釉。
16	9号遺構	L1地点	一括	5	須恵器	須恵器	甕	(24.5)	1/4					白色粒	良好	黒	外面口縁部ヨコナデ、内面口縁部ヨコナデ、内面口縁部ナデ、胴部縦位ヘラケズリ、外面口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ、底面指頭ナデ、や太めの同心円状当て具痕。
16	9号遺構	L1地点	点土層	86	覆土	須恵器	甕							白色粒	良好	灰	外面口縁部ヨコナデ、胴部平行明き、一部分カキ目、内面上部指頭ナデ、胴部やや太めの同心円状当て具痕。
16	9号遺構	L1地点	点土層	3	覆土	須恵器	甕							白色粒、雲母	良好	灰白	外面平行明き、ヘラミガキ、指頭ナデ、指頭ナデ。
16	9号遺構	L1地点	点土層	81	覆土	須恵器	甕							白色粒	良好	黒褐色	外面平行明き、内面細かい同心円状当て具痕後指頭ナデ。
16	9号遺構	L1地点	点土層	4	覆土	須恵器	甕							白色粒	良好	灰白	外面平行明き、内面やや太めの同心円状当て具痕後指頭ナデ。自然釉。
16	9号遺構	L1地点	一括	99	覆土	須恵器	甕							白色粒、赤色粒、黒色粒	良好	灰	外面平行明き後カキ目、内面同心円状当て具痕。
16	9号遺構	L1地点	一括	10	覆土	須恵器	甕							砂粒	良好	灰	外面平行明き後カキ目、内面同心円状当て具痕。

図No.	遺構・遺物No.	地点名	取上げ方法	取上げNo.	層位	副別	器種	口径	口径残存	底径	底径残存	最大径	器高	土士・含有物	焼成	色調	調整等
16	9号遺構	L1地点	点上げ	13	覆土	須臾器	甕							白色粒	良好	灰白	外内面ヘラナズ。
16	9号遺構	L1地点	点上げ	11	覆土	須臾器	甕				1/4			白色粒	やや甘い	灰黄	外面ヘラケズリ、底面指ナデ回転直。
16	9号遺構	L1地点	点上げ	38	覆土	須臾器	甕							白色粒	良好	灰	外面平行叩き、一部指頭ナズ、内面裾位ヘラナズ後指頭ナズ。
17	9号遺構	L1地点	点上げ	97	覆土	須臾器	甕							白色粒、雲母	良好	灰	外面平行叩き、内面同心円状当て具直後指頭ナズ。
17	9号遺構	L1地点	一括	120	覆土	須臾器	甕							白色粒	良好	灰オリーブ	外面やや細めの平行叩き、内面細かい同心円状当て具直後指頭ナズ、外面軸。
17	9号遺構	L1地点	点上げ	32・73・98・110	覆土	須臾器	甕							白色粒	良好	灰	外面平行叩き（裾位）、内面同心円状当て具直後指頭ナズ、外面指頭直。
17	9号遺構	L1地点	点上げ	95	覆土	須臾器	甕							白色粒	良好	灰	外面やや細めの平行叩き、内面同心円状当て具直後指頭ナズ。
17	9号遺構	L1地点	点上げ	29・47・60・61	覆土	須臾器	甕							白色粒	良好	灰	外面平行叩き、内面同心円状当て具直後指頭ナズ、指頭ナズ。
17	9号遺構	L1地点	点上げ	115・116	覆土	灰釉陶器	壺			8.6	1/1			白色粒、雲母	良好	灰白	外内面口クロ調整、外面下部ヘラケズリ（擦過直）、底面回転ヘラケズリ。三角高台、長頸直、縷付直。
17	9号遺構	L1地点	点上げ	74	覆土	灰釉陶器	壺			6.8	1/3			白色粒	良好	灰白	底面回転指頭ナズ。高台。
17	9号遺構	L1地点	点上げ	57	覆土	灰釉陶器	壺							白色粒	良好	浅黄	
17	9号遺構	L1地点	点上げ	49	覆土	灰釉陶器	壺							白色粒、雲母	良好	浅黄	外面裾位ヘラケズリ、内面やや細めの同心円状当て具直一部指頭ナズ。全体に微い軸。
22	9号遺構	L1地点	点上げ	72	覆土	瓦	丸							白色粒、雲母	良好	明黄褐	裾位ヘラケズリ後指頭ナズ。535g。
22	9号遺構	L1地点	点上げ	50	覆土	瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	不良	明褐	細叩き（LR）。107.4g。
22	9号遺構	L1地点	点上げ	17	覆土	瓦	平							白色粒、雲母	不良	明黄褐	細叩き。73.2g。
22	9号遺構	L1地点	一括	118	覆土	瓦	丸							白色粒、雲母	良好	明黄褐	ヘラケズリ後指頭ナズ。144.5g。
22	10号遺構	L1地点	一括	16	覆土	土師器	环			6.6	4/5			白色粒、雲母	良好	にぶい黄褐	外内面口クロ調整、内面黒色処理、底面回転系切り。
22	10号遺構	L1地点	点上げ	10	覆土	土師器	环	13.2	1/2	6.3	1/1			砂粒、白色粒、雲母、細縷	良好	黄褐	外内面口クロ調整、底面回転系切り。
22	10号遺構	L1地点	点上げ	13	覆土	土師器	环	(13.0)	1/5	(7.0)	1/3		4.9	砂粒、白色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整、底面回転系切り。
22	10号遺構	L1地点	点上げ	12	覆土	土師器	环			(6.6)	3/5			白色粒、赤色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整、底面回転系切り。
22	10号遺構	L1地点	一括	1	覆土	土師器	环	(13.2)	1/6	(6.1)	1/5		2.9	白色粒、雲母	良好	にぶい黄褐	外内面口クロ調整、外面脚部、底面ヘラケズリ。
22	10号遺構	L1地点	点上げ	14	覆土	土師器	环			(6.0)	3/5			白色粒、赤色粒、雲母	良好	灰褐	外内面口クロ調整、底面回転系切り。
22	10号遺構	L1地点	点上げ	6	覆土	土師器	环			5.6	1/1			白色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整、底面回転系切り。
22	10号遺構	L1地点	点上げ	3	覆土	土師器	甕	(18.8)						白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄褐	外内面頭部ヨコナズ、外面脚部ヘラケズリ、内面脚部ヘラナズ。
22	10号遺構	L1地点	点上げ	3	覆土	須臾器	甕							白色粒、雲母	良好	浅黄褐	外面や広めの平行叩き、内面同心円状当て具直、指頭ナズ。
22	11号遺構	L1地点	点上げ	1	覆土	須臾器	环							白色粒	良好	浅黄	外面平行叩き、内面指頭ナズ。自然軸。
22	12号遺構	L1地点	点上げ	33	覆土	須臾器	环							白色粒	良好	灰	外内面口クロ調整。
22	12号遺構	L1地点	点上げ	46P5-1	覆土	須臾器	甕							白色粒、雲母	良好	灰	外面平行叩き、内面同心円状当て具直、指頭ナズ。やや脚直。
22	12号遺構	L1地点	点上げ	47P5-2	覆土	須臾器	甕							白色粒、雲母	良好	灰	外面平行叩き、内面同心円状当て具直、指頭ナズ。やや脚直。
22	12号遺構	L1地点	一括	30	覆土	細文土器	深鉢							白色粒、赤色粒、縷	良好	明黄褐	刻目の有る隆帯文。(条痕文系)。
22	12号遺構	L1地点	一括	21	覆土	細文土器	深鉢							砂粒、白色粒、雲母	良好	橙	内面ヘラナズ。沈縷文。(条痕文系)。
23	13号遺構	L1地点	一括	72P17	覆土	土師器	鉢	(12.8)						雲母	良好	にぶい橙	外面ヘラケズリ、内面口縁部ヨコナズ、脚部ヘラナズ。
23	13号遺構	L1地点	一括	58P14	覆土	土師器	环							白色粒、雲母	やや甘い	にぶい褐	外内面口クロ調整。
23	13号遺構	L1地点	一括	72P17	覆土	土師器	环							白色粒、雲母	良好	にぶい橙	外内面口クロ調整、指頭ナズ、底面回転系切り。
23	14号遺構	L1地点	一括	56P12	覆土	土師器	环	(12.4)	1/8					白色粒、雲母	良好	橙	外内面口クロ調整、口縁部ヨコナズ、脚部裾位と斜めヘラケズリ、内面口縁部ヨコナズ、脚部ヘラミガキ。
23	14号遺構	L1地点	一括	56P12	覆土	土師器	环			(6.0)				雲母	良好	にぶい橙	外内面口クロ調整、指頭ナズ、底面回転系切り。
23	14号遺構	L1地点	点上げ	67	覆土	須臾器	蓋环	(21.2)	1/8					雲母	良好	灰	外内面口クロ調整。
23	14号遺構	L1地点	点上げ	59	覆土	須臾器	蓋环	(16.6)	1/10					白色粒	良好	オリーブ黒	外内面口クロ調整。
23	14号遺構	L1地点	一括	56P12	覆土	須臾器	高台环		(10.6)	1/6				白色粒	良好	灰	外内面口クロ調整、底面ヘラケズリ。
23	14号遺構	L1地点	一括	8P1	覆土	須臾器	高台环	(8.1)	1/6					白色粒	良好	灰白	外内面口クロ調整。
23	14号遺構	L1地点	一括	68P16	覆土	須臾器	环		(6.0)	1/4				白色粒	良好	灰	外内面口クロ調整、底面回転ヘラケズリ。
23	14号遺構	L1地点	一括	8P1	覆土	灰釉陶器	瓦							白色粒	良好	オリーブ灰	外面平行叩き、内面同心円状当て具直、指頭ナズ。灰軸。
23	14号遺構	L1地点	点上げ	11P1	覆土	瓦	平							白色粒、雲母	良好	褐灰	外面指頭ナズ。67.8g。
23	14号遺構	L1地点	点上げ	3P1	覆土	瓦	平							白色粒、雲母	良好	にぶい黄褐	格子叩き。127.9g。
23	14号遺構	L1地点	一括	60	覆土	陶磁器	小皿	(10.8)	1/3					白色粒	良好	浅黄	古瀬戸緑軸。

図No.	遺構・遺物No.	地点名	取上げ方法	取上げNo.	層位	種別	器種	口径	口径残存	底径	底径残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整等
23	14号遺構	L1地点	一括	62		陶磁器	大甕	(34.4)						白色粒	良好	褐	常滑。
24	16号遺構	L1地点	一括	3		須恵器	蓋坏	(18.0)	1/10					白色粒	良好	にぶい黄	
24	16号遺構	L1地点	一括	3		須恵器	甕							白色粒	良好	灰白	外面平行叩き、内面同心円状当て具痕。
24	16号遺構	L1地点	一括	3		灰釉陶器	甕							白色粒	良好	灰オリーブ	外面軸、長頭磁、内面滑い軸。
24	16号遺構	L1地点	点上げ	2	覆土	瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐	細叩き。92.4g。
24	18号遺構	L1地点	一括	2	覆土	須恵器	甕			(8.8)				白色粒、雲母	良好	にぶい赤褐	外面平行叩き、一部ヨコナデ、内面縦斜位ヘラナデ後一部指頭ナデ。
24	20号遺構	L1地点	一括	12 P4		須恵器	高台坏							白色粒	良好	灰黄	外内面ロクロ調整。
24	21号遺構	L1地点	一括	6 P2		須恵器	甕							赤色粒、雲母	良好	褐灰	軸粘み痕。
24	21号遺構	L1地点	一括	6 P2		赤土器	環							雲母	良好	黄	外面頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、内面頸部ヨコナデ、三重口縁。
24	22号遺構	L1地点	一括	7 P3		土師器	甕	(12.4)	1/6					白色粒、赤色粒、雲母	良好	浅黄緑	外面縦位ヘラケズリ、内面細いハケ目。外面一部赤彩。脚部片。
24	22号遺構	L1地点	一括	7 P3		土師器	高坏							白色粒、赤色粒、雲母	やや甘い	黒	赤彩。
24	23号遺構	L1地点	一括	5		土師器	甕							白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄	外面縦位ヘラミガキ、内面指頭ナデ。
24	23号遺構	L1地点	一括	3		土師器	甕			(3.8)	1/4			白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄	外内面口縁部ヨコナデ、外面脚部縦位ヘラケズリ、内面縦位ヘラナデ、一部指頭ナデ。
24	23号遺構	L1地点	一括	4		土師器	甕							赤色粒、赤色粒、雲母	良好	黄	赤彩。
24	23号遺構	L1地点	一括	2		細文土器	深鉢							白色粒、赤色粒、雲母	良好	浅黄	軸之内式。
24	23号遺構	L1地点	一括	1		細文土器	深鉢							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄	外面縦位ヘラケズリ、内面縦位ヘラナデ、一部指頭ナデ。
24	23号遺構	L1地点	一括	P2		陶磁器	甕			(4.9)	1/6			白色粒	良好	にぶい赤褐	赤彩。
24	24号遺構	L1地点	一括	1		カワラケ	平							雲母	良好	浅黄緑	底面回転系切り。
24	24号遺構	L1地点	一括	1		須恵器	甕							白色粒、赤色粒、雲母	良好	灰	外面平行叩き、内面指頭ナデ。
24	24号遺構	L1地点	一括	1		瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母、 繊維	やや不良	黄	細叩き。110.7g。
24	24号遺構	L1地点	一括	1		細文土器	深鉢							砂粒、白色粒、雲母、 繊維	良好	黄	赤彩。
24	27号遺構	L1地点	一括	20 P15		細文土器	深鉢							繊維	良好	にぶい黄	赤彩。
24	27号遺構	L1地点	一括	17 P13		細文土器	深鉢							白色粒、繊維	良好	にぶい黄	内面指頭ナデ。赤彩。
24	27号遺構	L1地点	一括	14 P11		細文土器	深鉢							砂粒、雲母	良好	褐灰	内面ヘラナデ。赤彩。脚之内式。
24	27号遺構	L1地点	一括	22 P1		土師器	高坏	(7.4)	1/2	(4.2)				白色粒、赤色粒、雲母	良好	赤	外内面ヘラミガキ、脚部内面ハケ目、ヘラナデ、指頭ナデ。脚部内赤彩。
24	27号遺構	L1地点	一括	6 P4		カワラケ	甕							白色粒、赤色粒	良好	明黄褐	外内面ロクロ調整、底面回転系切り。火罨痕。
24	28号遺構	L1地点	一括	6 P4		陶磁器	甕							白色粒	良好	灰黄	内面指頭ナデ。軸かぶり、古瀬戸。
24	28号遺構	L1地点	一括	1		陶磁器	甕							白色粒	良好	灰黄	外面ヘラナデ、ヨコナデ。内面に軸かか。常滑。
24	28号遺構	L1地点	一括	1		須恵器	高台坏	(11.3)	1/16					白色粒	良好	灰	外面ヘラナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、脚内面ヘラケズリ後、指頭ナデ。 脚部穿孔有り。
25	その他	L1地点	一括	表採1		土師器	高坏							白色粒、雲母	良好	にぶい黄	
25	その他	L1地点	一括	表採4		土師器	環	(8.1)	1/3					白色粒、赤色粒、雲母	やや甘い	にぶい黄	外内面ロクロ調整、内面ヘラミガキ。
25	その他	L1地点	一括	表採1		土師器	環	(6.0)	1/4					雲母	良好	にぶい黄	外内面ロクロ調整、底面回転系切り。
25	その他	L1地点	一括	4号9		須恵器	甕							白色粒	良好	黄灰	外面縦位の波状文(2段)、折り返し口縁。
25	その他	L1地点	一括	表採1		須恵器	甕							白色粒	良好	灰	外内面ロクロ調整。灰かぶり。
25	その他	L1地点	一括	表採4		須恵器	甕							白色粒	良好	浅黄	外面縦位、内面同心円状当て具痕。自然軸。
25	その他	L1地点	一括	表採1		須恵器	甕							白色粒	良好	灰白	外面平行叩き、内面同心円状当て具痕後指頭ナデ。
25	その他	L1地点	一括	表採4		須恵器	甕							白色粒	良好	灰白	外面平行叩き、内面ヘラケズリ、ヘラナデ。
25	その他	L1地点	一括	表採4		須恵器	甕							白色粒	良好	浅黄	外面平行叩き、内面同心円状当て具痕後指頭ナデ。底右転用。
25	その他	L1地点	一括	表採3		須恵器	甕							白色粒	良好	灰黄	外面平行叩き、内面指頭ナデ。底右転用。
25	その他	L1地点	一括	表採1		須恵器	甕							白色粒	良好	淡黄	外面平行叩き、内面同心円状当て具痕後指頭ナデ。
25	その他	L1地点	一括	表採4		灰釉陶器	甕	8.0	3/5					白色粒	良好	灰黄	外面縦位ヘラケズリ、底面ナデ。一部に軸。長頭磁。
25	その他	L1地点	一括	4号51 P8		瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄	指頭ナデ。60.8g。
25	その他	L1地点	一括	4号52		瓦	丸							白色粒、赤色粒、雲母	やや不良	明黄褐	132.1g。
25	その他	L1地点	一括	4号15		瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	やや不良	明黄褐	細叩き(LR)。56.5g。
25	その他	L1地点	一括	4号39		瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄	やや細めの細叩き(LR)。44.6g。
25	その他	L1地点	一括	4号13		瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄	細叩き(LR)。142.6g。
28	1号遺構	L4地点	一括	1		土師器	環							白色粒	良好	にぶい黄	ロクロ調整、内面縦位ヘラミガキが残存している。

図No.	遺構・遺物No.	地点名	取上げ方法	取上げNo.	層位	種別	器種	口径	口径残存	底径	底径残存	最大径	器高	胎土・含有物	施成	色調	調整等
28	1号遺構	L4地点	一括			土師器	甕							雲母	やや甘い	にぶい黄	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラケズリ、指頭ナデ、楕付着。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	8	床直	土師器	環	13.1	9/10	5.8	1/1	4.4		白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐	外内面口縁部ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	9・26	床直	土師器	環	13.6	9/10	6.3	1/1	5.0		白色粒、赤色粒、雲母	良好	浅黄褐	外内面口縁部ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ。楕付着。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	25・29	覆土	土師器	環	(11.9)	1/4	5.7	1/1	4.7		白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄	外内面口縁部ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ。指頭直。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	13・27	覆土	土師器	環			7.1	1/1			白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄褐	外内面口縁部ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	18・19・34	覆土	土師器	甕	(13.8)	1/4					白色粒、赤色粒、雲母	良好	褐灰	外内面口縁部ヘラケズリ、外面指頭ナデ、内面ヘラケズリ。
28	2号遺構	L4地点	一括	7		土師器	甕	(20.0)	1/8					白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐	外内面口縁部ヨコナデ、外面指頭ナデ、内面ヘラケズリ、指頭直。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	16・42	覆土	土師器	甕	(22.0)	1/16					白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄	外内面口縁部ヨコナデ、外面指頭ナデ、内面指頭ナデ、指頭直。
28	2号遺構	L4地点	一括	7		土師器	甕	(20.7)						白色粒、赤色粒、雲母	やや甘い	灰褐	外内面口縁部ヨコナデ、外面指頭ナデ、内面ヘラケズリ。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	14・24・43	床直	土師器	甕			(6.0)	1/2			白色粒、赤色粒、雲母	やや甘い	にぶい黄	外面ヘラケズリ（擦過痕多い）、内面ヘラケズリ、底面ヘラケズリ。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	33・38・40	覆土	土師器	甕			(6.6)	4/5			白色粒、赤色粒、雲母	不良	にぶい黄	外面ヘラケズリ、内面指頭ナデ、外内面磨耗、剥落。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	30	覆土	須恵器	甕							白色粒、赤色粒、雲母	良好	明黄褐	外内面口縁部ヨコナデ、外面頸部平行向き、脚部縦位ヘラケズリ、縦位ヘラケズリ（擦過痕あり）、内面指頭ナデ、指頭直。輪郭み。脚上部に輪郭の把手をもつ。土師質。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	3	カマド	須恵器	甕							白色粒	良好	暗灰黄	外面平行向き。自然釉。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	44	覆土	瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	不良	明黄褐	細叩き (LR)。289.8g。
28	2号遺構	L4地点	点上げ	11	カマド	瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	やや不良	黄褐	細叩き (LR)。340g。
29	2号遺構	L4地点	一括	6	カマド	瓦	平							赤色粒、雲母	やや不良	にぶい黄	細叩き (LR)。151.3g。
29	2号遺構	L4地点	一括	1・5・54		縄文土器	深鉢							白色粒、雲母	良好	明褐	内面縦位ヘラミガキ。楕付文、沈線文。脚之内式。
29	2号遺構	L4地点	一括	24・48・57		縄文土器	深鉢							白色粒、雲母	良好	黄	内面ヘラミガキ。楕付文、沈線文。脚之内式。
29	2号遺構	L4地点	一括	10	土師器	高坏	高坏	(17.6)	1/3					白色粒、雲母	良好	明赤褐	外面口縁部ハケ目、脚部縦位ヘラケズリ、内面口縁部ヨコナデ、脚部ヘラケズリ、脚部内面ヘラケズリ。赤彩。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	土師器	高坏	高坏	(18.0)	1/10					白色粒、雲母	良好	黄	外面縦位ヘラミガキ、内面縦位ヘラミガキ。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	須恵器	高台杯	高台杯	(7.0)	1/6					白色粒、雲母	良好	黄灰	
29	3号遺構	L4地点	一括	1	カワラケ	カワラケ	カワラケ	(5.2)	1/6					白色粒、雲母	良好	にぶい黄	底面回転系切り。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	カワラケ	カワラケ	カワラケ	(4.8)	1/4					白色粒、雲母	良好	にぶい黄	底面回転系切り。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	カワラケ	カワラケ	カワラケ	(4.6)	1/5					白色粒、雲母	良好	にぶい黄	底面回転系切り。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	須恵器	甕	甕							白色粒	良好	黄灰	外面平行向き、内面同心円状当て具痕が薄く残る。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	須恵器	甕	甕							白色粒	良好	にぶい赤褐	外面平行向き、内面指ナデ。
29	3号遺構	L4地点	一括	11	須恵器	甕	甕							雲母	良好	黄灰	外面平行向きがわずかに残る。
29	3号遺構	L4地点	一括	18	須恵器	甕	甕							白色粒	良好	オリーブ褐	外面平行向き、内面同心円状当て具痕が薄くみられる。自然釉。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	灰釉陶器	壺	壺	(14.3)	1/3					白色粒	良好	灰オリーブ	外面全体に釉付着。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	灰釉陶器	深鉢	深鉢	(17.7)	1/21					白色粒、黒色粒	良好	浅黄	外面薄く釉付着。
29	3号遺構	L4地点	一括	14	縄文土器	深鉢	深鉢							繊維	良好	明褐	条痕文。
29	3号遺構	L4地点	一括	15	縄文土器	深鉢	深鉢							砂粒、白色粒、赤色粒、黒色粒、雲母	良好	褐灰	楕付文、沈線文。脚之内式。
29	3号遺構	L4地点	一括	19	縄文土器	深鉢	深鉢							白色粒、赤色粒、雲母	良好	黄	内面縦位ヘラミガキ。楕付文、沈線文。脚之内式。
29	3号遺構	L4地点	一括	16	縄文土器	深鉢	深鉢							白色粒、赤色粒、雲母	良好	褐灰	楕付文、沈線文。脚之内式。
29	3号遺構	L4地点	一括	12・47	縄文土器	深鉢	深鉢							砂粒、白色粒、赤色粒、雲母	良好	褐灰	楕付文、沈線文。脚之内式。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	カワラケ	カワラケ	カワラケ	(6.8)	1/12					白色粒	良好	にぶい黄	外面薄く釉付着。
29	3号遺構	L4地点	一括	17	土師器	壺	壺			8.9				砂粒、白色粒、雲母	良好	黄	外内面ヘラミガキ。赤彩。
29	3号遺構	L4地点	一括	4	瓦	瓦	瓦							白色粒、赤色粒、雲母	やや不良	にぶい黄	細叩き (RL) 後ヘラケズリ。163.9g。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	瓦	瓦	瓦							白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄	細叩き (LR)。163.5g。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	瓦	瓦	瓦							白色粒、雲母	やや不良	灰白	細叩き (LR)。164.2g。
29	3号遺構	L4地点	一括	1	瓦	瓦	瓦							白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄	細叩き (LR)。147.9g。
30	3号遺構	L4地点	一括	1	瓦	瓦	瓦							白色粒、雲母	良好	褐灰	細叩き (LR)。266.5g。

図No.	遺構・遺物No.	地点名	取上げ方法	取上げNo.	層位	種別	器種	口径	口径残存	底径	底径残存	最大径	器高	胎土・含有物	焼成	色調	調整等
30	4号遺構	L4地点	一括	3		須臾器	甕							白色粒、黒色粒	良好	灰黄	外内面ヨコナテ。
30	4号遺構	L4地点	一括	1		土師器	坏			6.3	4/5			雲母	良好	明黄褐	外内面ロクロ調整、内面黒色処理、ヘラミガキ、底面回転ヘラケズリ。
30	4号遺構	L4地点	一括	2		瓦	丸							白色粒、雲母	良好	黄	ヘラケズリ。92.8g。
30	4号遺構	L4地点	一括	1		瓦	軒平							白色粒	良好	黄灰	70.8g。
30	4号遺構	L4地点	一括	1		縄文土器	深鉢							白色粒、雲母、繊維	良好	明黄褐	茶灰文。
30	4号遺構	L4地点	一括	4		縄文土器	深鉢							雲母	良好	黄	貼付文、浅線文、堀之内式。
30	4号遺構	L4地点	一括	1		縄文土器	深鉢							白色粒	良好	黄	浅線文。堀之内式。
30	その他	L4地点	一括	1		須臾器	甕	(21.0)	1/12					白色粒、雲母	良好	黄灰	
30	その他	L4地点	一括	2		須臾器	甕							白色粒	良好	灰オリーブ	
30	その他	L4地点	一括	1		瓦	平							白色粒、赤色粒、雲母	良好	にぶい黄橙	細叩き(LR)。360g。

※以上のほか、実測外の出土瓦は、L1地点565.7g、L4地点1,300.9gである。

第3表 鉄製品・石製品・土製品観察表 (計測単位はmm)

図No.	遺構・遺物No.	地点名	取上げ方法	取上げNo.	層位	種別	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	備考
12	8号遺構	L1地点	点上げ	86	床直	鉄製品	釘	鉄	38			4.4	頭部正方形
12	8号遺構	L1地点	点上げ	45	覆土	鉄製品	釘	鉄	55			219	頭部円形
17	9号遺構	L1地点	点上げ	15	覆土	鉄製品	釘	鉄	32	6	6	5.0	
17	9号遺構	L1地点	点上げ	114	覆土	鉄製品	釘	鉄	43	6	6	3.1	
22	10号遺構	L1地点	点上げ	71	覆土	鉄製品	釘	鉄	38	10	9	10.6	
22	10号遺構	L1地点	一括	2		鉄製品	釘	鉄	46			5.0	頭部変形
24	24号遺構	L1地点	一括	1		石製品	砥石	砂岩	27	31	20	18.1	
25	その他	L1地点	一括			土製品		粘土	42	28	28	20.5	焼成良好、色調は橙。

第4表 鉄滓・炉壁出土表

No.	遺構	地点名	取上げ方法	取上げNo.	層位	種別	器種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	備考
1	8号遺構	L1地点	点上げ	42	覆土	炉壁	点上げ					257.9	PL.10
2	14号遺構	L1地点	一括		覆土	炉壁	一括					24.2	
3	11~14号遺構	L1地点	一括		覆土	炉壁	一括					1500	
4	その他	L1地点	一括		覆土	炉壁	一括					30.3	
5	3号遺構	L4地点	一括		覆土	鉄滓	一括	鉄				24.3	



L1地点調査前の状況(北東側から)



L1地点調査前の状況(北側から)



L1地点表土除去後の状況(北側から)



L1地点遺構調査状況(北側から)



L1地点遺構調査状況(南側から)



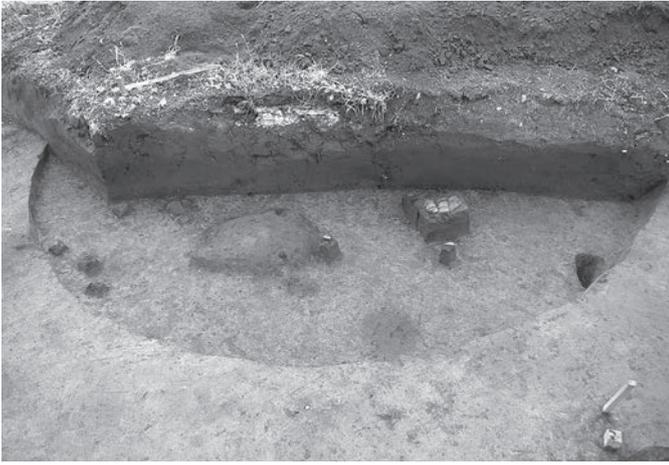
L1地点1号遺構



L1地点2号遺構



L1地点3号遺構



L1地点4号遺構



L1地点5号遺構



L1地点6・7号遺構



L1地点6号遺構



L1地点7号遺構



L1地点8号遺構 遺物出土状況



L1地点8号遺構



L1地点8号遺構 カマド



L1地点8号遺構 遺物出土状況(緑釉陶器把手付坏)



L1地点9号遺構



L1地点9号遺構 カマド



L1地点10号遺構



L1地点11号遺構



L1地点12号遺構(北側から)



L1地点12号遺構(東側から)



L1地点13・14号遺構(西側から)



L1地点9・13・14号遺構南側付近(南側から)



L1地点13・14号遺構(南側から)



L1地点15号遺構(調査状況)



L1地点15号遺構



L1地点16号遺構



L1地点17号遺構



L1地点21号遺構



L1地点23号遺構



L1地点24号遺構



L1地点25号遺構



L1地点26号遺構



L1地点27号遺構(北側から)



L1地点28号遺構(南側から)



L1地点28号遺構(北側から)



L1地点29号遺構



L4地点調査前の状況(北西側から)



L4地点全景(西側から)



L4地点全景(東側から)



L4地点全景(北側から)



L4地点1号遺構



L4地点2号遺構



L4地点2号遺構 カマド



L4地点3号遺構



L4地点4号遺構



L1地点8号遺構14



L1地点8号遺構12



L1地点10号遺構1



L1地点8号遺構13



L1地点8号遺構16



L1地点10号遺構2



L1地点8号遺構15



L1地点9号遺構1



L4地点2号遺構1



L1地点8号遺構42



L1地点9号遺構8



L4地点2号遺構2



L1地点8号遺構42



L1地点8号遺構42



L4地点2号遺構3



L4地点2号遺構4

L1地点1号遺構



1



2



3



6



7



4



5



8



9



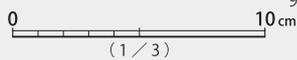
10



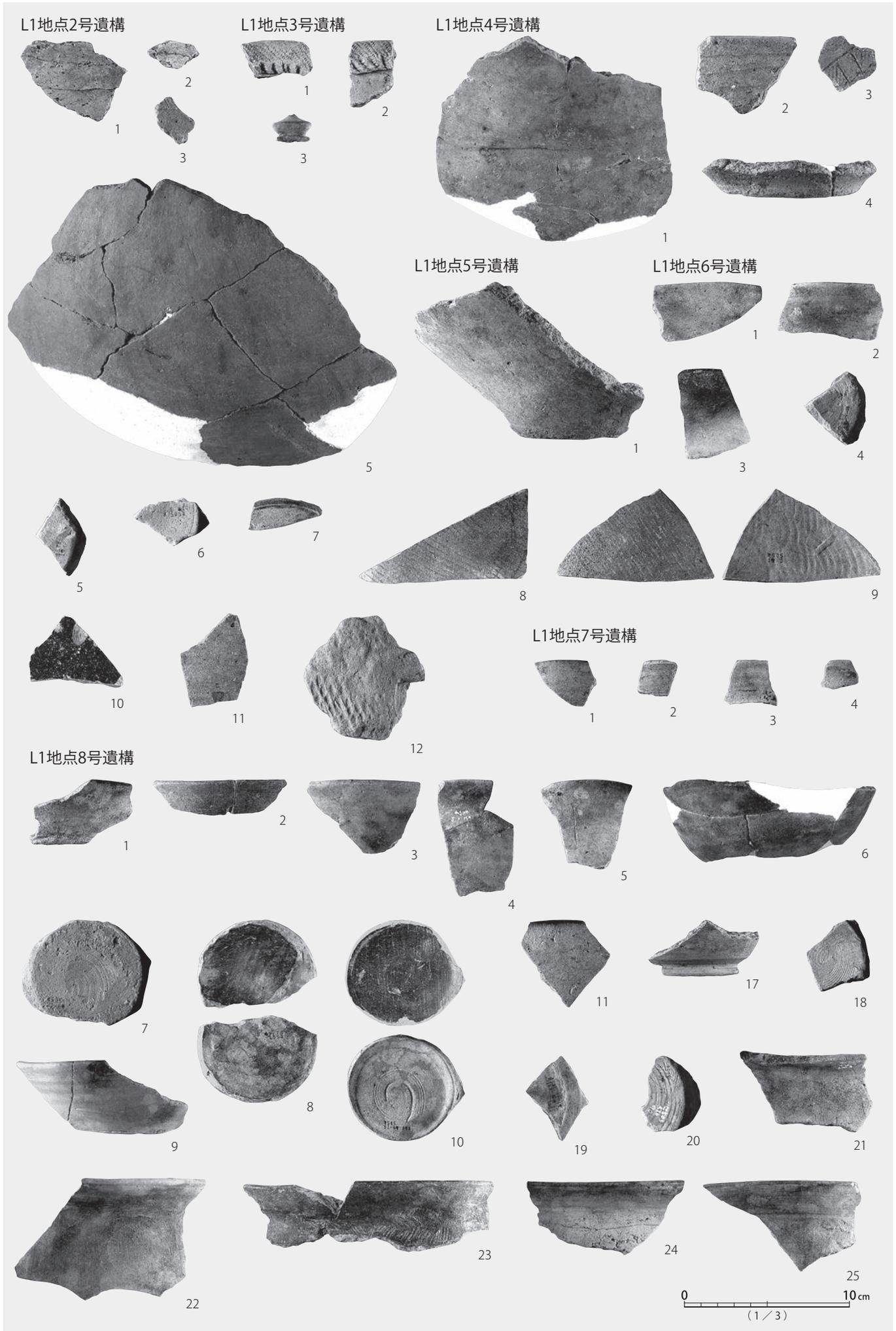
11



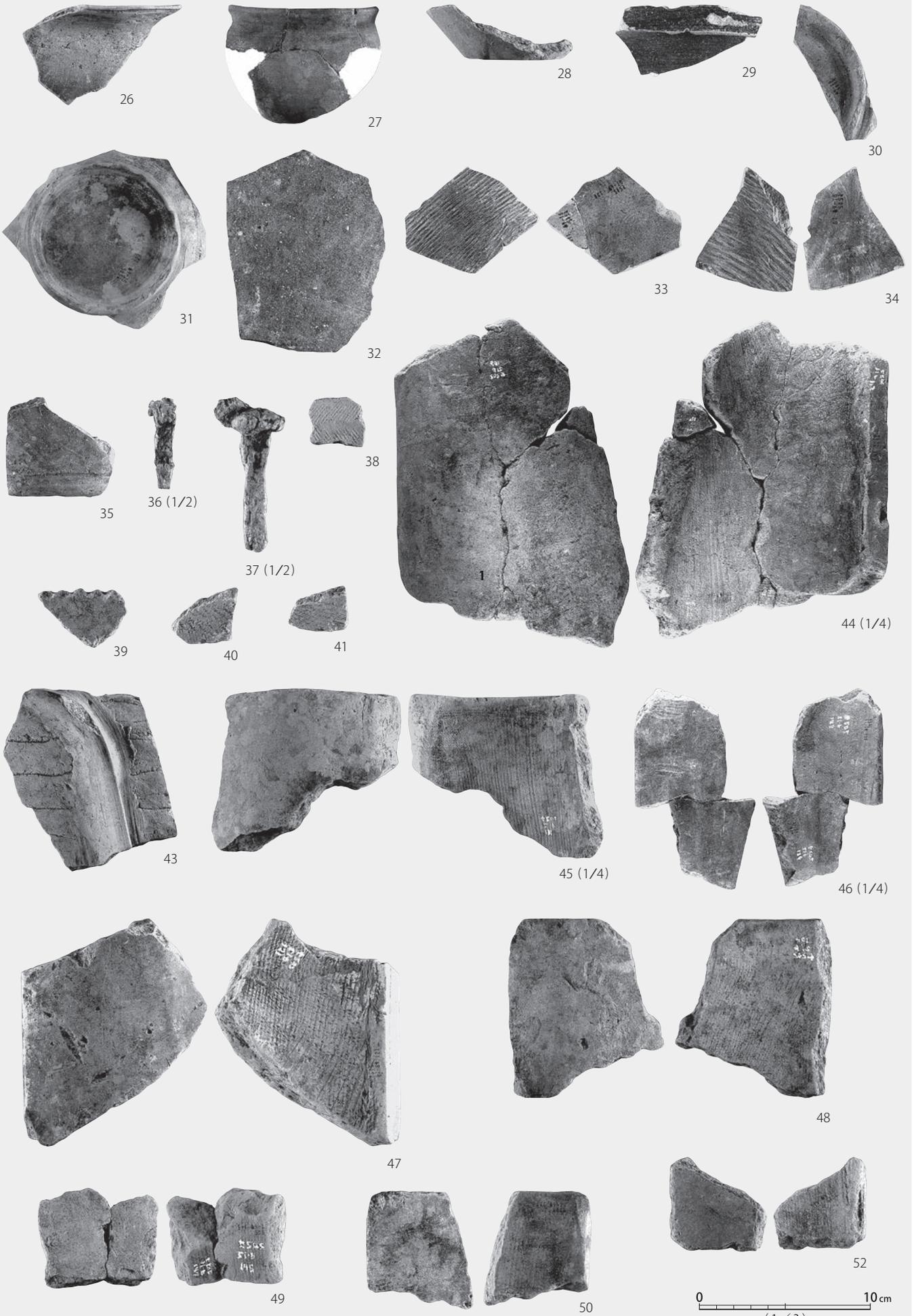
12



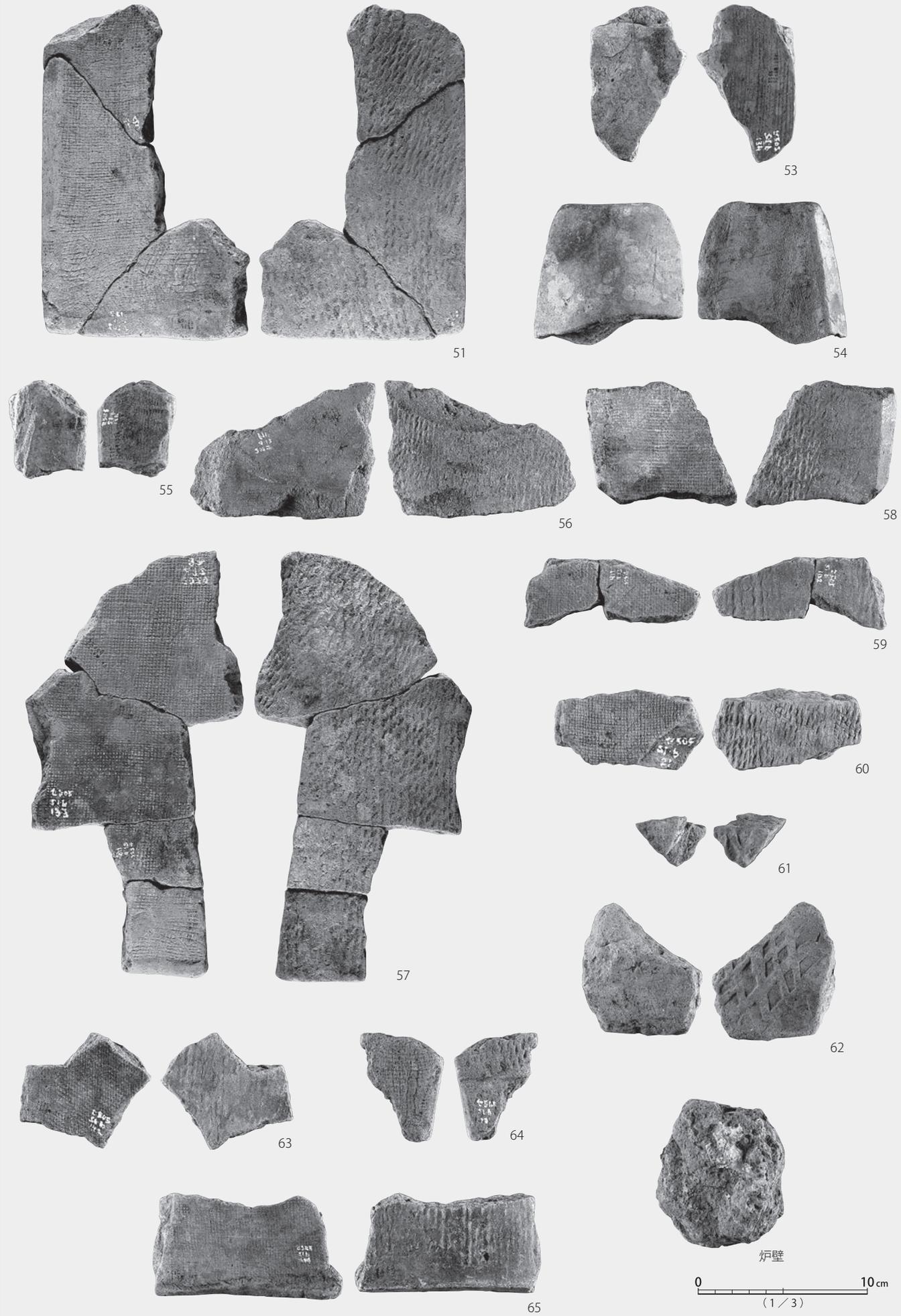
(1/3)



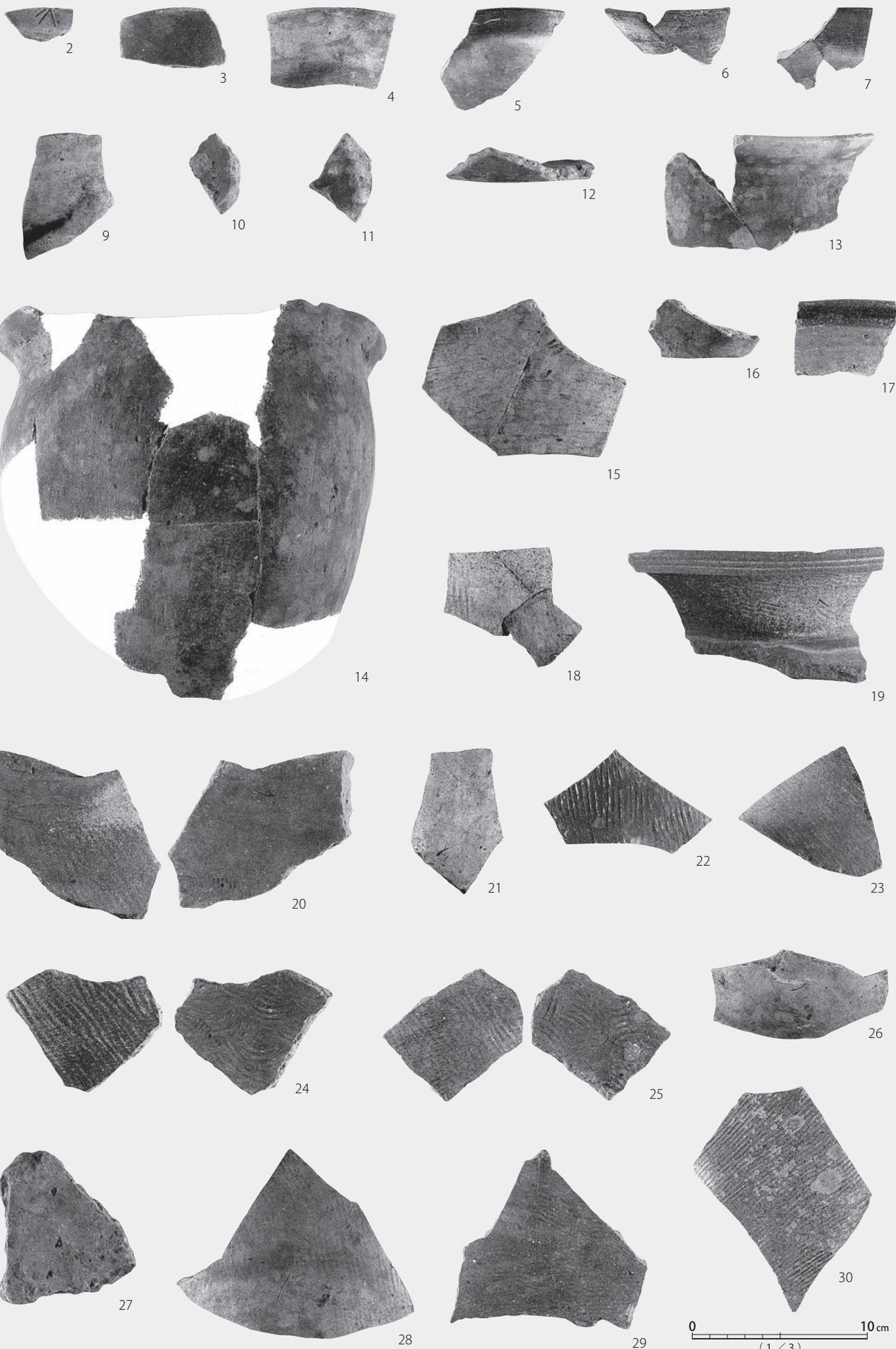
L1地点8号遺構



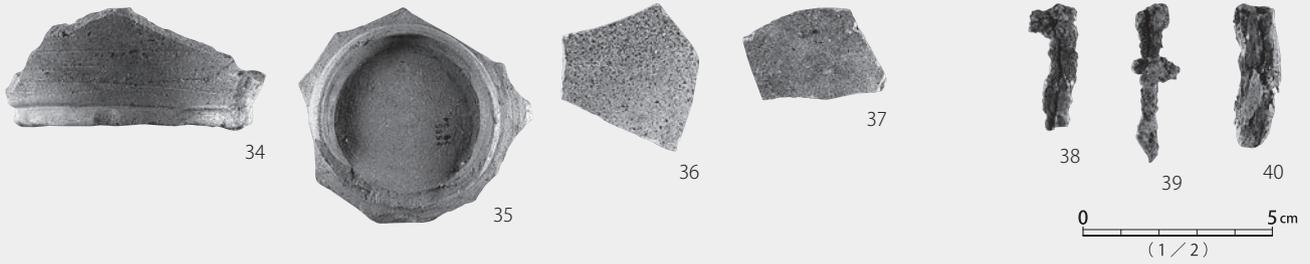
L1地点8号遺構



L1地点9号遺構



L1地点9号遺構



L1地点10号遺構



L1地点11号遺構

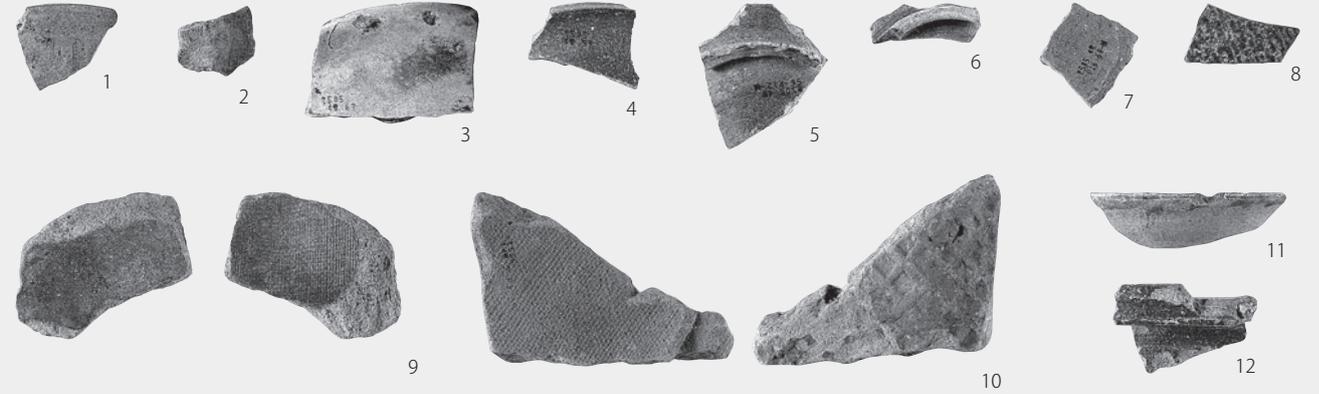
L1地点12号遺構



L1地点13号遺構



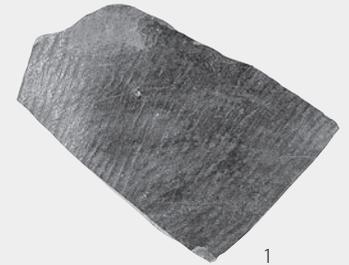
L1地点14号遺構



L1地点16号遺構



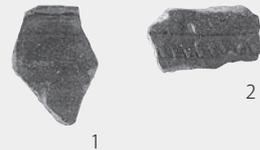
L1地点18号遺構



L1地点20号遺構



L1地点21号遺構



L1地点22号遺構



L1地点23号遺構



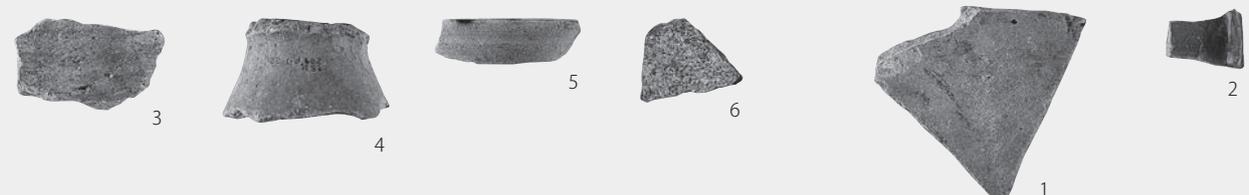
L1地点24号遺構



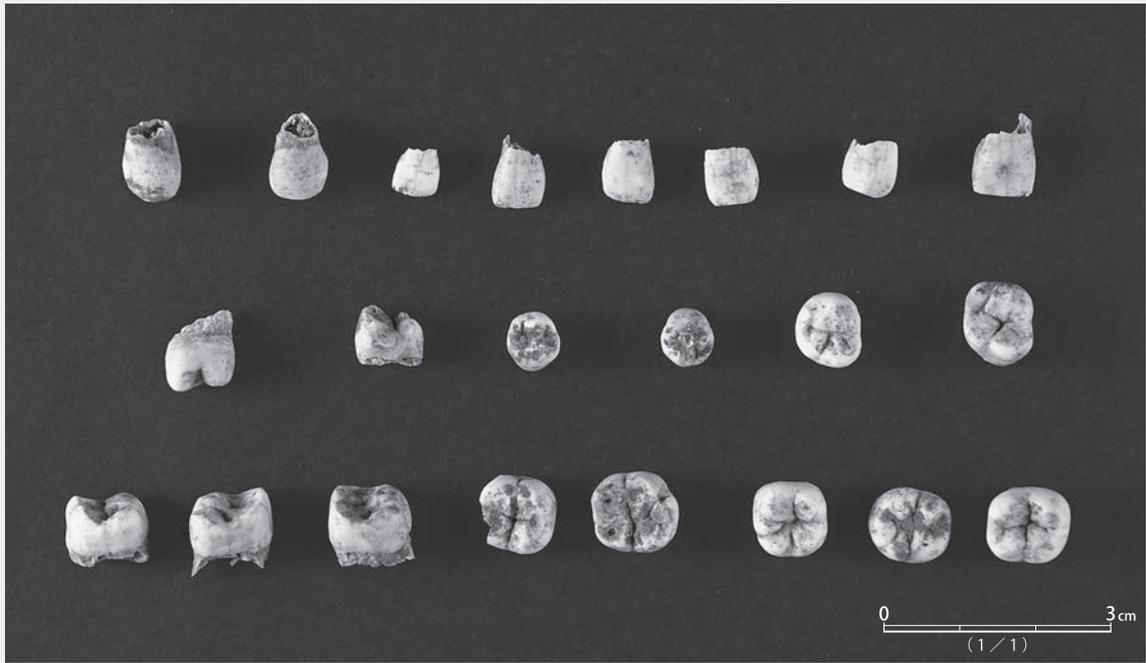
L1地点27号遺構



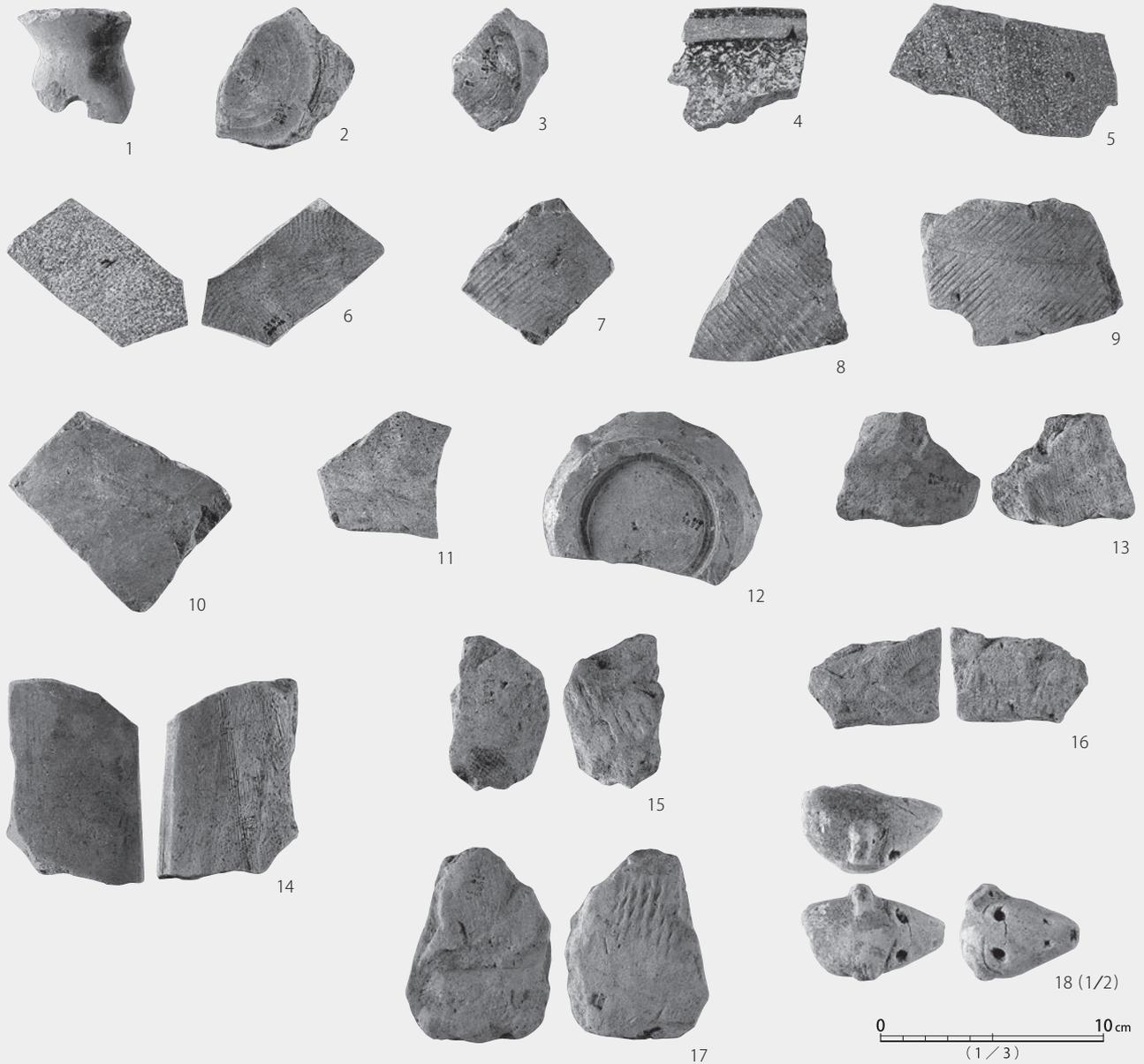
L1地点28号遺構



L1地点26号遺構

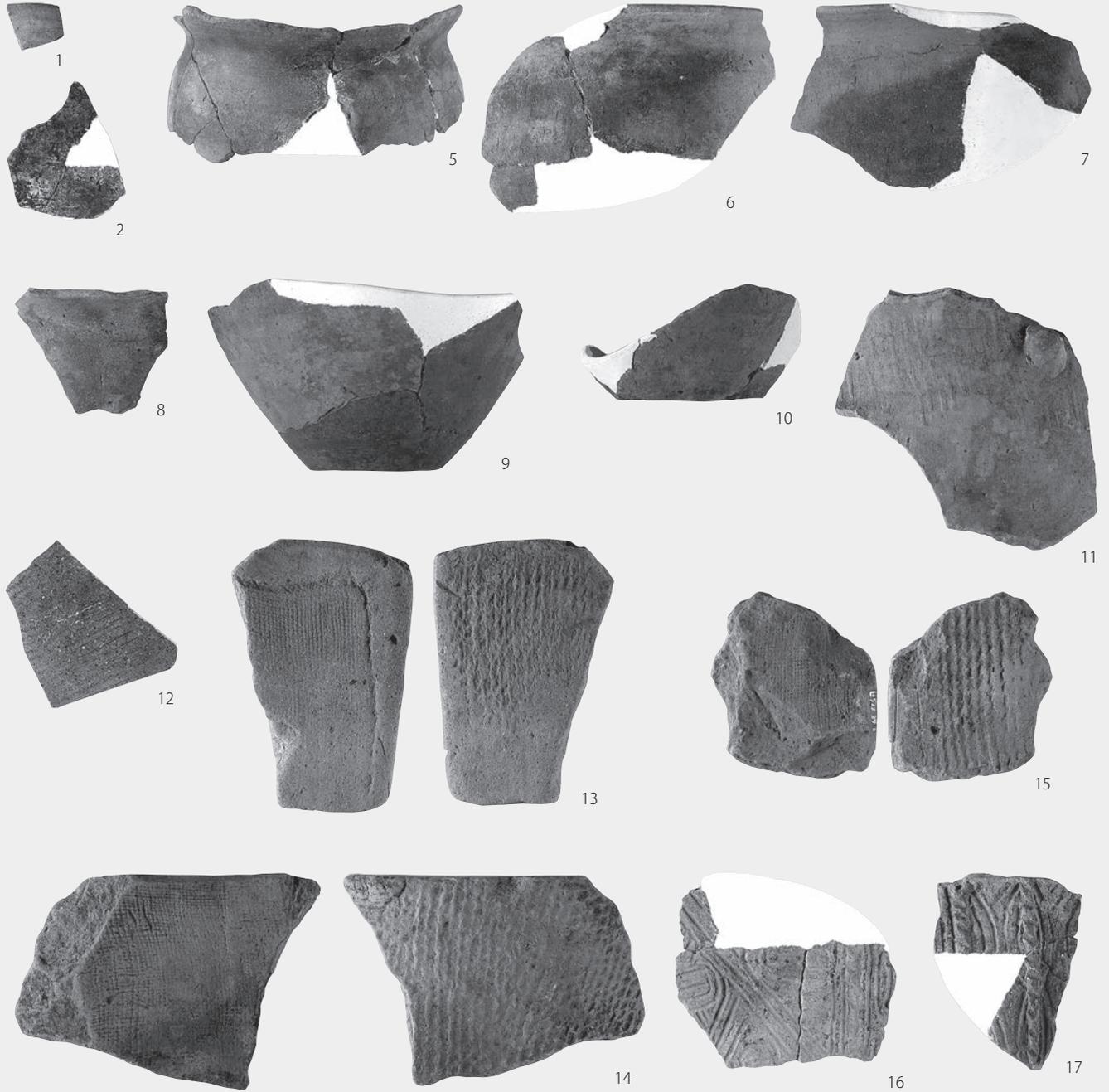


L1地点その他



L4地点1号遺構

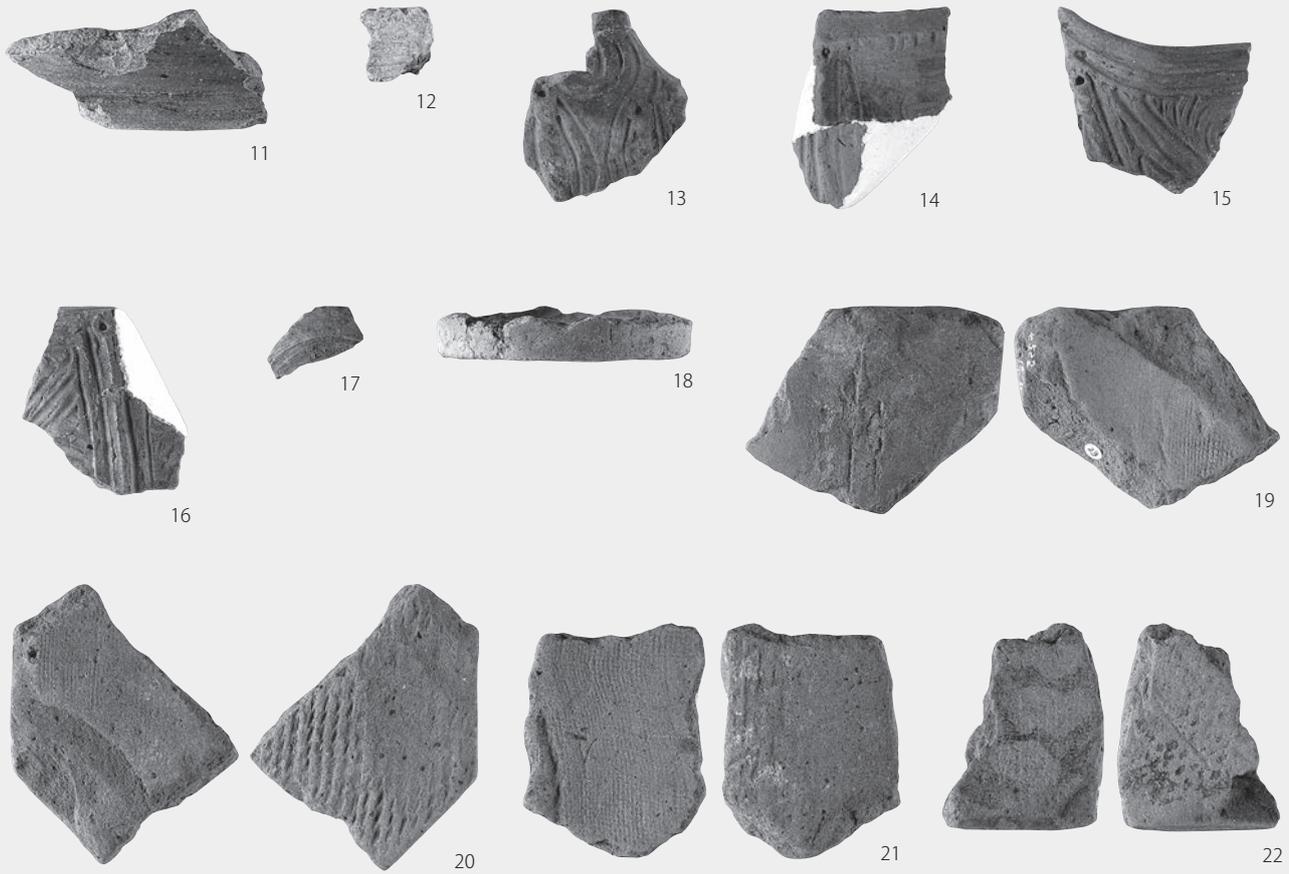
L4地点2号遺構



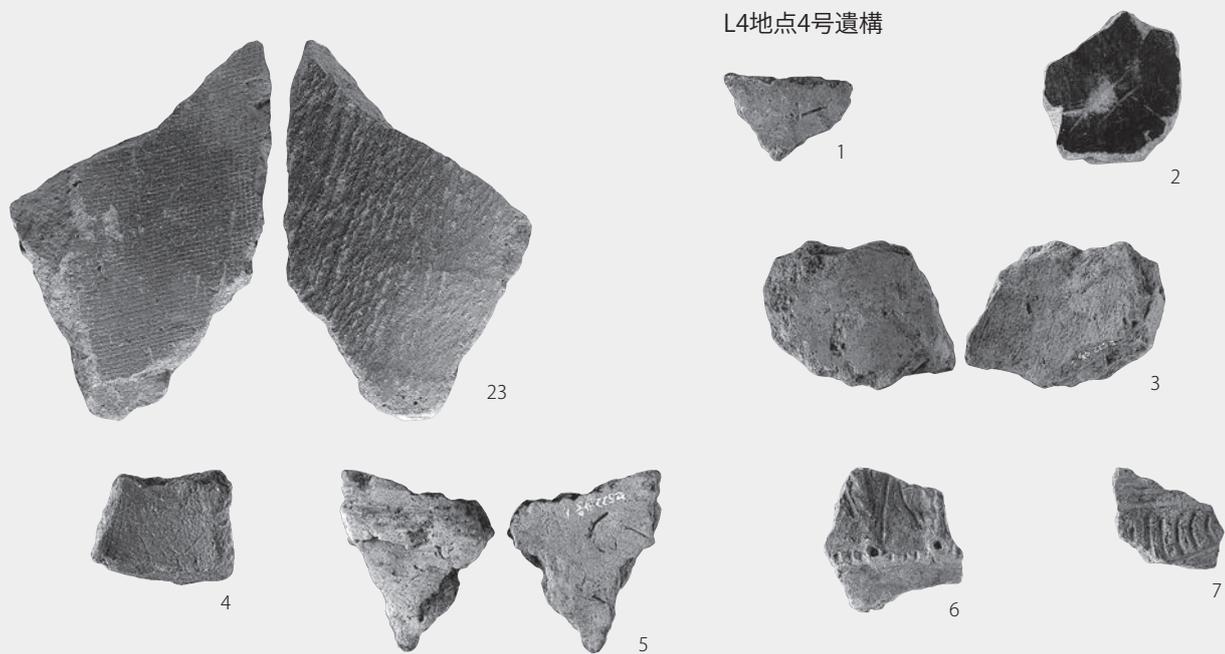
L4地点3号遺構



L4地点3号遺構



L4地点4号遺構



L4地点その他



## 報告書抄録

ふりがな	いちほらしいなりだいいせきえるいち・えるよんちてん							
書名	市原市稲荷台遺跡L1・L4地点							
副書名								
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第33集							
編著者名	田中清美							
編集機関	市原市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436 (41) 9000							
発行年月日	2015年2月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
いなりだいいせき 稲荷台遺跡 (L1地点)	ちほけんいちほらしい 千葉県市原市 やまだぼし 山田橋3丁目11番18ほか	12219	792	35° 30′ 22″	140° 07′ 20″	20121016 ～ 20121105	337㎡ 本調査	宅地造成
いなりだいいせき 稲荷台遺跡 (L4地点)	ちほけんいちほらしい 千葉県市原市 やまだぼし 山田橋3丁目11番37の一部	12219	792	35° 30′ 23″	140° 07′ 20″	20140114 ～ 20140128	25㎡ 本調査	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
いなりだいいせき 稲荷台遺跡 (L1地点)	包蔵地	弥生・古墳 平安 中世	竪穴建物跡10軒 掘立柱建物跡5棟 土坑11基 ピット群1ヶ所 溝2条	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 灰釉陶器、緑釉陶器、 瓦、鉄釘、人歯、 中世陶器、カワラケ、土製品		弥生時代後期から古墳時代前期の集落と 平安時代の集落、中世のピット群、溝など。 出土遺物では、平安時代の緑釉陶器 把手付坏が類例のない優品である。		
いなりだいいせき 稲荷台遺跡 (L4地点)	包蔵地	平安 中世	竪穴建物跡2軒 土坑2基	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 灰釉陶器、瓦、 カワラケ		性格は不明だが中世とみられる大型の 土坑がある。		
要約	稲荷台遺跡の北端に位置するL地点について、2ヶ所（L1・L4地点）の調査を実施した。検出した遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡、平安時代の集落跡と中世のピット群、溝などである。特に、平安時代の遺構から出土した緑釉陶器把手付坏は、他に例のない特殊な優品である。平安時代の遺構は、国府関連遺跡とみられるE地点と時期的にも一致することから、当地点の利用形態が注目される。							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第33集

### 市原市稲荷台遺跡L1・L4地点

平成27年2月20日発行

編集 市原市埋蔵文化財調査センター  
市原市能満1489

発行 千葉県市原市教育委員会  
市原市国分寺台中央1-1-1

印刷 株式会社正文社  
千葉市中央区都町1-10-6

